鹿屋市男女共同参画に関する市民意識調査

報　　告　　書

鹿　　屋　　市

平成 24 年 11 月

目　　次

Ⅰ　調査の概要 ・・・・・・・ 1

1　調査目的
2　調査方法
（1） 調査対象者
（2） 抽出方法
（3） 調査期間
（4） 調査方法
3　回収結果
4　集計上の留意点

Ⅱ　調査結果の概要 ・・・・・・・・ 2

1　男女平等意識について
2　家庭生活について
3　就労について
4　高齢者介護について
5　女性の政策参画について
6　配偶者等からの暴力について
7　暴力防止や被害者支援について

Ⅲ　調査結果 ・・・・・・・・ 6

1　回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
2　男女平等意識について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（1） 各分野における男女の平等感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（2） 社会全体で見た場合の男女の地位の平等意識・・・・・・・・・・・・・・ 17
（3） 今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職・・・・・・・・・・・・ 19
3　家庭生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（1） 家庭での主な役割分担・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（2） 結婚、家庭、離婚について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
（3） 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に賛成の理由・・・・・・・・・ 28
（4） 「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方について現実と希望・・・ 29

（５） 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
４　就労について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（１）女性が仕事をもつことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（２）女性が仕事をもつことについて、「仕事を一時的に辞める」を選んだ理由・・・ 38
（３）性別による処遇の異なりについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
５　高齢者介護について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
（１）高齢者介護について今後必要なこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
６　女性の政策参画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
（１）方針や政策の決定時における女性の意見の反映度・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
（２）政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由・・・・・・・・・・・ 44
７　配偶者等からの暴力について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
（１） 配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）や相談窓口について・・・・・・・・・・・・・ 45
（２） 配偶者等からの被害経験について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
８　暴力防止策や被害者支援について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
（１）男女間における暴力をなくすために必要なこと・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
（２）メディアにおける性・暴力表現についての考え・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
９　各質問（その他）の意見について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
10　男女共同参画に関する意見・要望等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

本調査は、平成１９年度の意識調査以降、男女共同参画社会に向けた取組が進む中、市民の意識と実態がどのように変化してきているか把握するとともに、配偶者等からの暴力防止及び被害者支援に関する計画の策定に向けて今後の施策を検討するための基礎資料とするものである。

２　調査方法

(1)　調査対象者　鹿屋市居住の 20 歳以上の男女 2,500 人
(2)　抽出方法　　鹿屋市住民基本台帳から無作為抽出
(3)　調査期間　　平成 24 年５月 23 日(水)～平成 24 年６月 10 日(日)
(4)　調査方法　　調査票による本人記入方式(郵送配布回収法)

３　回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	2,500 人	1,205	48.2%

４　集計上の留意点

(1)　集計結果は百分率で算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
(2)　複数回答の場合は、有効回答者実数より高くなっている場合がある。
(3)　集計表中に、「年代」「性別」等の区分けをしているが、各区分に未記入データが含まれているため各区分の小計と、合計の数値が異なる場合がある。

【参考】本報告書で結果を引用した過去の調査
(1)　平成 19 年度「男女共同参画に関する住民意識調査」鹿屋市
(20 歳以上の男女 2,500 人　有効回収数 1,108 人)
(2)　平成 21 年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
(20 歳以上の男女 5,000 人　有効回収数 3,240 人)
(3)　平成 23 年度「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
(20 歳以上の男女 5,000 人　有効回収数 3,293 人)

Ⅱ　調査結果の概要

Ⅱ　調査結果の概要

1　男女平等意識について

様々な分野における男女の地位の平等意識をみると、全体では、「平等である」の割合は、「学校のなかで」42.7％と最も高く、次いで「家庭のなかで」38％、「法律や制度上」30.8％、「職場のなかで」25％の順となっている。

一方、「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、「社会通念、慣習・しきたりなどで」54％が最も高く、次いで「職場のなかで」37.2％、「地域社会のなかで」36.1％、「家庭のなかで」34.2％の順となっている。

「平等」と答えた人より「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合が高くなっているのは、「社会通念、慣習・しきたりなどで」と「地域社会のなかで」と「職場のなかで」の３分野となっており、この分野の不平等感が依然として根強く残っていると考えられる。

前回の調査（平成 19 年）と比較するとほとんどの分野で、「平等である」がわずかではあるが増加している。

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識をみると、全体では、「男性の方が非常に優遇されている」5.8％と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」57％を合わせた 62.8％の「男性優遇」が、「女性のほうが非常に優遇されている」0.7％と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」8.7％を合わせた 9.4％の「女性優遇」を 53.4 ポイント上回っている。

今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職意識をみると、全体では、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」45％が最も多く、次いで「都道府県、市町村の首長」35.3％、「企業の管理職」33.8％、「国家公務員・地方公務員の管理職」30.5％の順となっている。

2　家庭生活について

家庭における役割分担状況については、「食事の準備」をはじめ９項目のうち、妻より夫の割合が高いのは、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」34.9％と「集落や町内会などの地域活動への参加」24.6％のみである。

前回の調査（平成 19 年）と比較するとほとんどについて「主に妻」がわずかに減少しているが依然として家庭における妻の負担が大きいことが伺える。

結婚、家庭、離婚についての考え方については、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」に賛成の割合は 70 歳以上を除き、すべての年代において 5 割以上を占め、なかでも 20 歳代から 40 歳代については、7 割を超えている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に肯定的な意見は、36.1％で前回調査（平成 19 年）の 40.2％と比較し、4.1 ポイント減少している。このことから固定的な役割分担意識が少しずつ変化しつつあることが伺える。

「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の現実について

みると、全体では、「仕事」と「家庭生活」28.7%の割合が最も高く、次いで「仕事」18.2%、「家庭生活」17.3%の順となっている。

これを性別にみると、女性は男性より「家庭生活」の割合が高くなり、男性は女性より「仕事」の割合が高くなっている。

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」64.6%が最も高く、次いで「子どもに対して、家事などを性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」51.3%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」37.8%の順となっている。

3　就労について

女性が仕事をもつことについてみると、全体では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」を答えた人が 41.9%と最も多く、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」が 33.8%となっている。前回調査（平成 19 年）と比較すると「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が減少し、「子どもができてもずっと職業をもつ方がよい」が増加している。

性別でみると「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた割合は女性の方が高いことから、女性自身も育児は女性がすべきものという意識があることが伺える。

また、女性が一時的に仕事を辞めることを選んだ理由についてみると、「家事・育児に専念したいから」74.6%の割合が最も高く、次いで「職場の慣行や雰囲気で仕事を続けることはできないから」18.8%の割合となっている。

職場での性別による処遇の異なりについてみると全体では、「特に性別により処遇が異なっていることはない」44.5%の割合が最も高く、次いで「賃金に格差がある」が 22.6%、「女性に補助的な業務や雑用に従事させる傾向がある」が 20.9%となっている。

4　高齢者介護について

高齢者介護について今後必要なことをみると、全体では、「デイサービスやショートステイなどの在宅介護を支援する行政サービスの充実」46.8%の割合が最も高く、次いで「介護施設の増設・充実」40.2%、「介護保険制度の充実」38.5%となっている。

これを性別にみると「男性の介護参加」（男性：17%、女性：21.2%）において女性の割合が男性より高くなっている。

5　女性の政策参画について

方針・施策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、全体では、「反映されている」の割合（職場で：45.2%、地域社会で：39.9%）が「反映

されていない」の割合（職場で：21.3%。地域社会で：26.2%）を上回っている。
これを性別にみると、すべての項目において、「反映されている」と感じる人の割合は、男性が女性を上回っている。
職場や地域社会では意見の反映度は高いが、国政や県政の場では低いという結果となっている。
政策の企画や方針決定過程に女性が進出していない理由をみてみると、全体では、「男性優位の組織運営」56.1%の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」40.7%となっている。
これを性別にみると、「女性の活動を支援するネットワークの不足」において、女性31%の割合が男性23.9%の割合より高くなっている。

6　配偶者等からの暴力について
配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律の認知度をみてみると、全体では、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」63.9%の割合が最も高く、次いで「法律があることもその内容も知っている」24.3%の順となっている。
これを性別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」において、男性29.7%の割合が女性20.5%の割合より高くなっている。
配偶者等からの暴力について相談窓口の認知度をみてみると、全体では、「警察」74.4%の割合が最も高く、次いで「市役所」39.2%、「弁護士」27.6%の順となっている。
夫婦間の暴力についての考え方をみると、すべての項目で「暴力にあたる」割合が「暴力にあたるとは思わない」を上回っており、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど」と「何を言っても長時間無視し続ける、大声でどなる、なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、だれのおかげで生活できるんだとか、かいしょうなしと言う」は 8 割を超える人が「暴力にあたる」と回答している。
配偶者等からの被害経験の有無についてみると、全体では、「大声でどなられた」において「1,2 度あった」と「何度もあった」を合わせて 37.3%の割合が最も高く、次いで「相手に何を言っても無視された」24.5%、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた」17.8%の順となっている。
これを性別にみると「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた」について女性23.7%、男性10%、「人格を否定するような暴言や、恐怖を感じるような脅迫を受けた」について女性20.2%、男性8.8%と答えている。
暴力や嫌がらせ等の行為を受けたときどうしたかについてみると、全体では「言い返した・抵抗した・反撃した」47.3%の割合が最も高く、次いで「口をきかないようにした」34.8%、「時間が過ぎるのをただ待っていた」29.7%の

順となっている。
　暴力や嫌がらせ等の行為をした相手をみると、全体では、「夫婦」69.8%の割合が最も高くなっている。
　暴力や嫌がらせ等の行為をした相手は、子どもへ同じような暴力行為が「あった」の割合は、全体の18.5%となっている。
　暴力や嫌がらせ等の行為を受けた経験がある人の相談先をみると、全体では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」54.5%が最も高く、次いで「友人や知人に相談した」17.7%、「家族や親戚に相談した」16%の順となっている。
　どこ（だれ）にも相談しなかった理由をみると、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」65.2%の割合が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」30.8%、「自分さえ我慢すればなんとかやっていけると思ったから」19.7%、「相談しても無駄だと思ったから」15.7%の順となっている。
　最初に暴力や嫌がらせ等の行為を受けたのはいつかをみると、全体では「結婚してから」52.7%の割合が最も高く、次いで「交際中」11.7%の順となっている。
　最初に暴力や嫌がらせ等の行為を受けたときどうしたかについてみると、全体では、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」37.2%の割合が最も高く、次いで「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」29.7%、「相手と別れた」7.7%の順となっている。
　別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった理由をみると、全体では、「経済的な不安があったから」16.3%の割合が最も高く、次いで「世間体を気にしたから」と「相手には自分が必要だと思ったから」は共に、13.5%、「これ以上は繰り返されないと思ったから」12.9%の順となっている。
　暴力や嫌がらせ等の行為を受けて命の危険を感じたことがあるかをみると、全体では、「感じた」8.9%、「感じなかった」89.9%となっている。

7　暴力防止や被害者支援について
　男女間における暴力をなくすためにはどうしたらよいかをみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」54.6%が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力防止のための教育を行う」48.8%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力防止のための教育を行う」46.2%、「加害者への罰則を強化する」41.7%の順となっている。
　テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現についてどう思うかをみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」48.4%の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」47.8%、「性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」41.1%の順となっている。

Ⅲ　調査結果

Ⅲ　調査結果

１　回答者の属性

調査回答者の性別構成比は、男性が 43%、女性が 56.3%であった。

年代別構成比は、全体では、「50 歳代」24.1%の割合が最も多く、次いで「60 歳代」21.9%、「40 歳代」16.3%、「30 歳代」15.2%の順となっている。

これを性別にみると、男性は、「50 歳代」24.5%の割合が最も多く、次いで「60 歳代」23.7%、「70 歳以上」と「30 歳代」は共に 14.9%、「40 歳代」13.1%の順となっている。女性は、「50 歳代」23.7%の割合が最も多く、次いで「60 歳代」20.8%、「40 歳代」18.9%、「30 歳代」15.6%の順となっている。

未既婚の構成比は、全体では「結婚している」71.6%の割合が最も多く、次いで「結婚していない」14.9%、「結婚していたが、死別離別した」12%の順となっている。

子どもの有無についてみると、全体では「いる」77.3%の割合が最も多く、「いない」は 21.7%となっている。

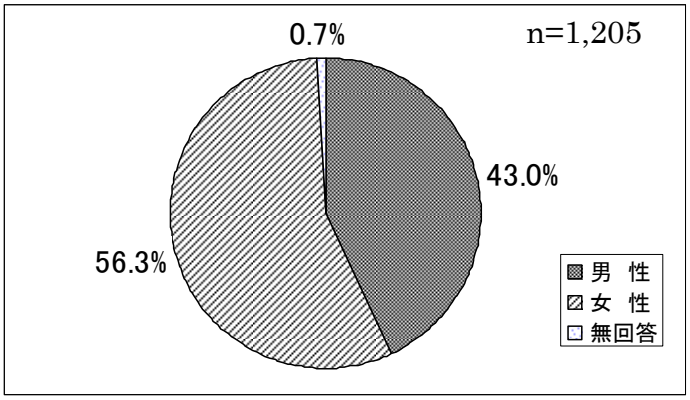
職業の構成比についてみると、全体では「常勤の勤め人」33.1%の割合が最も多く、次いで「無職」19.3%、「非常勤の勤め人」16.1%、「専業主婦・専業主夫」14.6%の順となっている。

これを性別にみると、男性は「常勤の勤め人」45.4%の割合が最も多く、次いで「無職」24.5%、「自営業・自由業」12.2%、「農業・林業・漁業の自営業」7.5%の順となっている。女性は「専業主婦」25.8%の割合が最も多く、次いで「常勤の勤め人」24.2%、「非常勤の勤め人」22.9%、「無職」15.6%の順となっている。

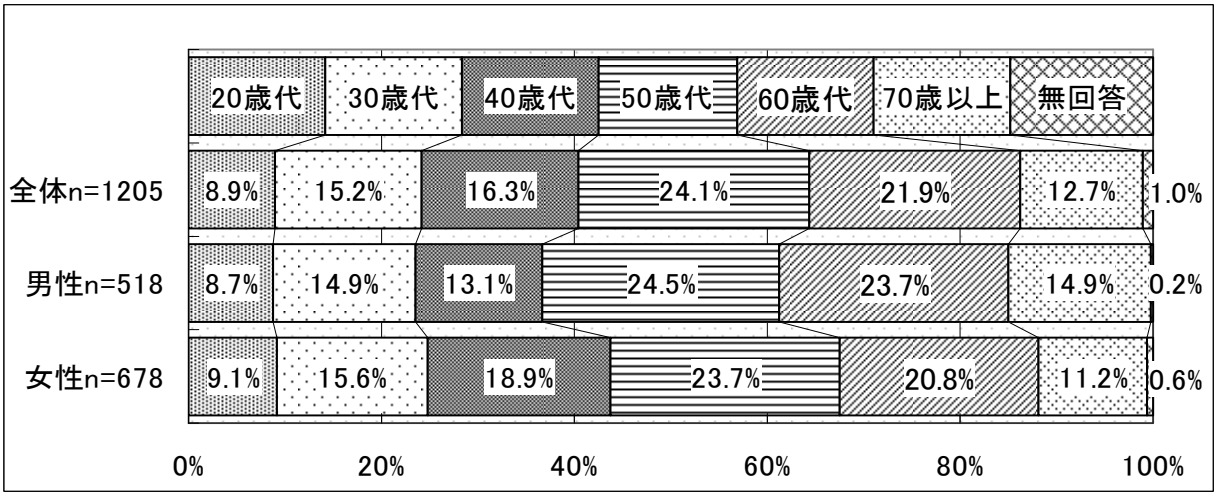
回答者 1,196 人の属性は、以下の通り。

〔Ｆ１〕　性別

	サンプル数	男性	女性	無回答
全体	100.0%	43.0%	56.3%	0.7%
	1,205	518	678	9

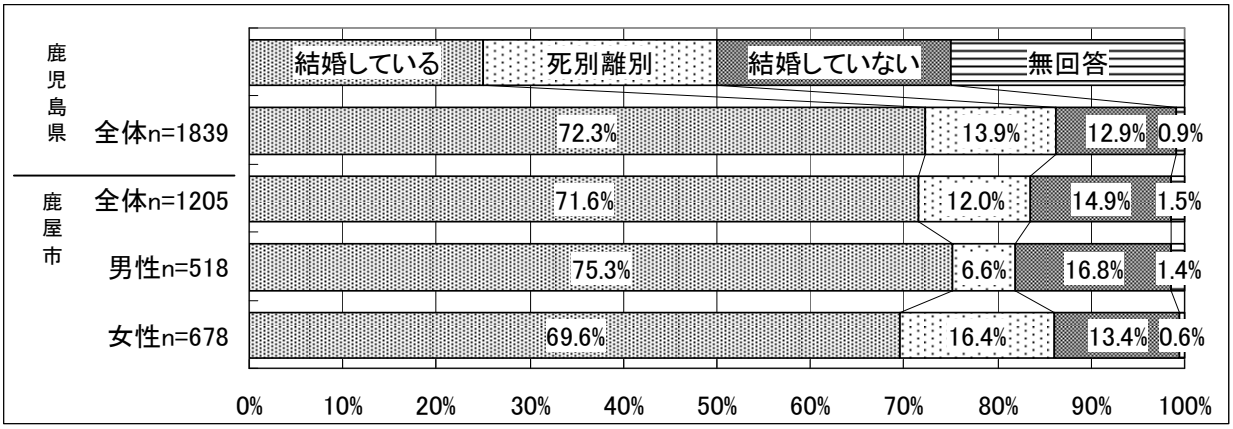


〔Ｆ２〕　年齢



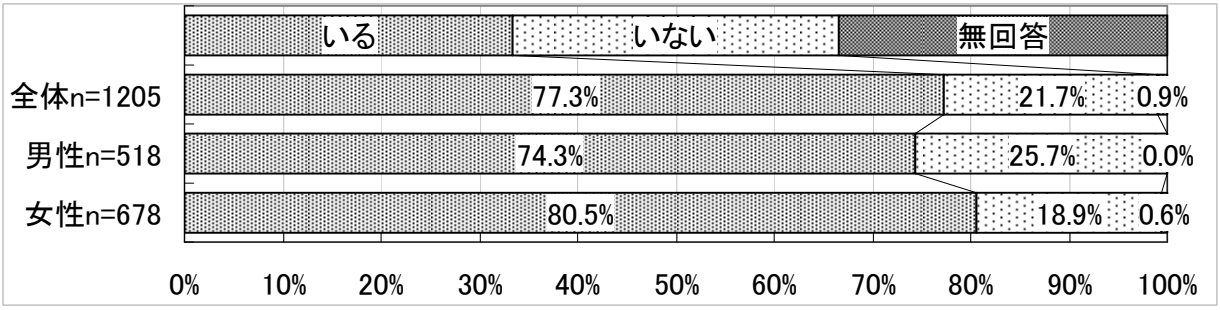
		サンプル数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体		100.0%	.8.9%	15.2%	16.3%	24.1%	21.9%	12.7%	1.0%
		1,205	107	183	196	290	264	153	12
性別	男性	100.0%	8.7%	14.9%	13.1%	24.5%	23.7%	14.9%	0.2%
		518	45	77	68	127	123	77	1
	女性	100.0%	9.1%	15.6%	18.9%	23.7%	20.8%	11.2%	0.6%
		678	62	106	128	161	141	76	4

〔Ｆ３〕　結婚の有無



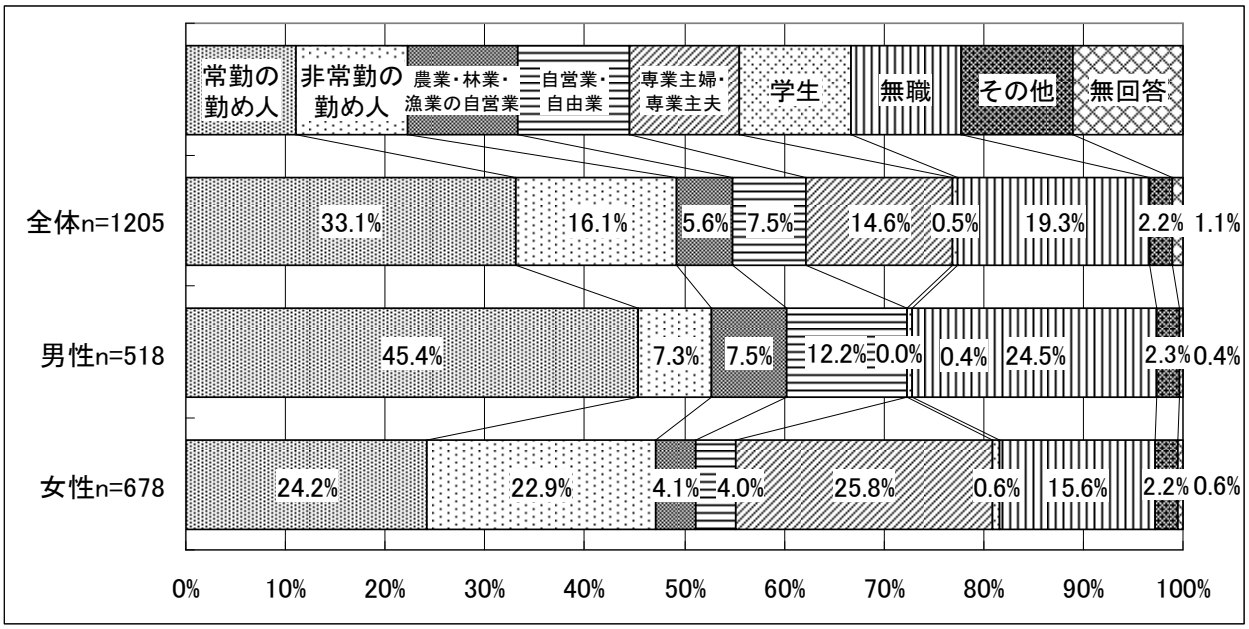
		サンプル数	結婚している	死別離別	結婚していない	無回答
全体		100.0%	71.6%	12.0%	14.9%	1.5%
		1,205	863	145	179	18
性別	男性	100.0%	75.3%	6.6%	16.8%	1.4%
		518	390	34	87	7
	女性	100.0%	69.6%	16.4%	13.4%	0.6%
		678	472	111	91	4

〔Ｆ４〕　子どもの有無



		サンプル数	いる	いない	無回答
全体		100.0%	77.3%	21.7%	0.9%
		1,205	932	262	11
性別	男性	100.0%	74..3%	25.7%	0.0%
		518	385	133	0
	女性	100.0%	80.5%	18.9%	0.6%
		678	546	128	4

〔Ｆ５〕　職業



		サンプル数	常勤の勤め人	非常勤の勤め人	農業・林業・漁業の自営業	自営業・自由業	専業主婦・専業主夫	学生	無職	その他	無回答
全体		100.0%	33.1%	16.1%	5.6%	7.5%	14.6%	0.5%	19.3%	2.2%	1.1%
		1205	399	194	67	90	176	6	233	27	13
性別	男性	100.0%	45.4%	7.3%	7.5%	12.2%	0.0%	0.4%	24.5%	2.3%	0.4%
		518	235	38	39	63	0	2	127	12	2
	女性	100.0%	24.2%	22.9%	4.1%	4.0%	25.8%	0.6%	15.6%	2.2%	0.6%
		678	164	155	28	27	175	4	106	15	4

２　男女平等意識について

（1）各分野における男女の平等感

〔問 1〕　あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。次にあげる①から⑥のそれぞれについて、あてはまる番号を１つお選びください。

◆「社会通念、慣習、しきたりなどで」男性が優遇されているが高い割合。女性は、「家庭」「地域」で男性が優遇されていると感じている割合が高い◆

様々な分野における男女の地位の平等意識をみると、全体では、「平等である」の割合は、「学校のなかで」42.7%と最も高く、次いで「家庭のなかで」38%、「法律や制度上」30.8%、「職場のなかで」25%の順となっている。

一方、「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、「社会通念、慣習・しきたりなどで」54%が最も高く、次いで「職場のなかで」37.2%、「地域社会のなかで」36.1%、「家庭のなかで」34.2%の順となっている。

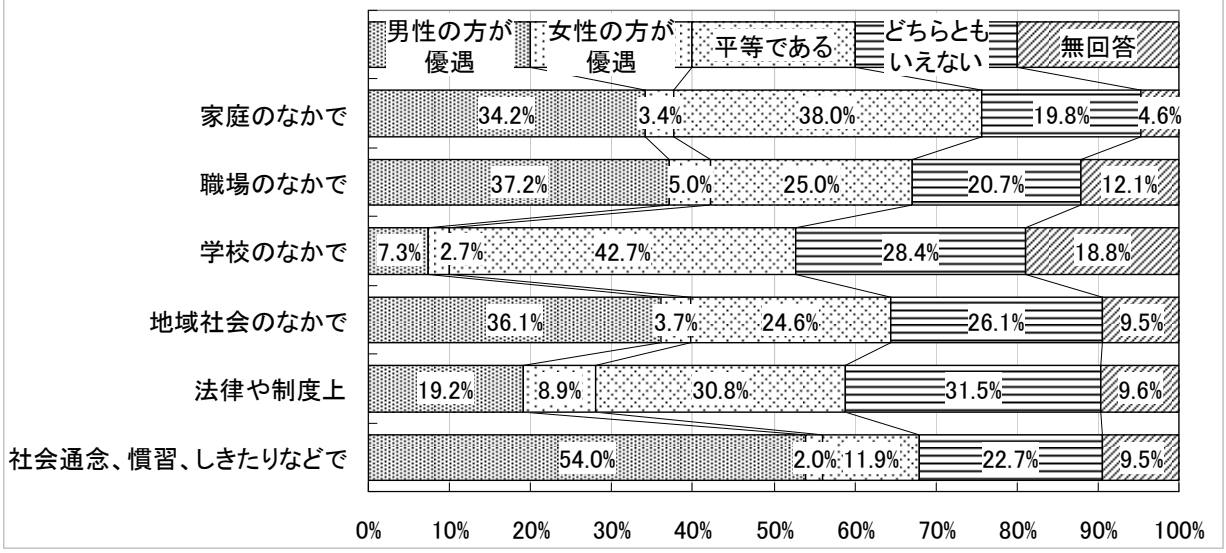
男女別でみると、「平等である」と答えた人の割合は、すべてにおいて男性が女性より高く、男女間に意識の差があると考えられる。

「平等である」を前回の調査（平成 19 年）と比較してみると、「家庭のなかで」は、1.5 ポイントは減少しているものの、「職場のなかで」1.2 ポイント、「学校のなかで」4.7 ポイント、「地域社会のなかで」4.7 ポイント、「法律や制度上で」5.2 ポイント、それぞれ増加している。

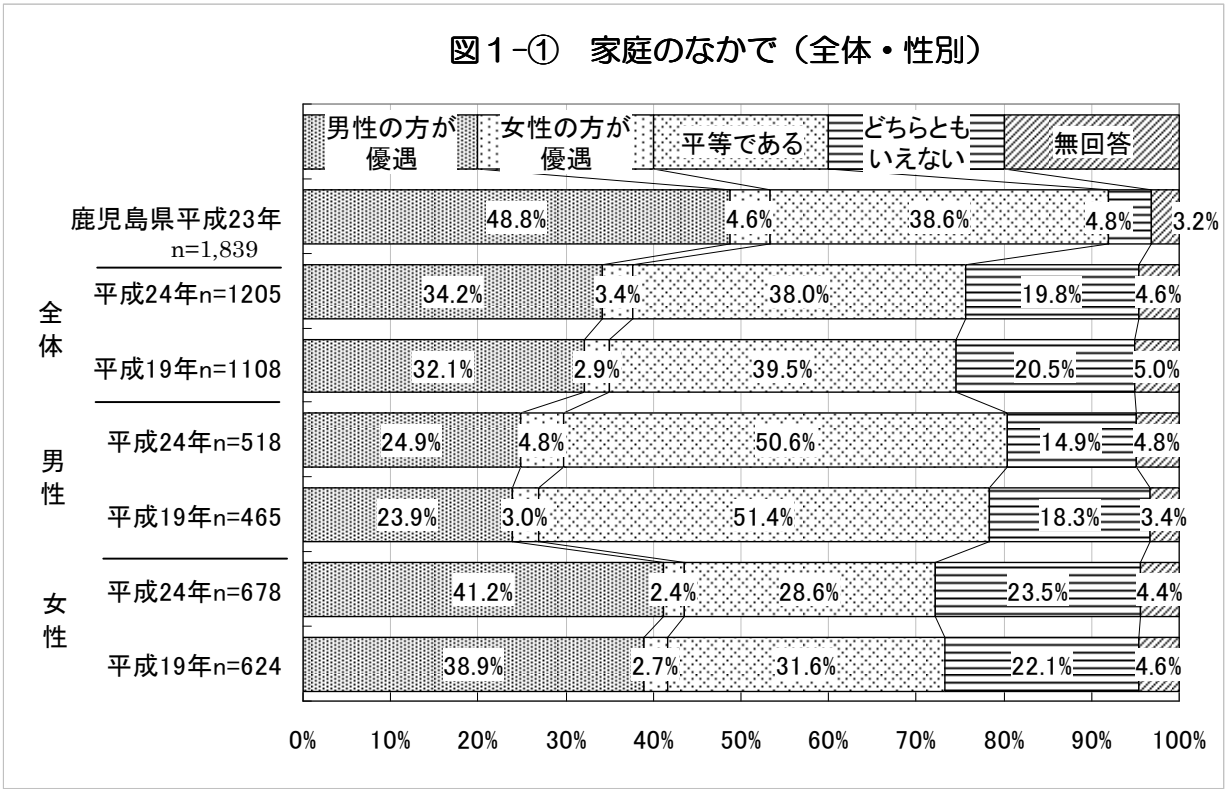
「男性の方が優遇されている」と答えた人の割合について、前回の調査（平成 19 年）と比較してみると、「法律や制度上において」以外のすべての分野で依然として増加している。

n=1,205

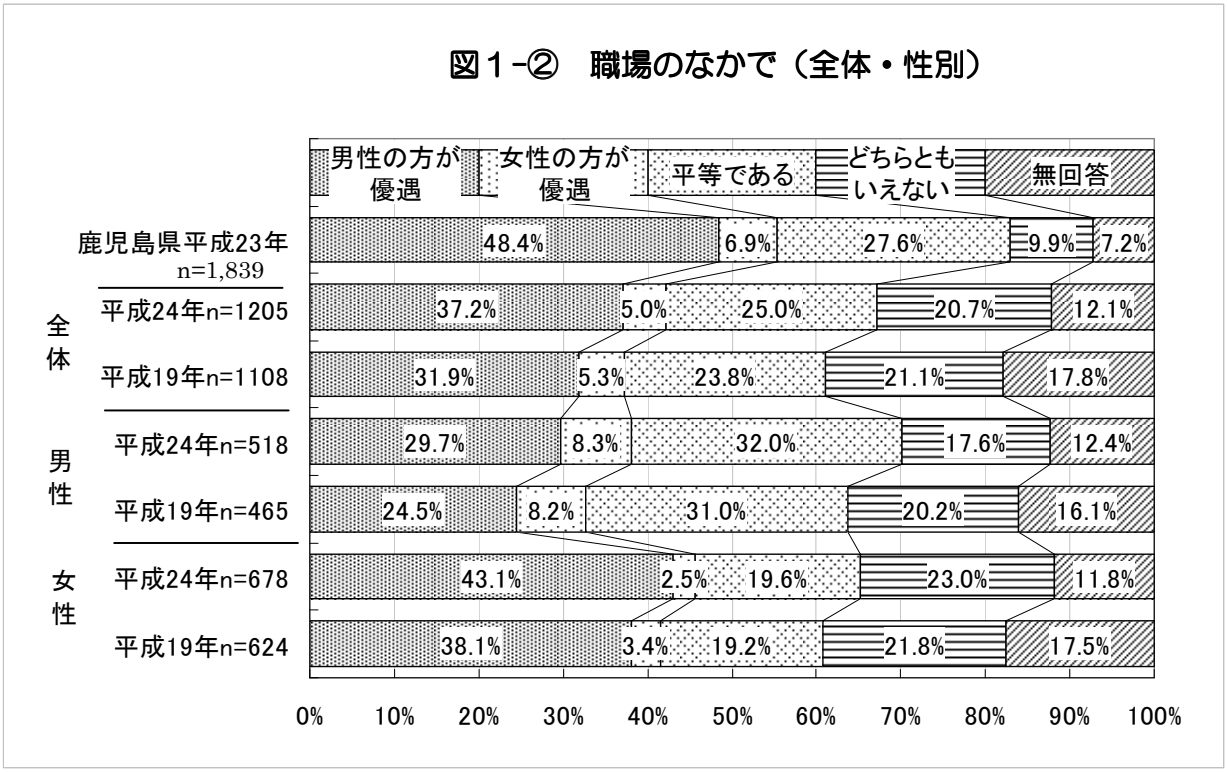
図１　各分野の男女の地位の平等感（全体）



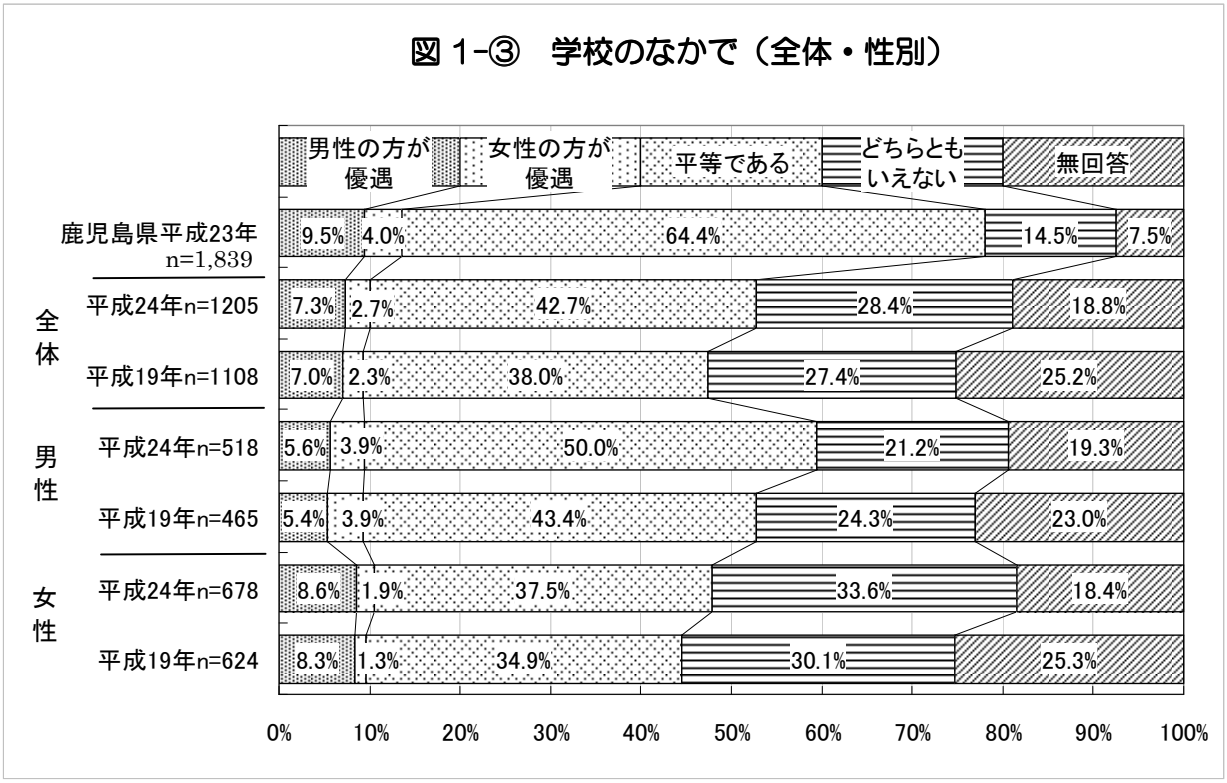
①＜家庭のなかで＞



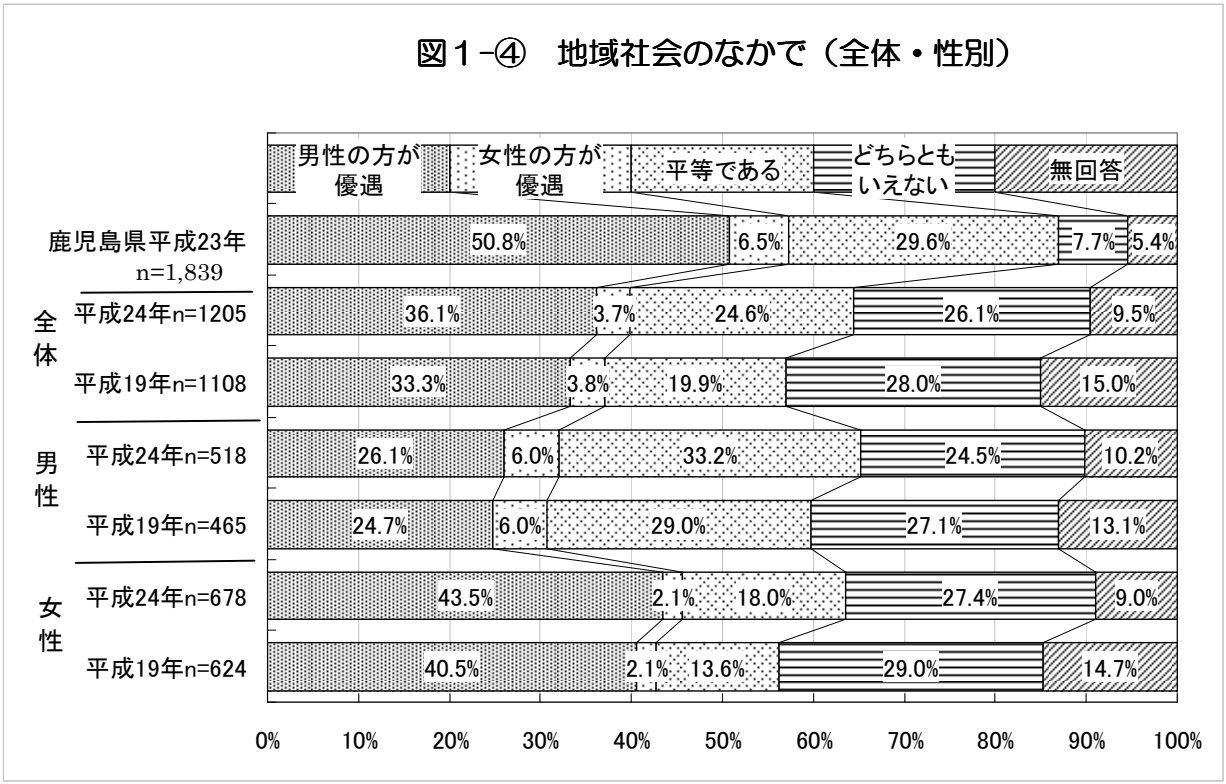
②＜職場のなかで＞



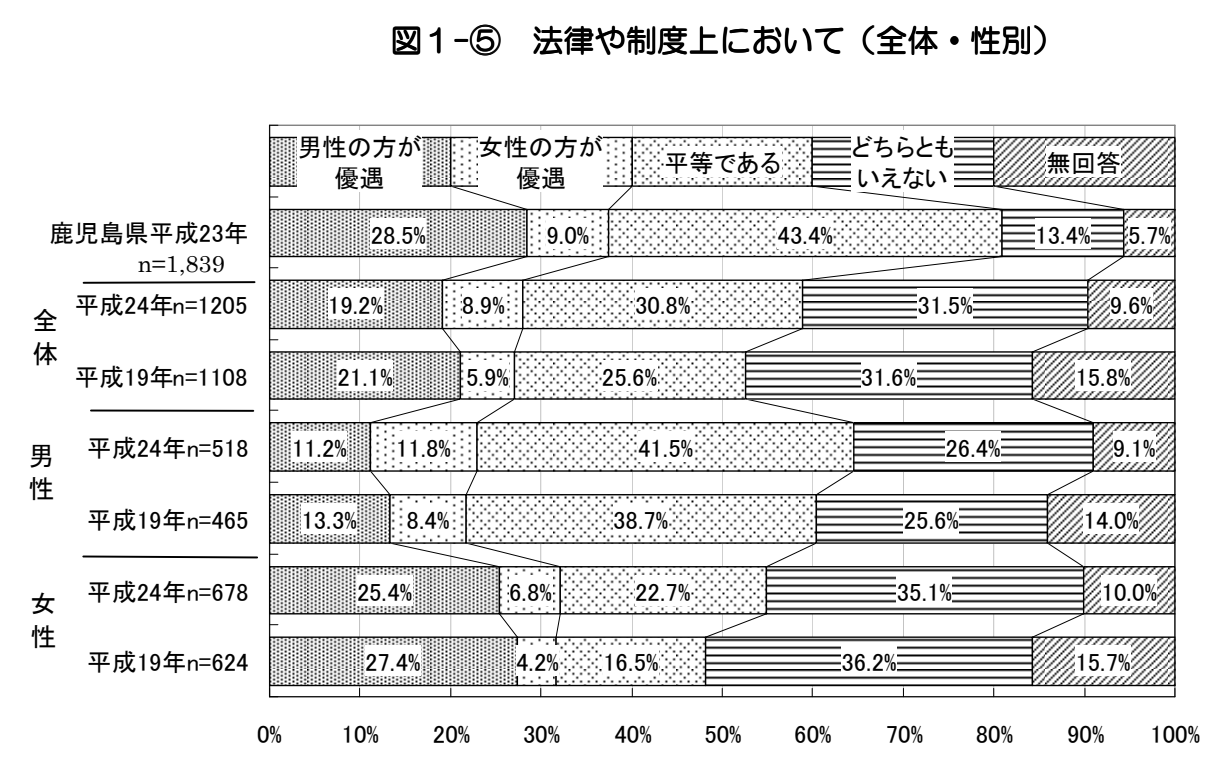
③＜学校のなかで＞



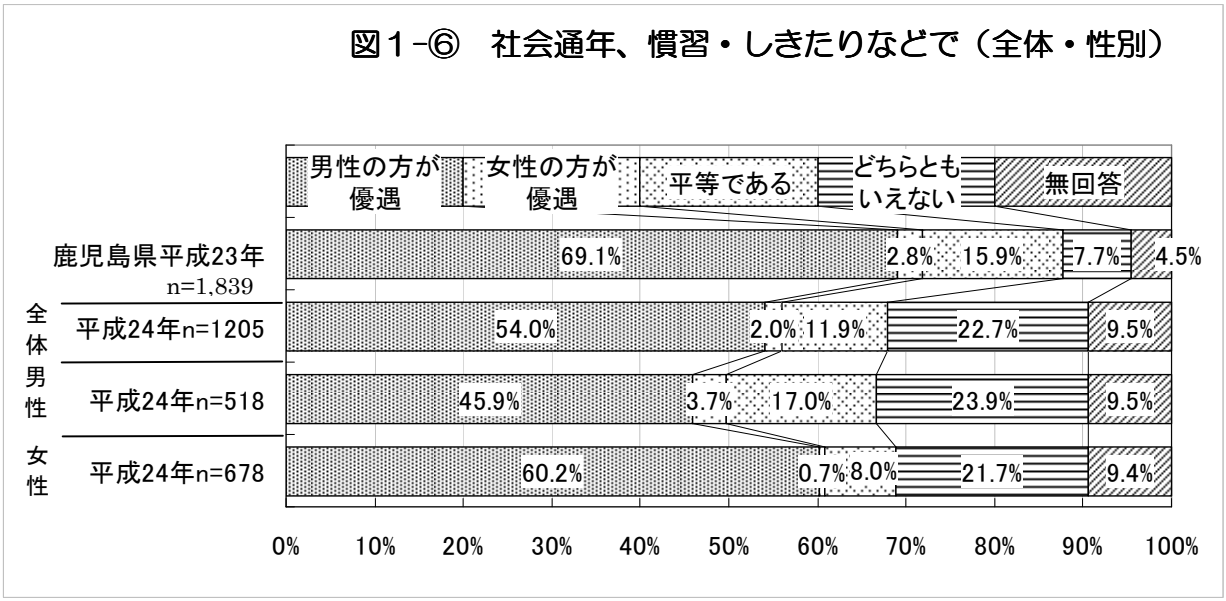
④＜地域社会のなかで＞



⑤＜法律や制度上で＞



⑥＜社会通念、慣習・しきたりなどで＞



各分野における男女の平等感(性・年代別)

		サンプル数	①家庭のなかで					②職場のなかで				
			男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答
全体		100.0%	34.2%	3.4%	38%	19.8%	4.6%	37.2%	5.0%	25.0%	20.7%	12.1%
		1205	412	41	458	238	56	448	60	301	250	146
性・年代別	男性	100.0%	24.9%	4.8%	50.6%	14.9%	4.8%	29.7%	8.3%	32.0%	17.6%	12.4%
		518	129	25	262	77	25	154	43	166	91	64
	20 歳代	100.0%	17.8%	6.7%	51.1%	24.4%	0.0%	15.6%	20.%	35.6%	26.7%	2.2%
		45	8	3	23	11	0	7	9	16	12	1
	30 歳代	100.0%	29.9%	9.1%	48.1%	13.0%	0.0%	32.5%	9.1%	39.0%	18.2%	1.3%
		77	23	7	37	10	0	25	7	30	14	1
	40 歳代	100.0%	29.4%	2.9%	48.5%	14.7%	4.4%	29.4%	11.8%	36.8%	20.6%	1.5%
		68	20	2	33	10	3	20	8	25	14	1
	50 歳代	100.0%	22.0%	3.9%	56.7%	14.2%	3.1%	29.9%	7.1%	38.6%	15.0%	9.4%
		127	28	5	72	18	4	38	9	49	19	12
	60 歳代	100.0%	26.8%	4.1%	48.8%	14.6%	5.7%	39.8%	6.5%	28.5%	14.6%	10.6%
		123	33	5	60	18	7	49	8	35	18	13
	70 歳以上	100.0%	22.1%	3.9%	46.8%	13.0%	14.3%	19.5%	1.3%	14.3%	18.2%	46.8%
		77	17	3	36	10	11	15	1	11	14	36
	女性	100.0%	41.2%	2.4%	28.6%	23.5%	4.4%	43.1%	2.5%	19.6%	23.0%	11.8%
		678	279	16	194	159	30	292	17	133	156	80
	20 歳代	100.0%	29.0%	3.2%	37.1%	25.8%	4.8%	46.8%	3.2%	16.1%	25.8%	8.1%
		62	18	2	23	16	3	29	2	10	16	5
	30 歳代	100.0%	39.6%	4.7%	31.1%	23.6%	0.9%	50.0%	5.7%	22.6%	18.9%	2.8%
		106	42	5	33	25	1	53	6	24	20	3
	40 歳代	100.0%	43.0%	2.3%	26.6%	25.8%	2.3%	40.6%	3.9%	25.0%	26.6%	3.9%
		128	55	3	34	33	3	52	5	32	34	5
	50 歳代	100.0%	52.2%	0.6%	24.2%	20.5%	2.5%	46.0%	1.9%	19.3%	26.7%	6.2%
		161	84	1	39	33	4	74	3	31	43	10
	60 歳代	100.0%	45.4%	2.1%	25.5%	22.7%	4.3%	47.5%	0.7%	14.9%	22.7%	14.2%
		141	64	3	36	32	6	67	1	21	32	20
	70 歳以上	100.0%	19.7%	2.6%	36.8%	23.7%	17.1%	19.7%	0.0%	18.4%	13.2%	48.7%
		76	15	2	28	18	13	15	0	14	10	37

		サンプル数	③学校のなかで					④地域社会のなかで				
			男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答
全体		100.0%	7.3%	2.7%	42.7%	28.4%	18.8%	36.1%	3.7%	24.6%	26.1%	9.5%
		1205	88	33	515	342	227	435	45	296	314	115
性・年代別	男性	100.0%	5.6%	3.9%	50.0%	21.2%	19.3%	26.1%	6.0%	33.2%	24.5%	10.2%
		518	29	20	259	110	100	135	31	172	127	53
	20歳代	100.0%	2.2%	2.2%	60.0%	28.9%	6.7%	22.2%	11.1%	31.1%	35.6%	0.0%
		45	1	1	27	13	3	10	5	14	16	0
	30歳代	100.0%	2.6%	9.1%	49.4%	33.8%	5.2%	32.5%	5.2%	35.1%	24.7%	2.6%
		77	2	7	38	26	4	25	4	27	19	2
	40歳代	100.0%	2.9%	5.9%	58.8%	25.0%	7.4%	29.4%	5.9%	32.4%	30.9%	1.5%
		68	2	4	40	17	5	20	4	22	21	1
	50歳代	100.0%	7.9%	4.7%	48.0%	18.9%	20.5%	27.6%	8.7%	34.6%	22.8%	6.3%
		127	10	6	61	24	26	35	11	44	29	8
	60歳代	100.0%	9.8%	1.6%	49.6%	20.3%	18.7%	27.6%	4.1%	34.1%	22.8%	11.4%
		123	12	2	61	25	23	34	5	42	28	14
	70歳以上	100.0%	2.6%	0.0%	41.6%	6.5%	49.4%	14.3%	1.3%	29.9%	18.1%	36.4%
		77	2	0	32	5	38	11	1	23	14	28
	女性	100.0%	8.6%	1.9%	37.5%	33.6%	18.4%	43.5%	2.1%	18.0%	27.4%	9.0%
		678	58	13	254	228	125	295	14	122	186	61
	20歳代	100.0%	3.2%	6.5%	46.8%	37.1%	6.5%	30.6%	8.1%	19.4%	37.1%	4.8%
		62	2	4	29	23	4	19	5	12	23	3
	30歳代	100.0%	8.5%	1.9%	46.2%	39.6%	3.8%	42.5%	2.8%	25.5%	27.4%	1.9%
		106	9	2	49	42	4	45	3	27	29	2
	40歳代	100.0%	7.0%	3.9%	43.8%	35.9%	9.4%	44.5%	3.1%	14.1%	35.2%	3.1%
		128	9	5	56	46	12	57	4	18	45	4
	50歳代	100.0%	10.6%	0.6%	36.0%	33.5%	19.3%	52.8%	0.6%	11.2%	29.2%	6.2%
		161	17	1	58	54	31	85	1	18	47	10
	60歳代	100.0%	11.3%	0.0%	27.0%	37.6%	24.1%	50.4%	0.7%	16.3%	21.3%	11.3%
		141	16	0	38	53	34	71	1	23	30	16
	70歳以上	100.0%	6.6%	1.3%	27.6%	11.8%	52.6%	18.4%	0.0%	31.6%	15.8%	34.2%
		76	5	1	21	9	40	14	0	24	12	26

		サンプル数	⑤法律や制度上で					⑥社会通念、慣習・しきたりなどで				
			男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	どちらともいえない	無回答
全体		100.0%	19.2%	8.9%	30.8%	31.5%	9.6%	54.0%	2.0%	11.9%	22.7%	9.5%
		1205	231	107	371	380	116	651	24	143	273	114
性・年代別	男性	100.0%	11.2%	11.8%	41.5%	26.4%	9.1%	45.9%	3.7%	17.0%	23.9%	9.5%
		518	58	61	215	137	47	238	19	88	124	49
	20歳代	100.0%	6.7%	24.4%	26.7%	42.2%	0.0%	37.8%	4.4%	20.0%	37.8%	0.0%
		45	3	11	12	19	0	17	2	9	17	0
	30歳代	100.0%	15.6%	13.0%	39.0%	31.2%	1.3%	46.8%	1.3%	20.8%	29.9%	1.3%
		77	12	10	30	24	1	36	1	16	23	1
	40歳代	100.0%	11.8%	16.2%	41.2%	29.4%	1.5%	57.4%	7.4%	13.2%	20.6%	1.5%
		68	8	11	28	20	1	39	5	9	14	1
	50歳代	100.0%	12.6%	11.8%	44.9%	26.8%	3.9%	46.5%	5.5%	16.5%	25.2%	6.3%
		127	16	15	57	34	5	59	7	21	32	8
	60歳代	100.0%	8.1%	9.8%	44.7%	26.0%	11.4%	49.6%	3.3%	17.1%	18.7%	11.4%
		123	10	12	55	32	14	61	4	21	23	14
	70歳以上	100.0%	11.7%	2.6%	41.6%	10.4%	33.8%	33.8%	0.0%	14.3%	19.5%	32.5%
		77	9	2	32	8	26	26	0	11	15	25
	女性	100.0%	25.4%	6.8%	22.7%	35.1%	10.0%	60.2%	0.7%	8.0%	21.7%	9.4%
		678	172	46	154	238	68	408	5	54	147	64
	20歳代	100.0%	9.7%	11.3%	30.6%	43.5%	4.8%	53.2%	0.0%	9.7%	32.3%	4.8%
		62	6	7	19	27	3	33	0	6	20	3
	30歳代	100.0%	33.0%	9.4%	18.9%	36.8%	1.9%	66.0%	0.0%	7.5%	24.5%	1.9%
		106	35	10	20	39	2	70	0	8	26	2
	40歳代	100.0%	31.3%	9.4%	18.7%	39.1%	1.6%	72.7%	0.0%	6.3%	18.8%	2.3%
		128	40	12	24	50	2	93	0	8	24	3
	50歳代	100.0%	24.8%	6.8%	19.9%	41.0%	7.5%	65.2%	0.6%	5.0%	22.4%	6.8%
		161	40	11	32	66	12	105	1	8	36	11
	60歳代	100.0%	29.1%	4.3%	26.2%	27.7%	12.8%	63.8%	2.8%	7.1%	15.6%	10.6%
		141	41	6	37	39	18	90	4	10	22	15
	70歳以上	100.0%	9.2%	0.0%	28.9%	21.1%	40.8%	18.4%	0.0%	18.4%	25.0%	38.2%
		76	7	0	22	16	31	14	0	14	19	29

（２）社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識

〔問２〕　ではあなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の１から６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

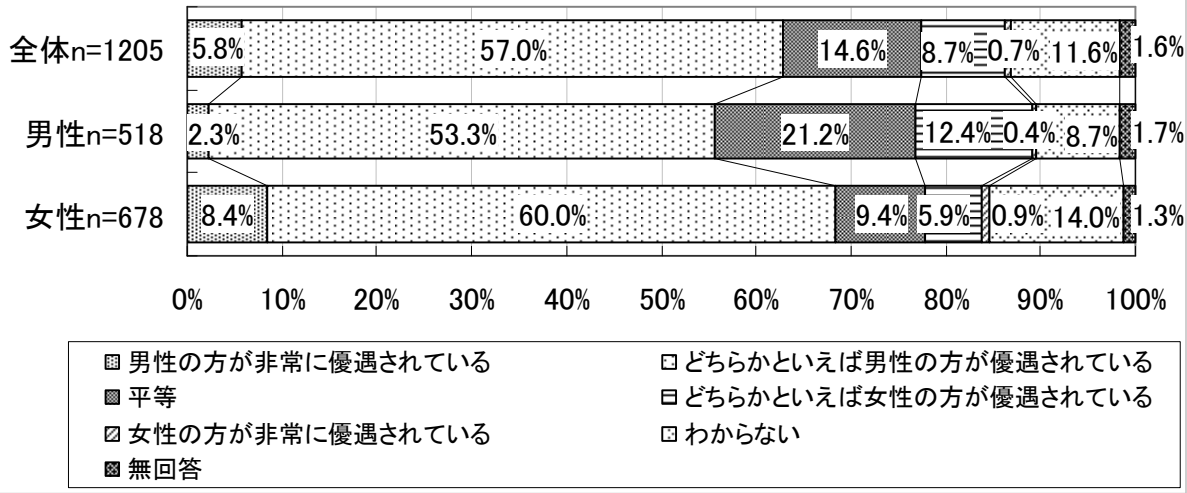
◆「男性優遇」が男女ともに「女性優遇」を大きく上回る◆

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識をみると、全体では、「男性の方が非常に優遇されている」5.8％と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」57％を合わせた 62.8％の「男性優遇」が、「女性のほうが非常に優遇されている」0.7％と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」8.7％を合わせた 9.4％の「女性優遇」を 53.4 ポイント上回っている。

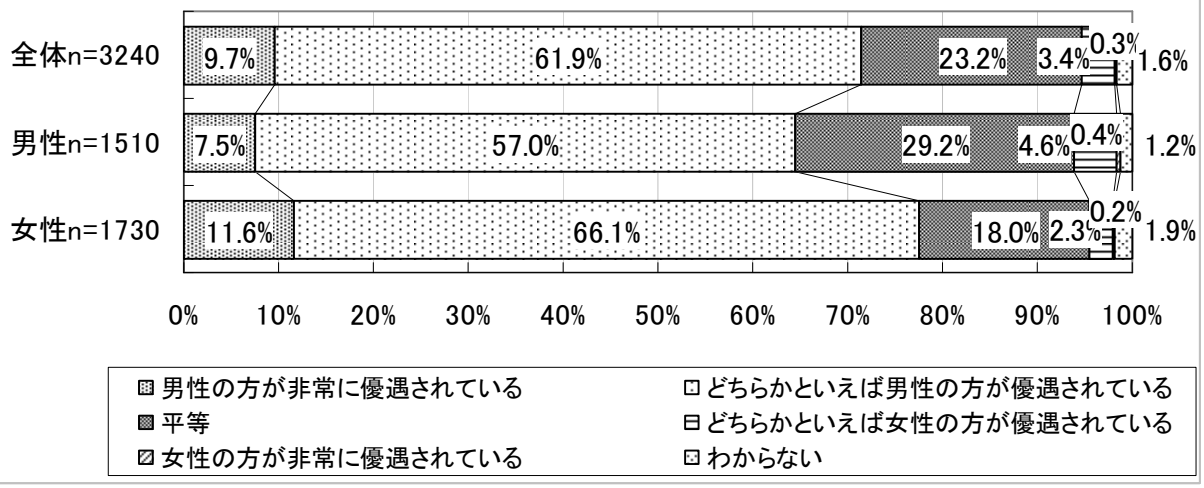
これを性別にみると、「平等」と感じる割合は女性 9.4％より男性 21.2％が高くなっている。

内閣府の調査と比較すると、全体では「平等」（鹿屋市：14.6％、内閣府 23.2％）と、「男性優遇」（鹿屋市：62.8％、内閣府：71.6％）の割合が内閣府より低く、「女性優遇」（鹿屋市：9.4％、内閣府 3.7％）の割合が内閣府より高くなっている。

図２　社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識（全体・性別）



＜内閣府調査＞　社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識（全体・性別）



社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識（性・年代別）

		サンプル数	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		100.0%	5.8%	57.0%	14.6%	8.7%	0.7%	11.6%	1.6%
		1205	70	687	176	105	8	140	19
性・年代別	男性	100.0%	2.3%	53.3%	21.2%	12.4%	0.4%	8.7%	1.7%
		518	12	276	110	64	2	45	9
	20 歳代	100.0%	0.0%	44.4%	15.6%	22.2%	4.4%	13.3%	0.0%
		45	0	20	7	10	2	6	0
	30 歳代	100.0%	1.3%	46.8%	20.8%	18.2%	0.0%	13.0%	0.0%
		77	1	36	16	14	0	10	0
	40 歳代	100.0%	4.4%	51.5%	17.6%	17.6%	0.0%	5.9%	2.9%
		68	3	35	12	12	0	4	2
	50 歳代	100.0%	2.4%	55.9%	19.7%	12.6%	0.0%	8.7%	0.8%
		127	3	71	25	16	0	11	1
	60 歳代	100.0%	1.6%	64.2%	17.1%	7.3%	0.0%	6.5%	3.3%
		123	2	79	21	9	0	8	4
	70 歳以上	100.0%	3.9%	45.5%	37.7%	2.6%	0.0%	7.8%	2.6%
		77	3	35	29	2	0	6	2
	女性	100.0%	8.4%	60%	9.4%	5.9%	0.9%	14.0%	1.3%
		678	57	407	64	40	6	95	9
	20 歳代	100.0%	9.7%	50%	8.1%	11.3%	0.0%	19.4%	1.6%
		62	6	31	5	7	0	12	1
	30 歳代	100.0%	7.5%	64.2%	7.5%	4.7%	0.0%	15.1%	0.9%
		106	8	68	8	5	0	16	1
	40 歳代	100.0%	7.8%	62.5%	7.0%	7.8%	0.8%	12.5%	1.6%
		128	10	80	9	10	1	16	2
	50 歳代	100.0%	6.8%	70.8%	5.0%	3.7%	1.2%	11.2%	1.2%
		161	11	114	8	6	2	18	2
	60 歳代	100.0%	9.9%	58.9%	9.2%	7.1%	0.0%	14.2%	0.7%
		141	14	83	13	10	0	20	1
	70 歳以上	100.0%	9.2%	36.8%	27.6%	2.6%	3.9%	17.1%	2.6%
		76	7	28	21	2	3	13	2

（３）今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職

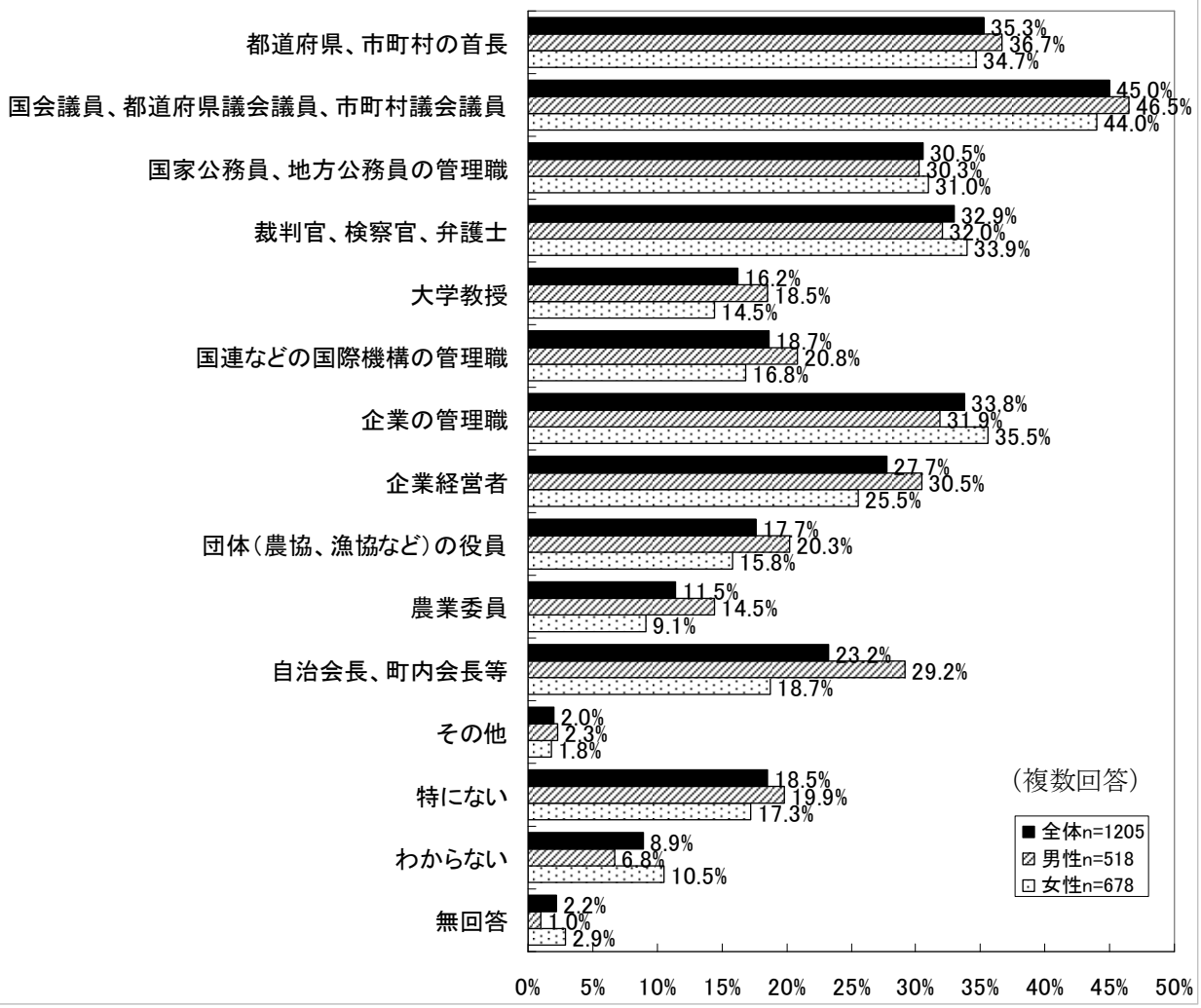
〔問３〕あなたが次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。次の１から 14 の中からいくつでもお選びください。

◆「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が男女ともにトップ◆

今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職意識をみると、全体では、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」45％が最も多く、次いで「都道府県、市町村の首長」35.3％、「企業の管理職」33.8％、「国家公務員・地方公務員の管理職」30.5％の順となっている。

これを性別にみると、「自治会長、町内会長等」の割合が男性 29.2％、女性 18.7％で 10.5 ポイント男性が高くなっている。

図３　今後女性が増える方がよいと思う職業や役職（全体・性別）



３　家庭生活について
（1）家庭での主な役割分担

【現在結婚している方、結婚してはいないがパートナーと暮らしている方、両親と同居している方におたずねします。】
問４　あなたのご家庭では、下記項目の主な分担はどのようになっていますか。次にあげる①から⑨のそれぞれについて、あてはまる番号を１つお選びください。
（⑤、⑥、⑦については現在該当しなくても、過去の経験をもとにお答えください。）

◆家庭においての役割は「主に妻」がほとんどの項目について依然として高い割合◆

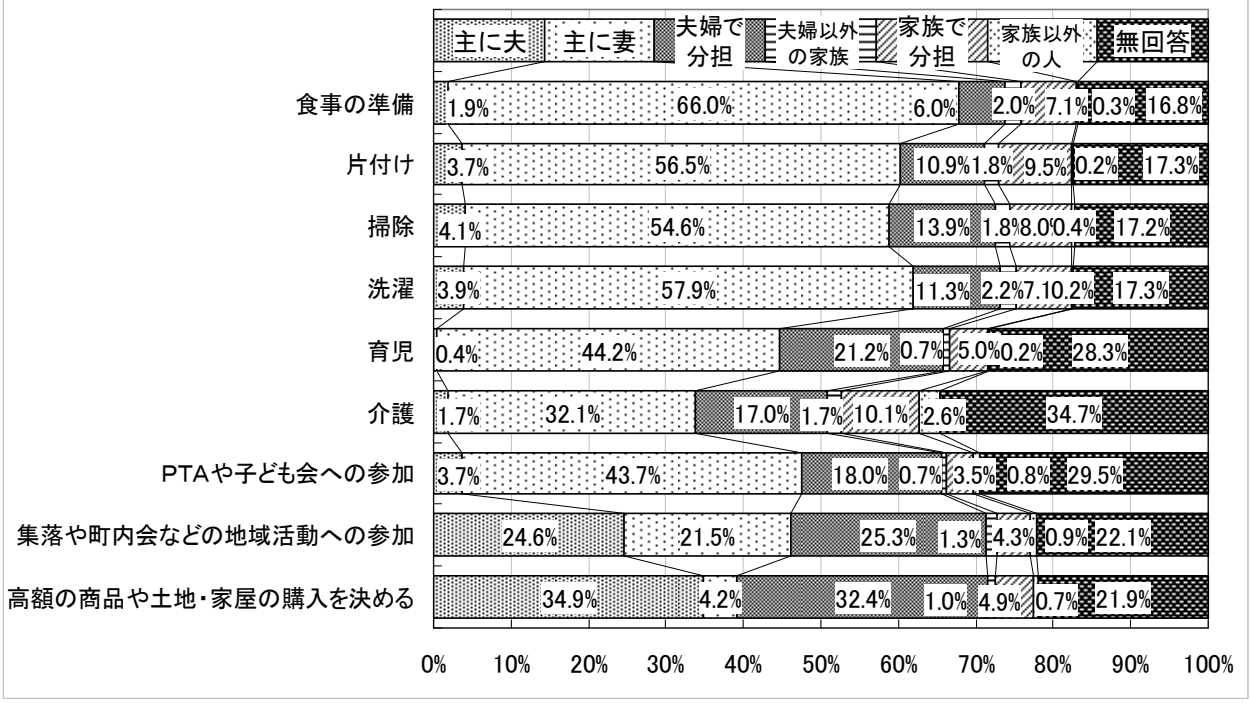
家庭における役割分担状況については、「食事の準備」をはじめ９項目のうち、妻より夫の割合が高いのは、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」34.9％と「集落や町内会などの地域活動への参加」24.6％の２項目となっている。

また、「夫婦で分担」と答えた人の割合は「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」32.4％の割合が最も高くなっている。

前回の調査（平成 19 年）と比較するとほとんどについて「主に妻」がわずかに減少しているが依然として家庭における妻の負担が大きいことが伺える。

n=1,205

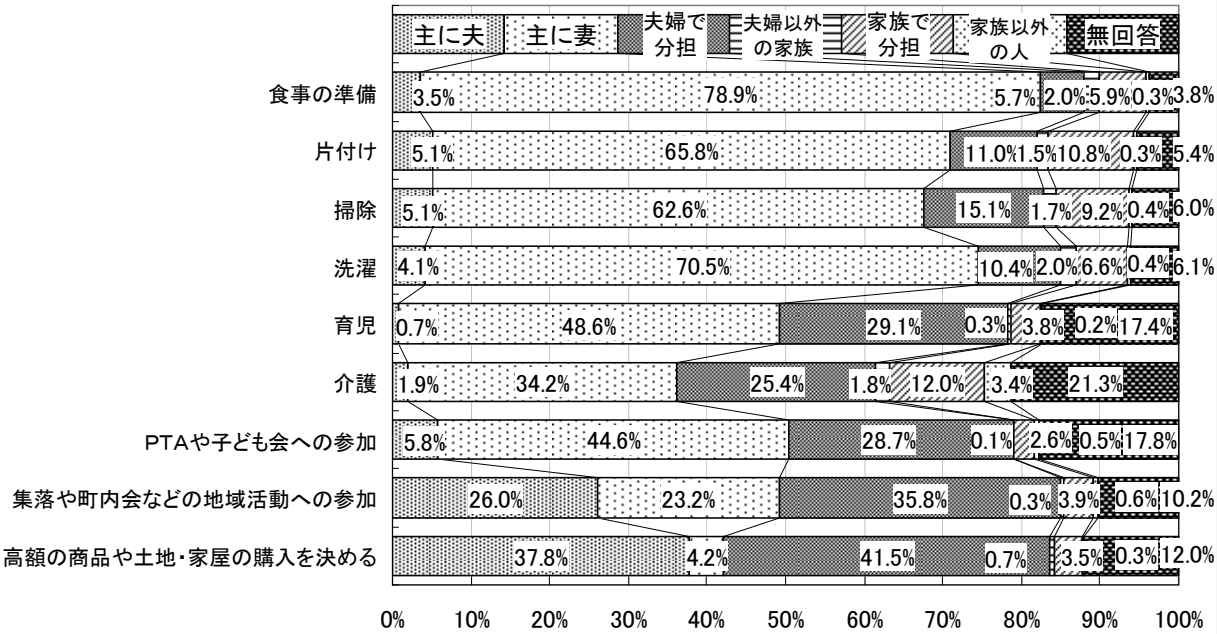
図４　家庭における役割分担について（全体）



＜前回調査（平成 19 年度）＞

n=1,108

図４-１　家庭における役割分担について（全体）



（2）結婚、家庭、離婚について

問５　結婚、家庭、離婚についてのあなたの考えをおたずねします。次にあげる①から④のそれぞれについて、あてはまる番号を１つお選びください。

①「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」について

◆男女とも５割以上が結婚は個人の自由であるという考え方◆

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」に賛成の割合は 70 歳以上を除き、すべての年代において 5 割以上を占め、なかでも 20 歳代から 40 歳代については、7 割を超えている。

これを性別にみると男女とも５割以上が「賛成」と答えていて、結婚が個人の自由であるという考えが顕著にあらわれている。

図５―①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい（全体・性別）

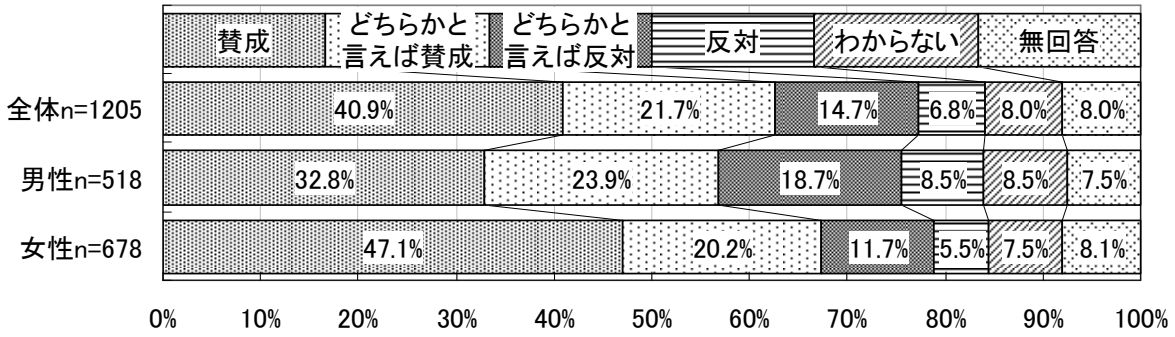
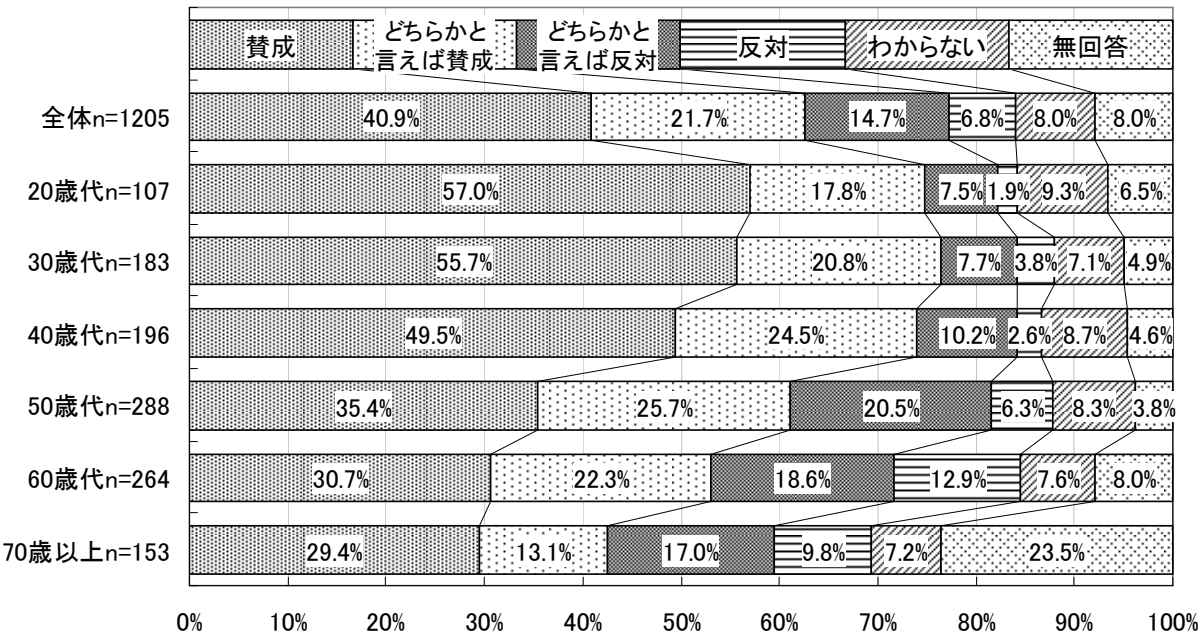


図５-①-1 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい（全体・年代別）



②「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について

◆男女ともに「反対」が「賛成」を上回る◆

全体では反対（「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた）44.4%の割合は、賛成（「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた）36.1%の割合より 8.3 ポイント高くなっている。

これを性別にみると、男女ともに「賛成」より「反対」の割合が高くなっており、年代別でも、70 歳代を除き、すべての年代で「賛成」より「反対」の割合が高くなっている。

「賛成」を前回調査（平成 19 年）40.2%の割合と比較すると、4.1 ポイント減少している。このことから固定的な役割分担意識が少しずつ変化しつつあることが伺える。

図 5ー② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（全体・性別）

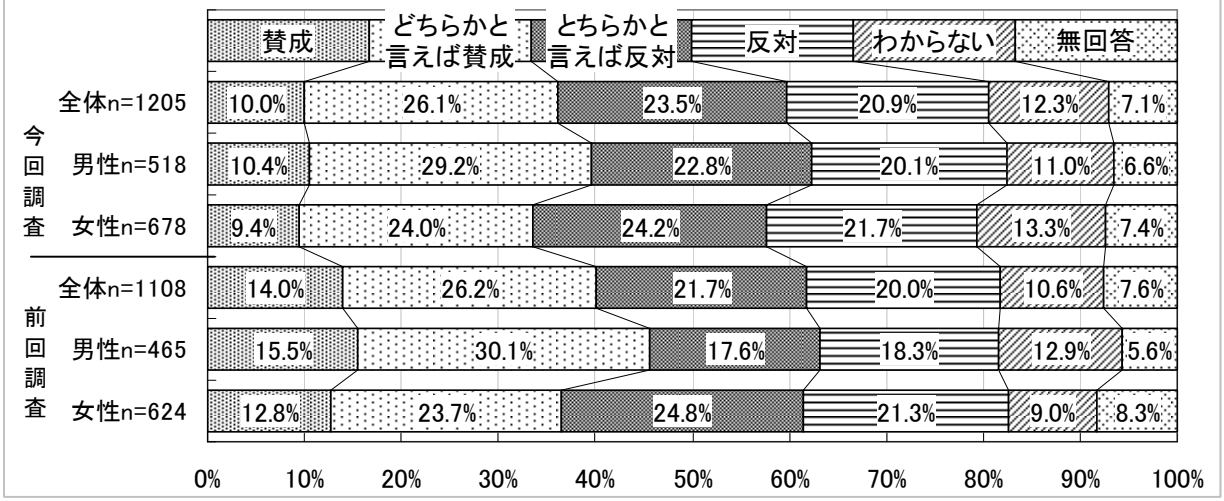
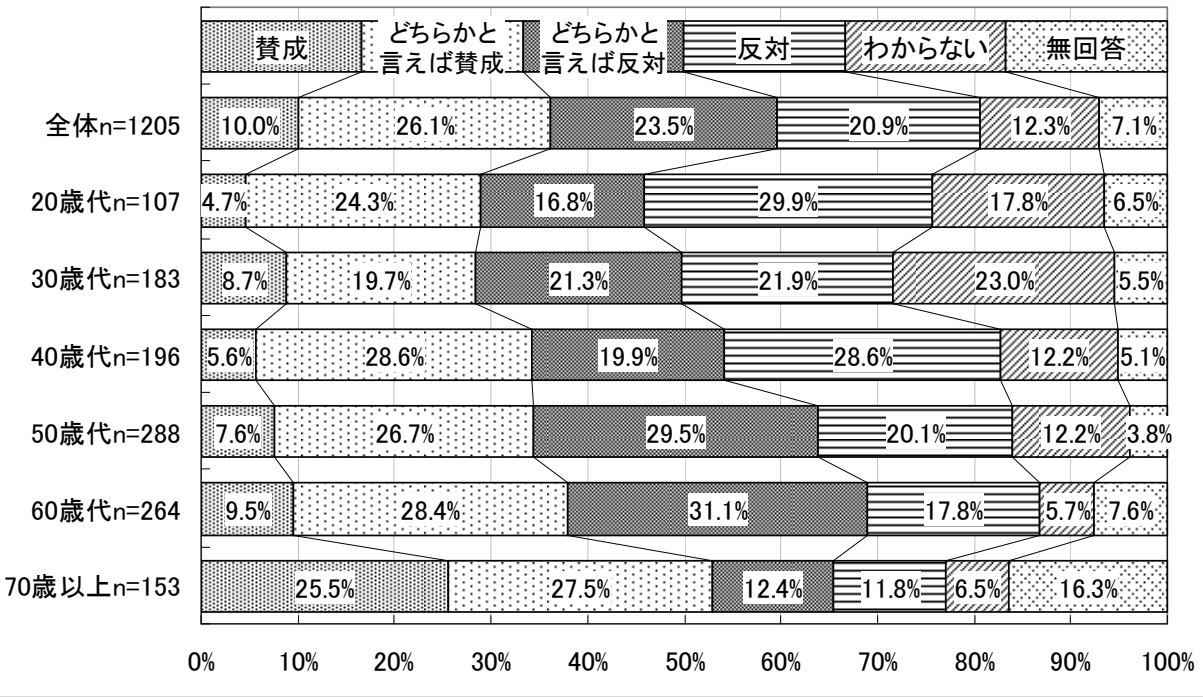


図 5ー②-1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（全体・年代別）



③「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」について

◆反対する意見は女性より男性が高い割合◆

全体では反対（「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた）41.4％の割合が、賛成（「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた）32.4％の割合より 9 ポイント高く、反対する意見が多くなっている。

これを性別にみると、「反対」は男性 49.2％、女性 35.4％の割合で女性より男性の方が反対する意見が多くなっている。

年代別にみると、年齢が若いほど賛成の割合が高く、年齢が高くなるほど反対の割合が高くなっており、子どもを持つことに関する意識の違いは顕著にあらわれている。

図５－③　結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない（全体・性別）

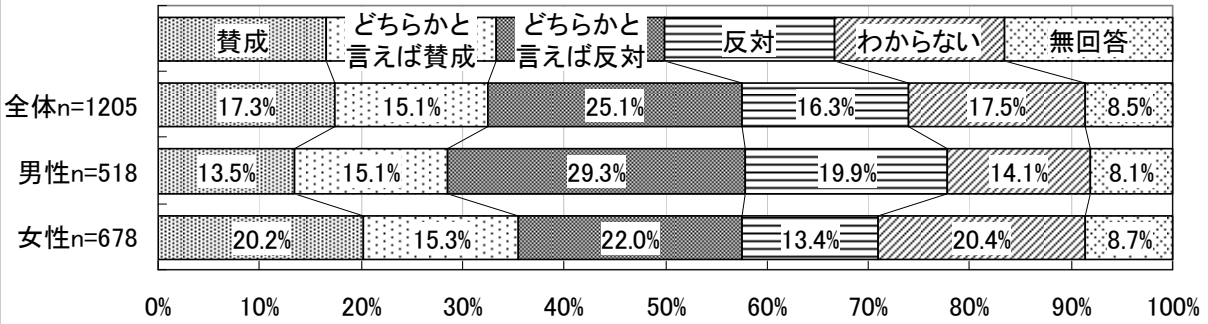
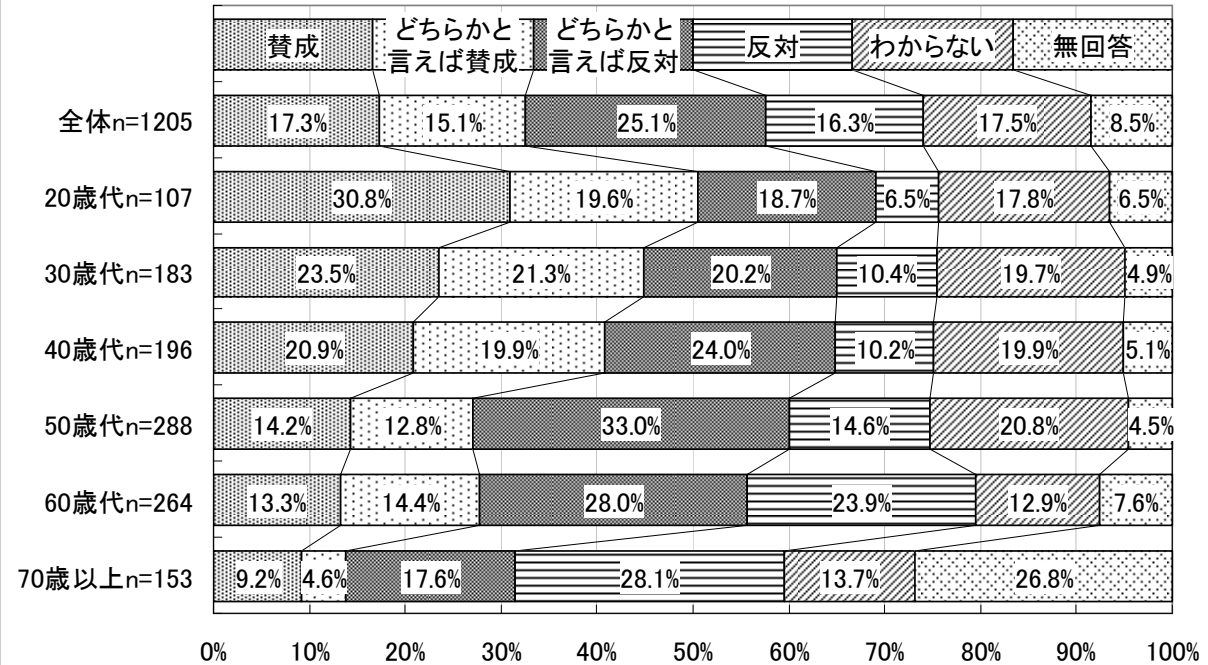


図５－③-1　結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない（全体・年代別）



④「結婚しても、うまくいかないときは、離婚してもかまわない」について

◆賛成が男女ともに５割以上の高い割合◆

全体では賛成（「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた）56.3%の割合が反対（「反対」と「どちらかと言えば反対」を合わせた）22.5%の割合を大きく上回る。

これを性別、年代別にみるといずれも賛成の割合が大きく上回っていて、離婚もまた個人の自由であることが顕著にあらわれている。

図５-④　結婚してもうまくいかないときは、離婚してもかまわない（全体・性別）

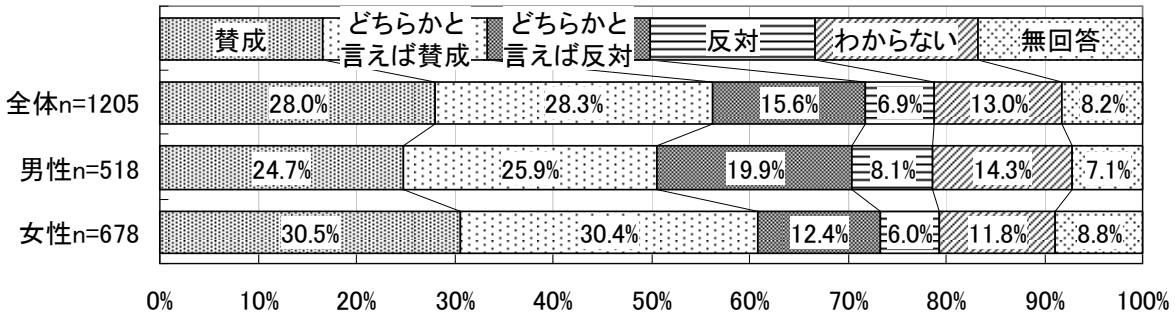
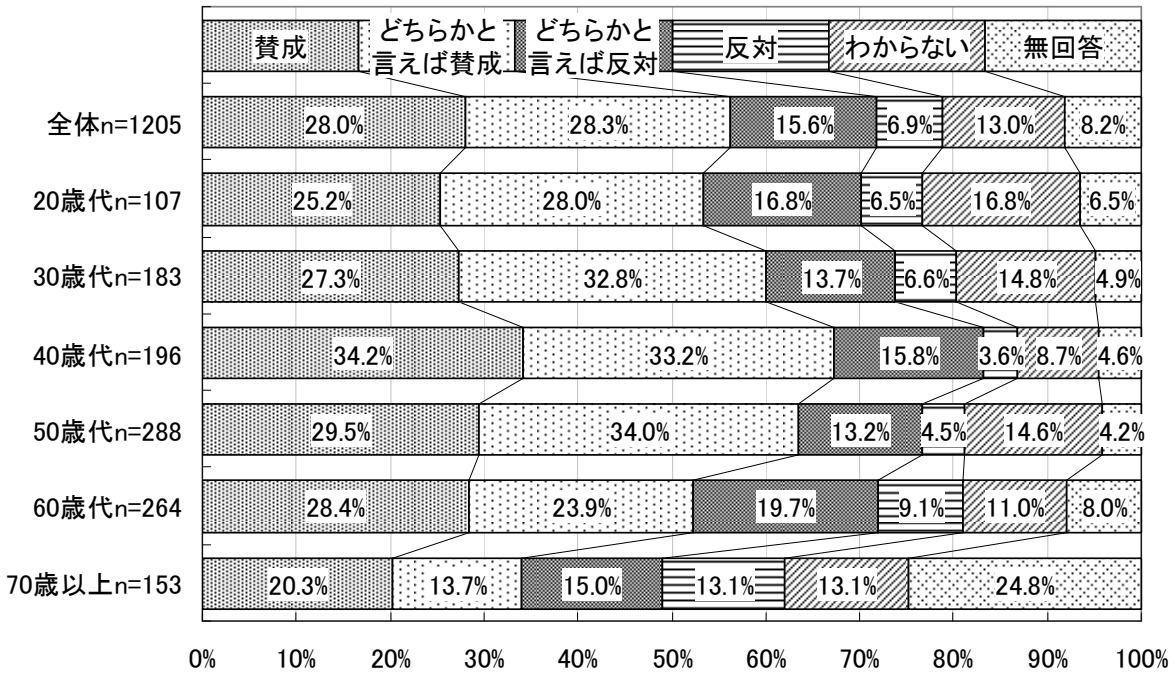


図５-④-1　結婚してもうまくいかないときは、離婚してもかまわない（全体・年代別）



結婚、家庭、離婚について（姓・年代別）

※網掛け部分％		サンプル数	①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい						②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである					
			賛成	どちらかと言えば賛成	どちらかと言えば反対	反対	わからない	無回答	賛成	どちらかと言えば賛成	どちらかと言えば反対	反対	わからない	無回答
全体		100.0	40.9	21.7	14.7	6.8	8.0	8.0	10.0	26.1	23.5	20.9	12.3	7.1
		1205	493	261	177	82	96	96	121	315	283	252	148	86
性・年代別	男性	100.0	32.8	23.9	18.7	8.5	8.5	7.5	10.4	29.2	22.8	20.1	11.0	6.6
		518	170	124	97	44	44	39	54	151	118	104	57	34
	20歳代	100.0	64.4	11.1	11.1	0.0	8.9	4.4	4.4	24.4	13.3	40.0	13.3	4.4
		45	29	5	5	0	4	2	2	11	6	18	6	2
	30歳代	100.0	41.6	24.7	14.3	5.2	10.4	3.9	7.8	19.5	20.8	18.2	28.6	5.2
		77	32	19	11	4	8	3	6	15	16	14	22	4
	40歳代	100.0	35.3	35.3	10.3	5.9	8.8	4.4	5.9	35.3	16.2	27.9	8.8	5.9
		68	24	24	7	4	6	3	4	24	11	19	6	4
	50歳代	100.0	28.3	29.9	22.8	7.1	9.4	2.4	8.7	32.3	31.5	15.0	12.6	0.0
		127	36	38	29	9	12	3	11	41	40	19	16	0
	60歳代	100.0	26.0	21.1	22.0	15.4	6.5	8.9	10.6	29.3	29.3	17.9	3.3	9.7
		123	32	26	27	19	8	11	13	36	36	22	4	12
	70歳以上	100.0	22.1	15.6	23.4	10.4	7.8	20.8	23.4	31.2	11.7	15.6	3.9	14.3
		77	17	12	18	8	6	16	18	24	9	12	3	11
	女性	100.0	47.1	20.2	11.7	5.5	7.5	8.1	9.4	24.0	24.2	21.7	13.3	7.4
		678	319	137	79	37	51	55	64	163	164	147	90	50
	20歳代	100.0	51.6	22.6	4.8	3.2	9.7	8.1	4.8	24.2	19.4	22.6	21.0	8.1
		62	32	14	3	2	6	5	3	15	12	14	13	5
	30歳代	100.0	66.0	17.9	2.8	2.8	4.7	5.7	9.4	19.8	21.7	24.5	18.9	5.7
		106	70	19	3	3	5	6	10	21	23	26	20	6
	40歳代	100.0	57.0	18.8	10.2	0.8	8.6	4.7	5.5	25.0	21.9	28.9	14.1	4.7
		128	73	24	13	1	11	6	7	32	28	37	18	6
	50歳代	100.0	41.0	22.4	18.6	5.6	7.5	5.0	6.8	22.4	28.0	24.2	11.8	6.8
		161	66	36	30	9	12	8	11	36	45	39	19	11
	60歳代	100.0	34.8	23.4	15.6	10.6	8.5	7.1	8.5	27.7	32.6	17.7	7.8	5.7
		141	49	33	22	15	12	10	12	39	46	25	11	8
	70歳以上	100.0	36.9	10.5	10.5	9.2	6.6	26.3	27.6	23.7	13.2	7.9	9.2	18.4
		76	28	8	8	7	5	20	21	18	10	6	7	14

※網掛け部分％		サンプル数	③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない						④結婚しても、うまくいかないときは、離婚してもかまわない					
			賛成	どちらかと言えば賛成	どちらかと言えば反対	反対	わからない	無回答	賛成	どちらかと言えば賛成	どちらかと言えば反対	反対	わからない	無回答
全体		100.0	17.3	15.1	25.1	16.3	17.5	8.5	28.0	28.3	15.6	6.9	13.0	8.2
		1205	209	182	303	197	211	103	337	341	188	83	157	99
性・年代別	男性	100.0	13.5	15.1	29.3	19.9	14.1	8.1	24.7	25.9	19.9	8.1	14.3	7.1
		518	70	78	152	103	73	42	128	134	103	42	74	37
	20歳代	100.0	31.1	20.0	24.4	8.9	11.1	4.4	35.6	15.6	22.2	4.4	17.8	4.4
		45	14	9	11	4	5	2	16	7	10	2	8	2
	30歳代	100.0	14.3	24.7	26.0	14.3	16.9	3.9	18.2	29.9	15.6	11.7	20.8	3.9
		77	11	19	20	11	13	3	14	23	12	9	16	3
	40歳代	100.0	16.2	16.2	26.5	16.2	19.1	5.9	26.5	29.4	25.0	5.9	8.8	4.4
		68	11	11	18	11	13	4	18	20	17	4	6	3
	50歳代	100.0	12.6	14.2	37.0	16.5	17.3	2.4	29.1	29.1	17.3	7.1	15.0	2.4
		127	16	18	47	21	22	3	37	37	22	9	19	3
	60歳代	100.0	8.1	14.6	31.7	26.0	9.8	9.8	22.8	28.5	22.8	6.5	10.6	8.9
		123	10	18	39	32	12	12	28	35	28	8	13	11
	70歳以上	100.0	10.4	3.9	22.1	31.2	10.4	22.1	19.5	15.6	18.2	13.0	15.6	18.2
		77	8	3	17	24	8	17	15	12	14	10	12	14
	女性	100.0	20.2	15.3	22.0	13.4	20.4	8.7	30.5	30.4	12.4	6.0	11.8	8.8
		678	137	104	149	91	138	59	207	206	84	41	80	60
	20歳代	100.0	30.6	19.4	14.5	4.8	22.6	8.1	17.7	37.1	12.9	8.1	16.1	8.1
		62	19	12	9	3	14	5	11	23	8	5	10	5
	30歳代	100.0	30.2	18.9	16.0	7.5	21.7	5.7	34.0	34.9	12.3	2.8	10.4	5.7
		106	32	20	17	8	23	6	36	37	13	3	11	6
	40歳代	100.0	23.4	21.9	22.7	7.0	20.3	4.7	38.3	35.2	10.9	2.3	8.6	4.7
		128	30	28	29	9	26	6	49	45	14	3	11	6
	50歳代	100.0	15.5	11.8	29.8	13.0	23.6	6.2	29.8	37.9	9.9	2.5	14.3	5.6
		161	25	19	48	21	38	10	48	61	16	4	23	9
	60歳代	100.0	17.7	14.2	24.8	22.0	15.6	5.7	33.3	19.9	17.0	11.3	11.3	7.1
		141	25	20	35	31	22	8	47	28	24	16	16	10
	70歳以上	100.0	7.9	5.3	13.2	25.0	17.1	31.6	21.1	11.8	11.8	13.2	10.5	31.6
		76	6	4	10	19	13	24	16	9	9	10	8	24

（3）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に賛成の理由

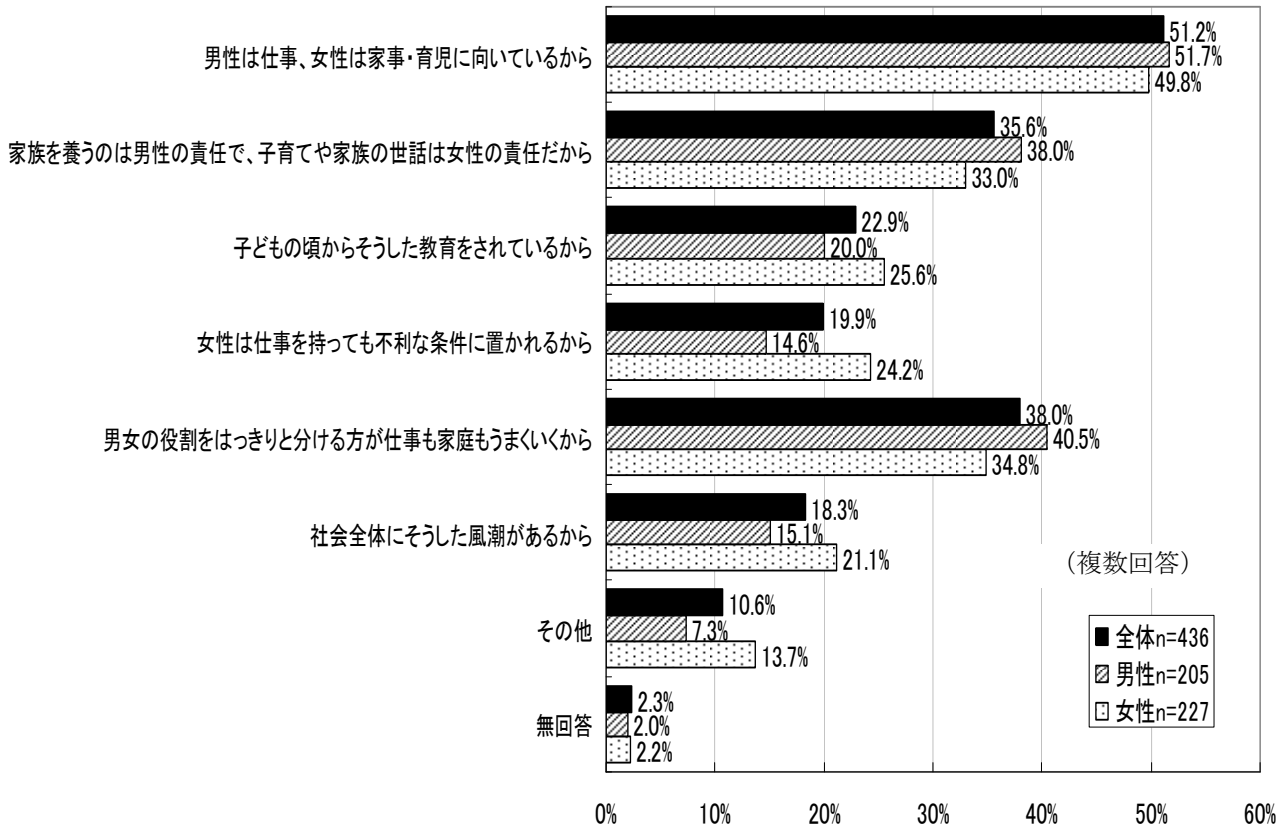
問６　問５の②「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で「賛成」「どちらかというと賛成」と答えた方におたずねします。
その理由は何ですか。次の１から７の中からいくつでもお選びください。

◆5 割の人が男性は仕事、女性は家事・育児に向いているからと回答◆

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に賛成の理由をみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」51.2%の割合が最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」38.0%、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」35.6%の順となっている。

これを性別にみると、「女性は仕事を持っても不利な条件に置かれるから」（男性 14.6%、女性 24.2%）で 9.6 ポイント女性の割合が高くなっている。次いで「社会全体にそうした風潮があるから」（男性 15.1%、女性 21.1%）で 6 ポイント女性の割合が高くなっている。

図６　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」を選んだ理由（全体・性別）



（4）「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方について現実と希望

問７　生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付合い等）の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。次の１から８の中からあなたの現実に最も近い番号を１つだけお選びください。
①

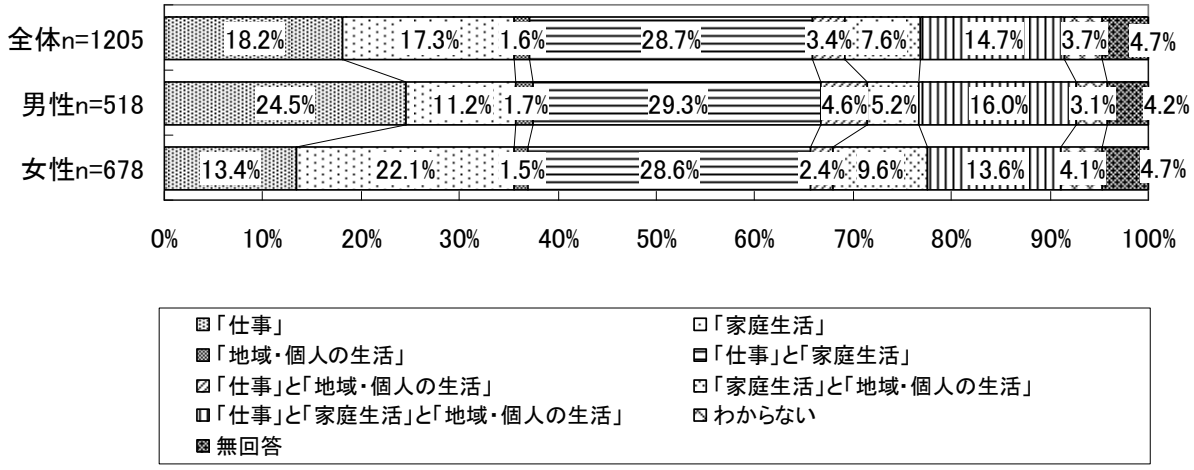
◆女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先◆

「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の現実についてみると、全体では、「仕事」と「家庭生活」28.7％の割合が最も高く、次いで「仕事」18.2％、「家庭生活」17.3％の順となっている。

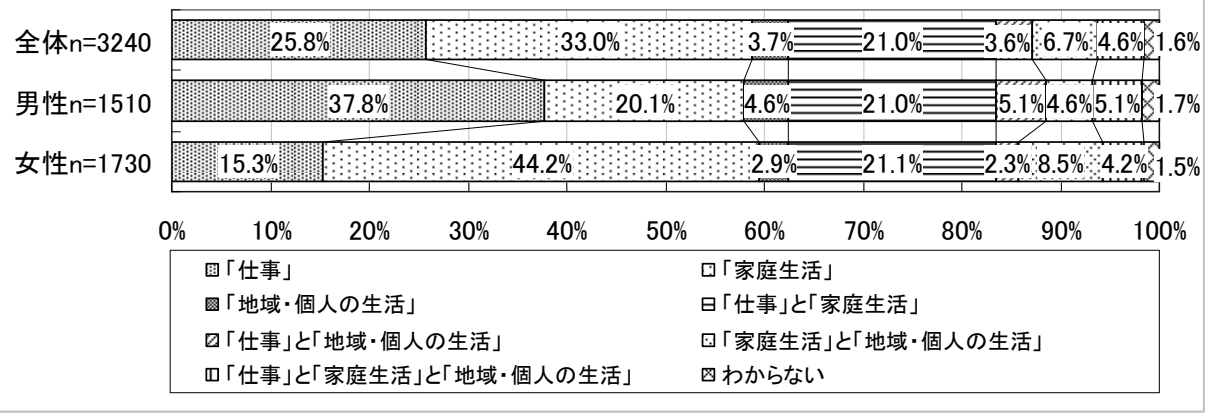
これを性別にみると、女性は男性より「家庭生活」の割合が高くなり、男性は女性より「仕事」の割合が高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「家庭生活」（鹿屋市 17.3％、内閣府：33.0％）の割合は、鹿屋市が低くなっている。これを性別にみると、鹿屋市(男性：11.2％,、女性：22.1％)、内閣府(男性：20.1％、女性：44.2％)で男女ともに鹿屋市が低くなっている。

図７-①　「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（全体・性別）



＜内閣府調査＞　「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(全体・性別)



問７　それでは、あなたの希望はどれに当てはまりますか。次の１から８の中から１つだけお
②　選びください。

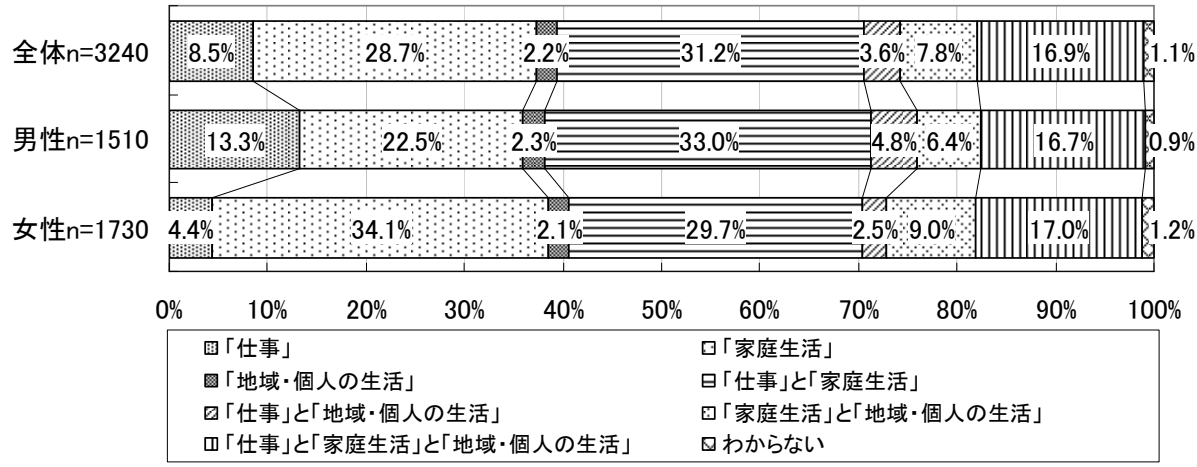
◆男性は「仕事」と「家庭生活」、女性は「家庭生活」を優先◆

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の希望についてみると、全体では「仕事」と「家庭生活」23.5％が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」22.9％、「家庭生活」19.2％の順となっている。

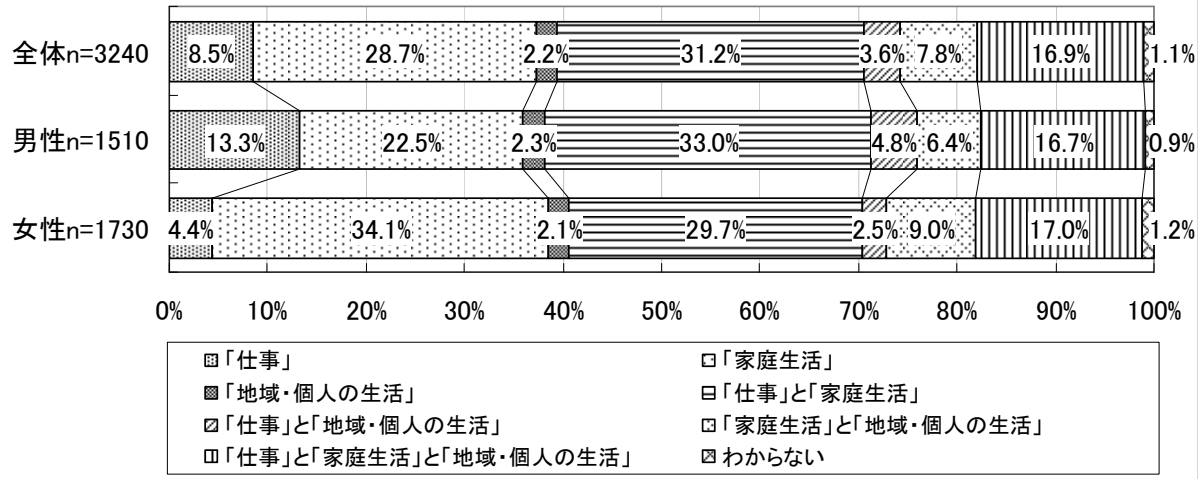
これを性別にみると男性は女性より「仕事」(男性：12.9％、女性：3.8％)と「仕事」と「家庭生活」（男性：25.9％、女性：22.0％）の割合が高くなり、女性は男性より「家庭生活」（男性：16.4％、女性：21.2％）と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（男性：20.3％、女性：24.9％）の割合が高くなっている。

内閣府調査と比較すると、全体では「家庭生活」（鹿屋市：19.2％、内閣府：28.7％）の割合が内閣府より低く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（鹿屋市：22.9％、内閣府：16.9％）の割合が内閣府より高くなっている。

図７-②
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（全体・性別）



＜内閣府調査＞　「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（全体・性別）

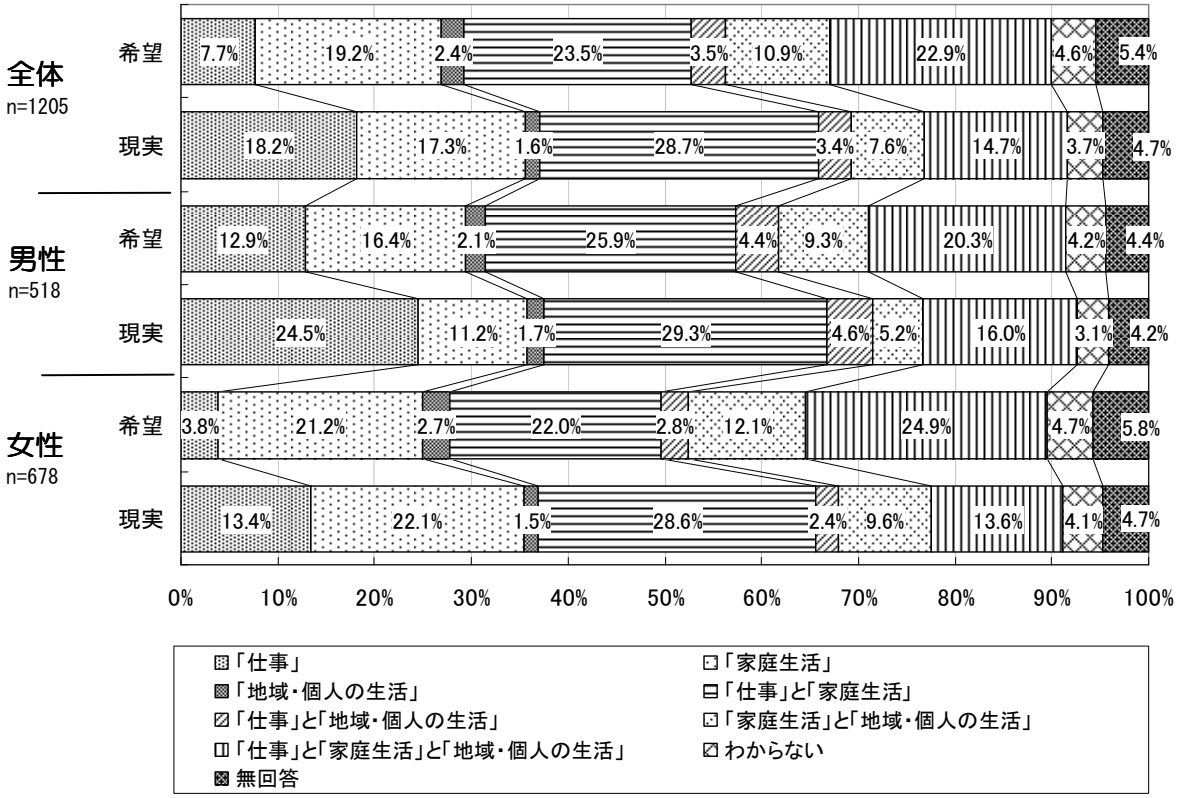


「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人生活」との優先順位の希望と現実について比較すると、全体では「仕事」（希望 7.7%、現実 18.2%）と「仕事」と「家庭生活」（希望 23.5%、現実 28.7%）の割合が希望に対し増加し、「家庭生活」（希望 19.2%、現実 17.3%）と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（希望 22.9%、現実 14.7%）において、現実は希望に対し減少している。

これを性別にみると、男女ともに希望に対し現実の「仕事」と「仕事」と「家庭生活」の割合が増加し、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の割合が減少している。

ただ、「家庭生活」については、男性は希望 16.4%より現実 11.2%が減少し、女性は希望 21.2%より現実 22.1%が増加している。

図7-2
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望と現実）（全体・性別）



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（性・年代別）

		サンプル数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体		100.0%	18.2%	17.3%	1.6%	28.7%	3.4%	7.6%	14.7%	3.7%	4.7%
		1205	219	209	19	346	41	92	177	45	57
性・年代別	男性	100.0%	24.5%	11.2%	1.7%	29.3%	4.6%	5.2%	16.0%	3.1%	4.2%
		518	127	58	9	152	24	27	83	16	22
	20 歳代	100.0%	22.2%	11.1%	6.7%	31.1%	8.9%	0.0%	8.9%	6.7%	4.4%
		45	10	5	3	14	4	0	4	3	2
	30 歳代	100.0%	32.5%	9.1%	1.3%	36.4%	6.5%	0.0%	10.4%	2.6%	1.3%
		77	25	7	1	28	5	0	8	2	1
	40 歳代	100.0%	20.6%	10.3%	1.5%	45.6%	1.5%	0.0%	13.2%	0.0%	7.3%
		68	14	7	1	31	1	0	9	0	5
	50 歳代	100.0%	32.3%	8.7%	0.8%	22.8%	3.9%	3.9%	18.9%	6.3%	2.4%
		127	41	11	1	29	5	5	24	8	3
	60 歳代	100.0%	20.3%	14.6%	0.0%	27.6%	4.9%	8.9%	18.7%	0.0%	4.9%
		123	25	18	0	34	6	11	23	0	6
	70 歳以上	100.0%	15.6%	13.0%	3.9%	20.8%	3.9%	14.3%	19.5%	2.6%	6.5%
		77	12	10	3	16	3	11	15	2	5
	女性	100.0%	13.4%	22.1%	1.5%	28.6%	2.4%	9.6%	13.6%	4.1%	4.7%
		678	91	150	10	194	16	65	92	28	32
	20 歳代	100.0%	22.6%	33.9%	3.2%	14.5%	3.2%	3.2%	8.1%	3.2%	8.1%
		62	14	21	2	9	2	2	5	2	5
	30 歳代	100.0%	10.3%	29.2%	0.9%	32.1%	2.8%	8.5%	6.6%	3.8%	5.7%
		106	11	31	1	34	3	9	7	4	6
	40 歳代	100.0%	16.4%	23.4%	0.8%	36.7%	1.6%	5.5%	10.2%	1.6%	3.9%
		128	21	30	1	47	2	7	13	2	5
	50 歳代	100.0%	13.7%	14.9%	0.0%	36.6%	2.5%	7.4%	18.0%	2.5%	4.3%
		161	22	24	0	59	4	12	29	4	7
	60 歳代	100.0%	10.6%	19.9%	2.1%	22.7%	1.4%	18.4%	18.4%	5.0%	1.4%
		141	15	28	3	32	2	26	26	7	2
	70 歳以上	100.0%	9.2%	19.7%	3.9%	17.1%	2.6%	10.5%	15.8%	11.8%	9.2%
		76	7	15	3	13	2	8	12	9	7

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望）（性・年代別）

		サンプル数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体		100.0%	7.7%	19.2%	2.4%	23.5%	3.5%	10.9%	22.9%	4.6%	5.4%
		1205	93	231	29	283	42	131	276	55	65
性・年代別	男性	100.0%	12.9%	16.4%	2.1%	25.9%	4.4%	9.3%	20.3%	4.2%	4.4%
		518	67	85	11	134	23	48	105	22	23
	20 歳代	100.0%	8.9%	11.1%	4.4%	28.9%	8.9%	8.9%	13.3%	8.9%	6.7%
		45	4	5	2	13	4	4	6	4	3
	30 歳代	100.0%	13.0%	19.5%	3.9%	29.9%	3.9%	9.1%	14.3%	3.9%	2.6%
		77	10	15	3	23	3	7	11	3	2
	40 歳代	100.0%	7.3%	22.1%	2.9%	32.4%	1.5%	4.4%	23.5%	0.0%	5.9%
		68	5	15	2	22	1	3	16	0	4
	50 歳代	100.0%	13.4%	15.7%	0.8%	26.0%	3.9%	3.1%	26.8%	7.9%	2.4%
		127	17	20	1	33	5	4	34	10	3
	60 歳代	100.0%	16.3%	14.6%	0.8%	21.1%	6.5%	13.0%	20.3%	0.8%	6.5%
		123	20	18	1	26	8	16	25	1	8
	70 歳以上	100.0%	14.3%	15.6%	2.6%	22.1%	2.6%	18.2%	16.9%	3.9%	3.9%
		77	11	12	2	17	2	14	13	3	3
	女性	100.0%	3.8%	21.2%	2.7%	22.0%	2.8%	12.1%	24.9%	4.7%	5.8%
		678	26	144	18	149	19	82	169	32	39
	20 歳代	100.0%	6.4%	19.4%	8.1%	21.0%	0.0%	9.7%	16.1%	8.1%	11.3%
		62	4	12	5	13	0	6	10	5	7
	30 歳代	100.0%	1.9%	34.0%	4.7%	14.2%	0.0%	11.3%	24.5%	4.7%	4.7%
		106	2	36	5	15	0	12	26	5	5
	40 歳代	100.0%	2.3%	27.3%	0.8%	25.8%	1.6%	7.0%	28.9%	1.6%	4.7%
		128	3	35	1	33	2	9	37	2	6
	50 歳代	100.0%	5.6%	16.8%	0.6%	28.0%	3.7%	10.6%	24.8%	5.0%	5.0%
		161	9	27	1	45	6	17	40	8	8
	60 歳代	100.0%	3.5%	14.9%	2.1%	19.9%	5.7%	17.7%	27.7%	5.0%	3.5%
		141	5	21	3	28	8	25	39	7	5
	70 歳以上	100.0%	3.9%	15.8%	3.9%	18.4%	2.6%	17.1%	21.1%	6.6%	10.5%
		76	3	12	3	14	2	13	16	5	8

（5）男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

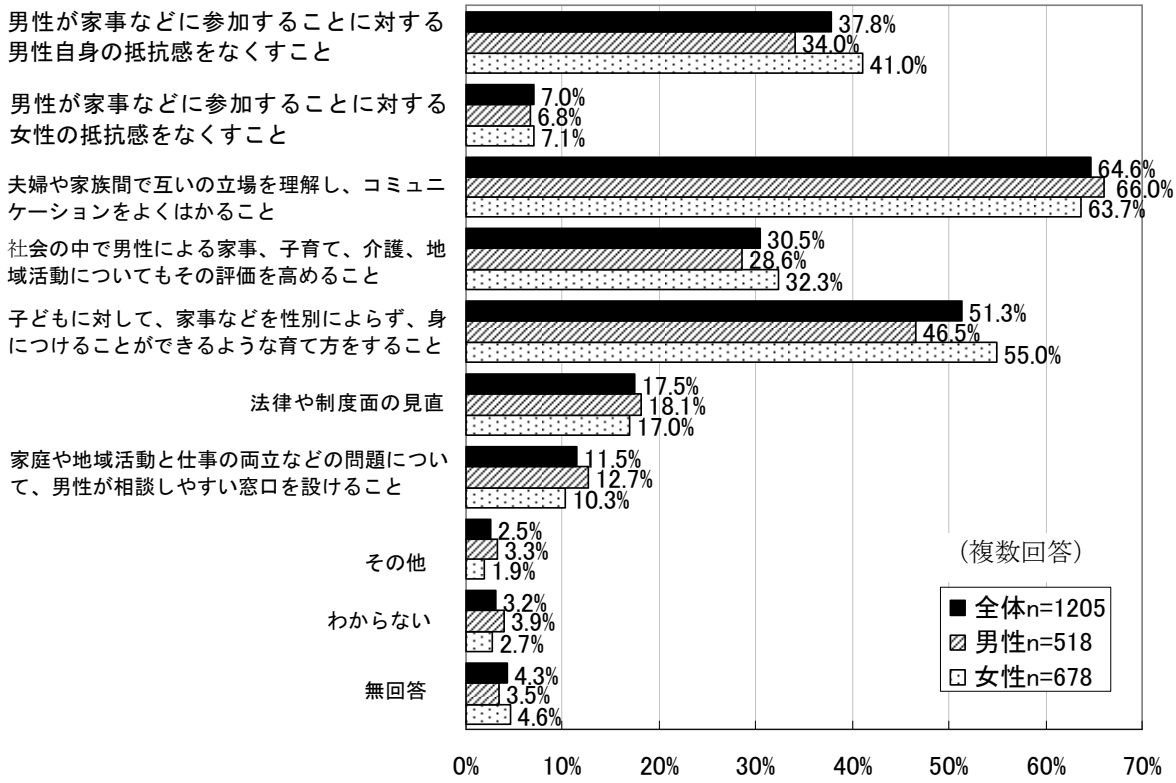
問８　あなたは、今後、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の１から９の中から３つ以内でお選びください。

◆夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかることや子どもに対して、家事などを性別によらず、身につけることができるような育て方をすることが必要との回答が多い◆

男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」64.6%の割合が最も高く、次いで、「子どもに対して、家事などを性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」51.3%、男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」37.8%の順となっている。

これを性別にみると、「子どもに対して、家事などを性別によらず、身につけることができるような育て方をすること」（男性 46.5%、女性 55.0%）、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（男性 34.0%、女性 41.0%）、「社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること」（男性 28.6%、女性 32.3%）において女性の割合が高くなっている。

図８　男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと（全体・性別）



４　就労について

（1）女性が仕事をもつことについて

問９　一般的に女性が仕事をもつことについて、あなたはどう思われますか。次の１から７の中からあてはまる番号を１つお選びください。

◆子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよいが男女ともに高い割合◆

女性が仕事をもつことについてみると、全体では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」41.9%の割合が最も高く、次いで「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」33.8%の順となっている。

これを性別にみると、男女ともに「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が高い割合となっている。

年代別にみると、70 歳代以上を除き、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」の割合が３割、20 歳、40 歳代を除いたすべての年代で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合も４割以上を占めている。

内閣府調査や鹿児島県調査と比較してみると、鹿屋市と鹿児島県の調査結果は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた割合が最も高く、次いで「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と答えた割合が高くなっているが、国においては「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。

図９　女性が仕事を持つことについて（全体・性別）

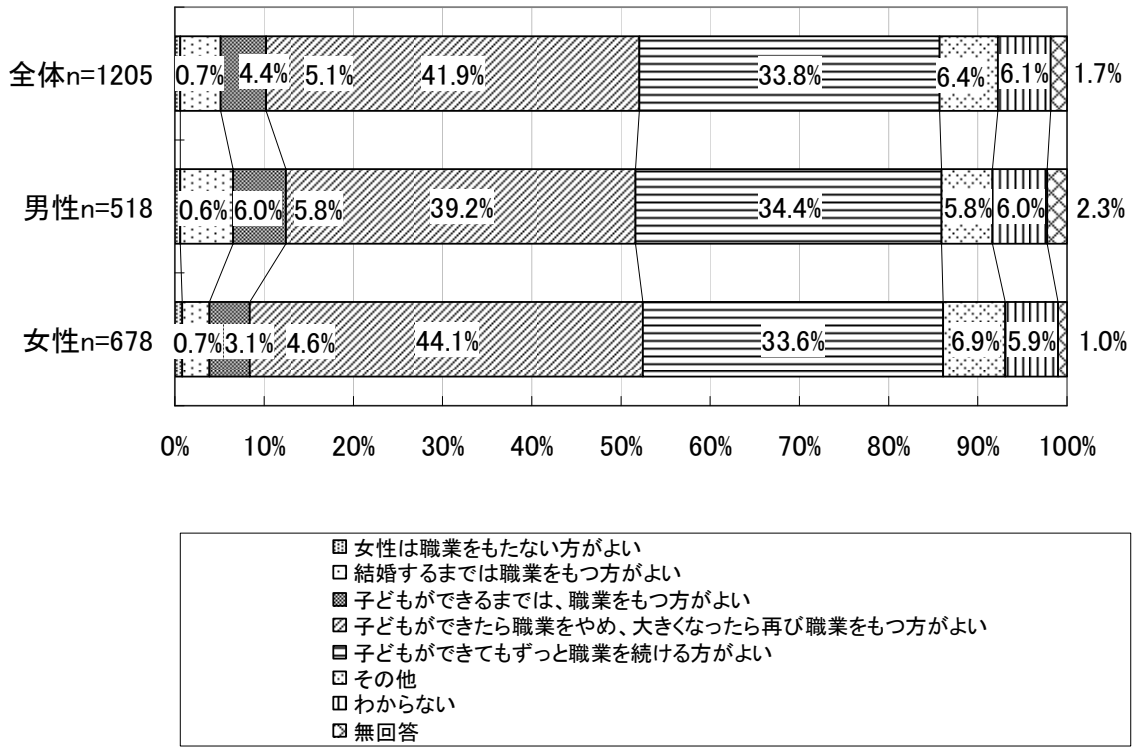
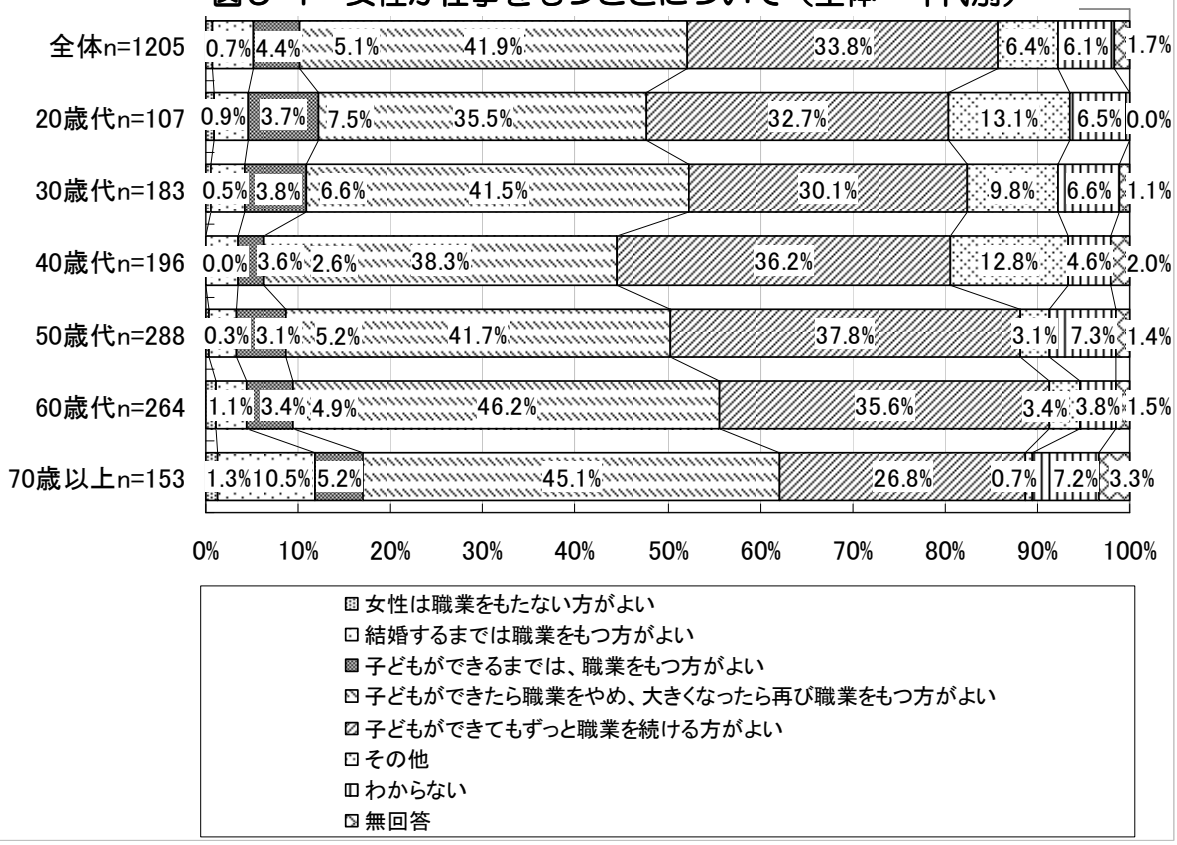
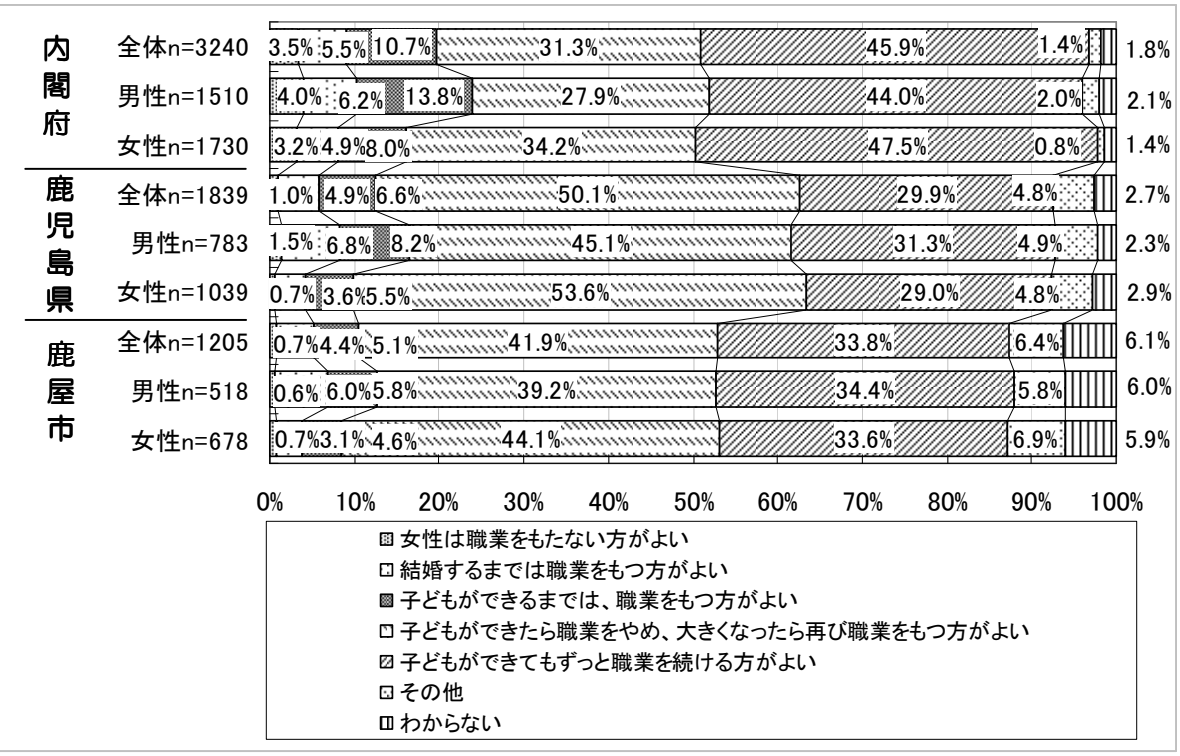


図9-1　女性が仕事をもつことについて（全体・年代別）



＜「平成 21 年内閣府調査・平成 23 年鹿児島県調査」との比較＞



女性が仕事をもつことについて（全体・性別）

		サンプル数	女性は仕事をもたない方がよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができてもずっと職業を続ける方がよい	その他	わからない	無回答
全体		100.0%	0.7%	4.4%	5.1%	41.9%	33.8%	6.4%	6.1%	1.7%
		1205	8	53	61	505	407	77	73	21
性・年代別	男性	100.0%	0.6%	6.0%	5.8%	39.2%	34.4%	5.8%	6.0%	2.3%
		518	3	31	30	203	178	30	31	12
	20 歳代	100.0%	2.2%	4.4%	6.7%	28.9%	35.5%	11.1%	11.1%	0.0%
		45	1	2	3	13	16	5	5	0
	30 歳代	100.0%	0.0%	6.5%	10.4%	32.5%	33.8%	11.7%	3.9%	1.3%
		77	0	5	8	25	26	9	3	1
	40 歳代	100.0%	0.0%	5.9%	2.9%	36.8%	38.2%	11.8%	1.5%	2.9%
		68	0	4	2	25	26	8	1	2
	50 歳代	100.0%	0.0%	4.7%	5.5%	38.6%	35.4%	3.1%	10.2%	2.4%
		127	0	6	7	49	45	4	13	3
	60 歳代	100.0%	1.6%	4.1%	4.1%	45.6%	35.8%	3.2%	2.4%	3.2%
		123	2	5	5	56	44	4	3	4
	70 歳以上	100.0%	0.0%	11.7%	6.5%	45.4%	27.3%	0.0%	6.5%	2.6%
		77	0	9	5	35	21	0	5	2
	女性	100.0%	0.7%	3.1%	4.6%	44.1%	33.6%	6.9%	5.9%	1.0%
		678	5	21	31	299	228	47	40	7
	20 歳代	100.0%	0.0%	3.2%	8.1%	40.3%	30.6%	14.5%	3.2%	0.0%
		62	0	2	5	25	19	9	2	0
	30 歳代	100.0%	0.9%	1.9%	3.8%	48.1%	27.4%	8.5%	8.5%	0.9%
		106	1	2	4	51	29	9	9	1
	40 歳代	100.0%	0.0%	2.3%	2.3%	39.1%	35.2%	13.3%	6.3%	1.6%
		128	0	3	3	50	45	17	8	2
	50 歳代	100.0%	0.6%	1.9%	5.0%	44.1%	39.8%	3.1%	5.0%	0.6%
		161	1	3	8	71	64	5	8	1
	60 歳代	100.0%	0.7%	2.8%	5.7%	46.8%	35.5%	3.5%	5.0%	0.0%
		141	1	4	8	66	50	5	7	0
	70 歳以上	100.0%	2.6%	9.2%	3.9%	44.7%	26.3%	1.3%	7.9%	3.9%
		76	2	7	3	34	20	1	6	3

（2）女性が仕事をもつことについて、「仕事を一時的に辞める」を選んだ理由

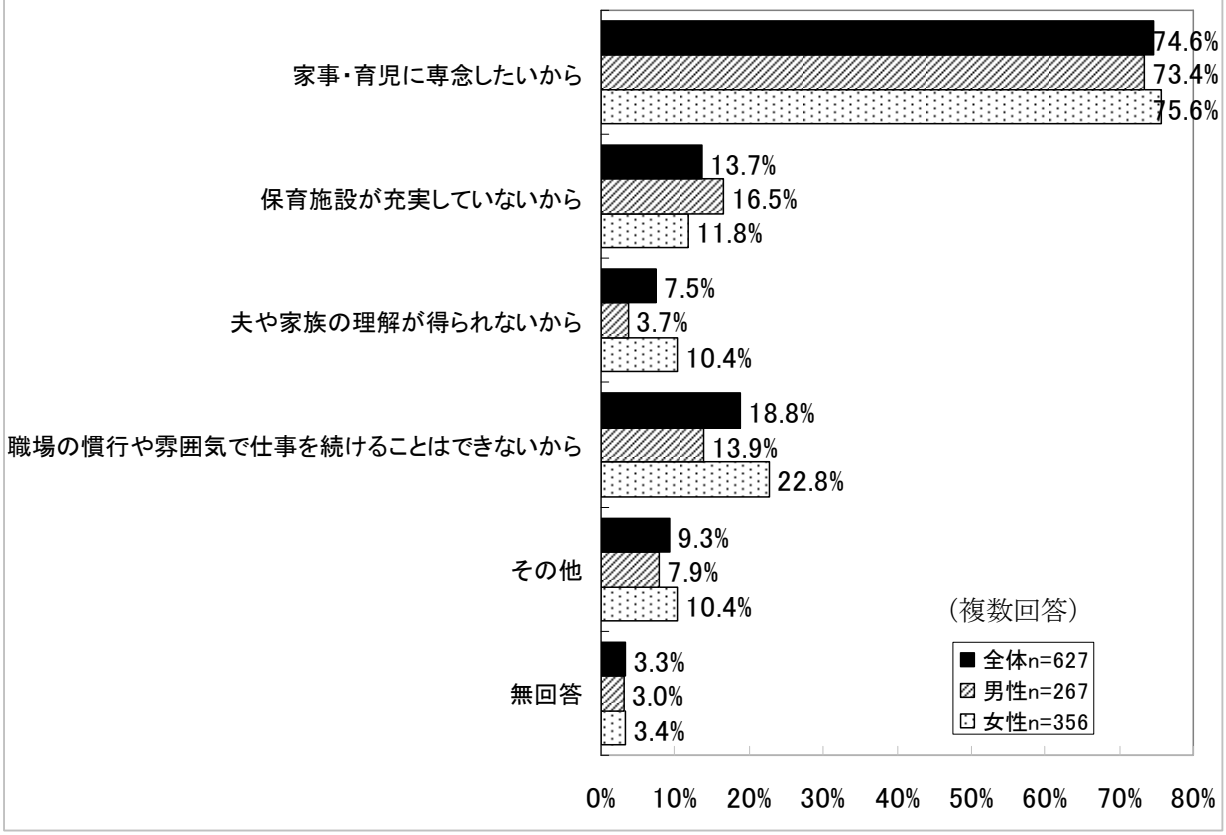
問１０　問９で１から４を選んだ方におたずねします。そう思われた理由は何ですか。次の１から５の中からあてはまる番号をお選びください。（○印はいくつでも）

◆家事・育児に専念したいからが７割以上。次いで職場の慣行や雰囲気などによる退職が２割弱◆

女性が一時的に職業を辞めるを選んだ理由についてみると、全体では「家事・育児に専念したいから」74.6%の割合が最も高く、次いで「職場の慣行や雰囲気で仕事を続けることはできないから」18.8%、「保育施設が充実していないから」13.7%の順となっている。

これを性別にみると、男女ともに「家事・育児に専念したいから」が最も多く、次いで男性は「保育施設が充実していないから」の順で、女性は「職場の慣行や雰囲気で仕事を続けることはできないから」の順となっている。

図１０　女性が一時的に職業をやめることについての理由（全体・性別）



（３）性別による処遇の異なりについて

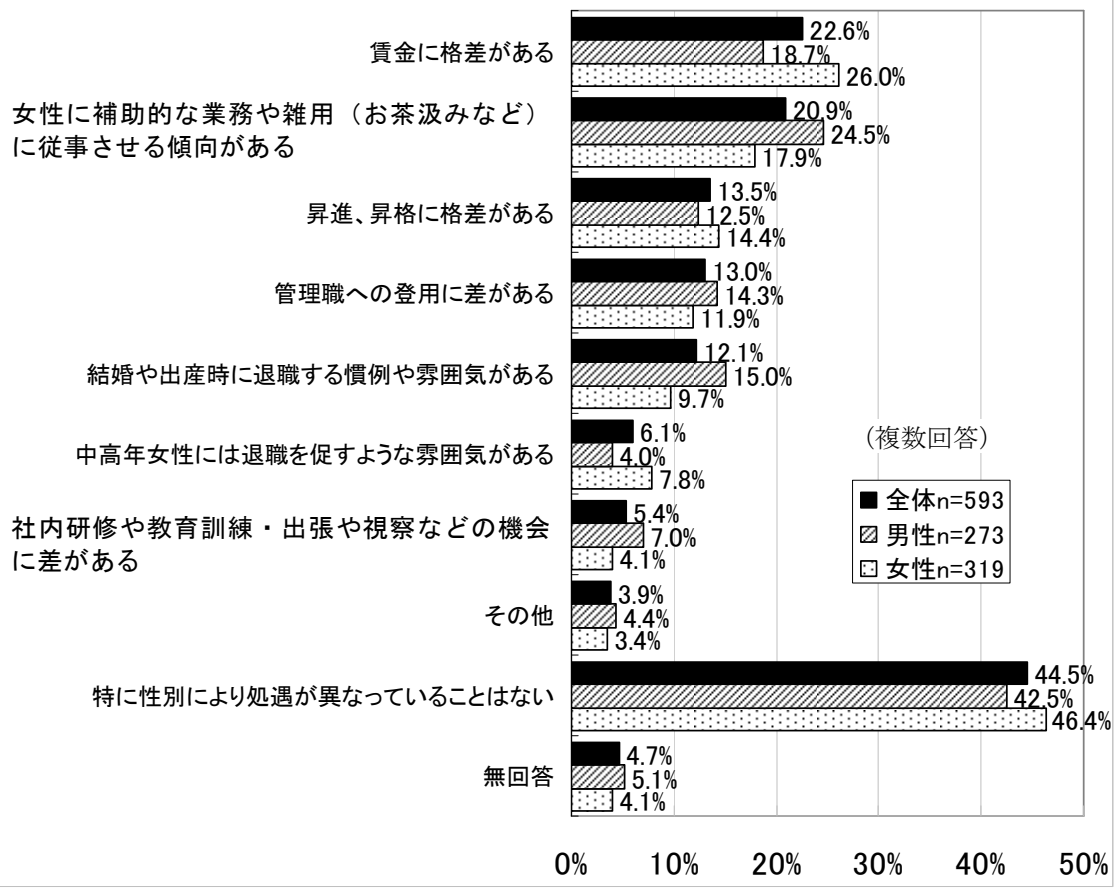
【現在、勤めにより働いている方（正社員、正職員、会社役員、臨時職員、パート、アルバイト、嘱託等）におたずねします。】
問１１　あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。次の１から９の中からあてはまる番号をいくつでもお選びください。

◆「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み）などに従事させる傾向がある」と答えた割合は女性より男性の割合が高い◆

職場での性別による処遇の異なりについてみると全体では、「特に性別により処遇が異なっていることはない」44.5％の割合が最も高く、次いで「賃金に格差がある」が22.6％、「女性に補助的な業務や雑用に従事させる傾向がある」が 20.9％となっている。

これを性別にみると、「賃金に格差がある」（男性：18.7％、女性 26.0％）が女性の割合が高く、「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲みなど）に従事させる傾向がある」（男性：24.5％、女性：17.9％）において男性の割合が高くなっている。

図１１　性別による処遇の異なりについて（全体・性別）



５　高齢者介護について
（１）高齢者介護について今後必要なこと

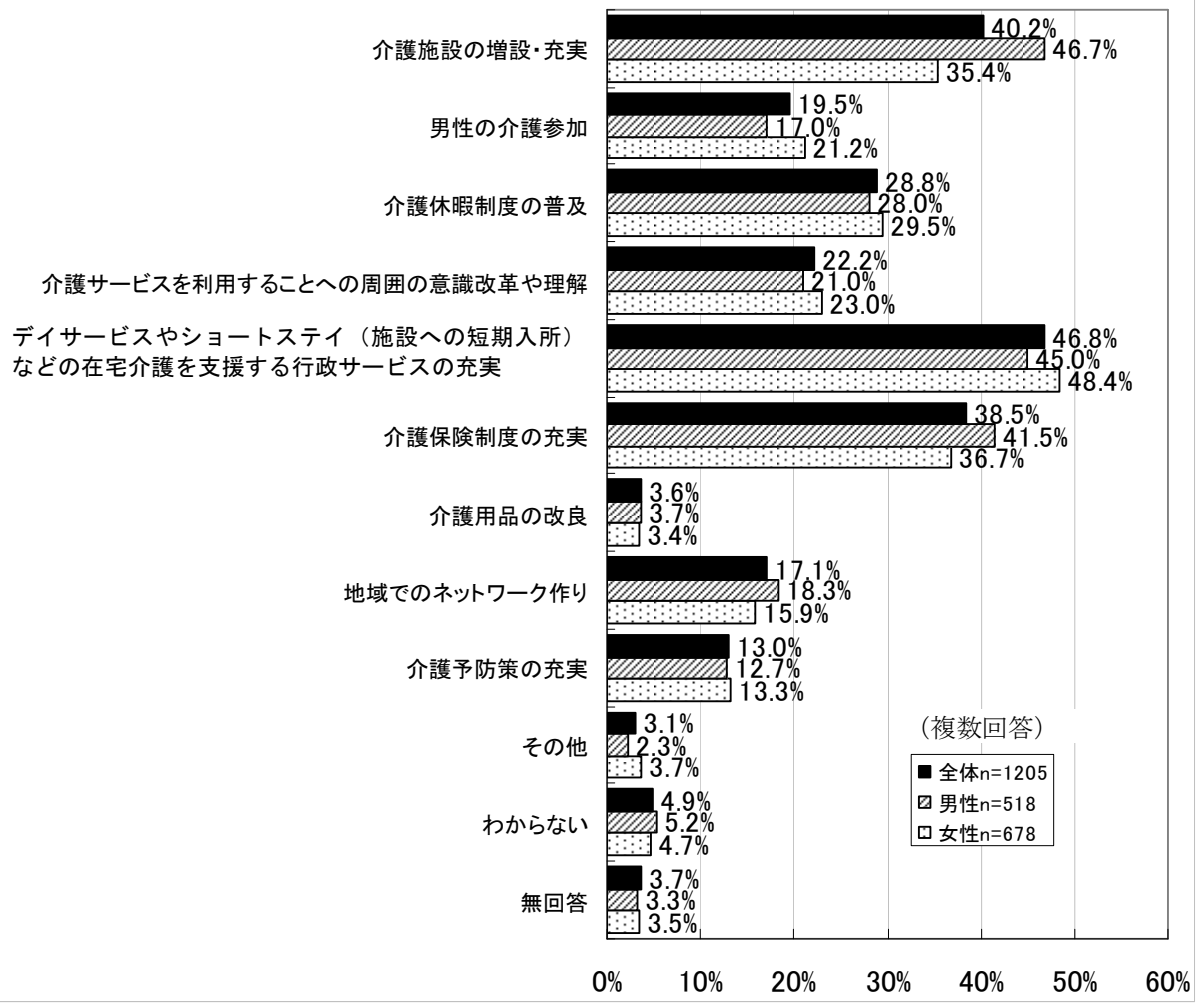
問１２　高齢者介護について今後どのようなことが必要だと思いますか。次の 1 から 11 の中からあてはまる番号をお選びください（○印は３つまで）

◆男女ともに在宅介護を支援する行政サービスの充実と介護施設の増設・充実が４割を超える回答◆

高齢者介護について今後必要と思うことについてみると、全体では「デイサービスやショートステイ（施設への短期入所）などの在宅介護を支援する行政サービスの充実」46.8％の割合が最も高く、次いで「介護施設の増設・充実」40.2％、介護保険制度の充実」38.5％の順となっている。

これを性別にみると、男性は「介護施設の増設・充実」が最も高く、女性は「デイサービスやショートステイ（施設への短期入所）などの在宅介護を支援する行政サービスの充実」が最も高くなっている。

図１２　高齢者介護で今後必要と思うこと（全体・性別）



６　女性の政策参画について
（１）方針や施策の決定時における女性の意見の反映度

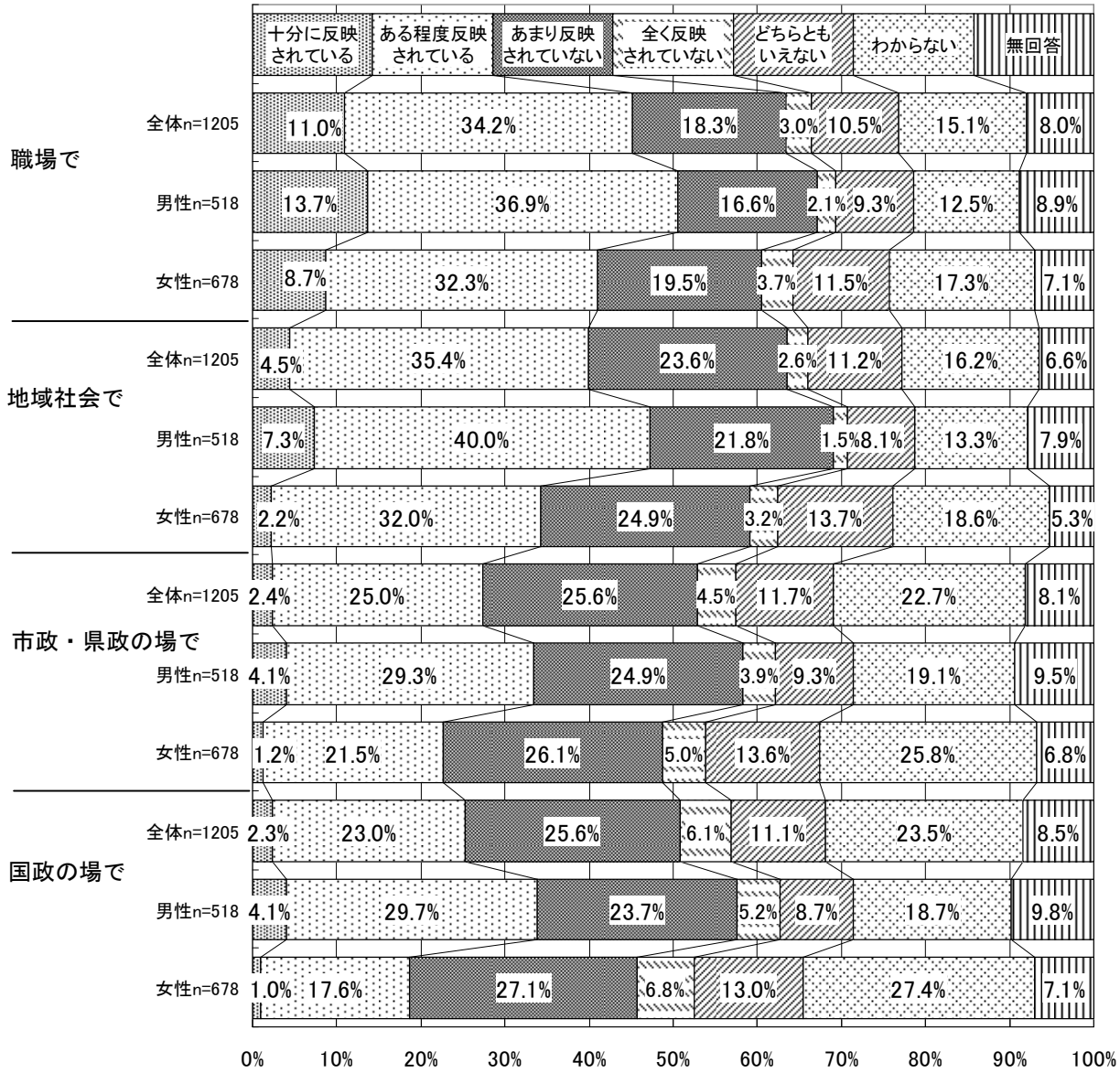
問１３　次の①から④の分野でその方針や施策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。次の１から６の中からあてはまる番号に○をつけてください。

◆職場や地域社会では反映度が高く、市政・県政の場と国政の場では低い◆

方針・施策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、全体では、「反映されている」の割合（職場で：45.2%、地域社会で：39.9%）が「反映されていない」の割合（職場で：21.3%。地域社会で：26.2%）を上回っている。

これを性別にみると、すべての項目において、「反映されている」と感じる人の割合は、男性が女性を上回っている。

図１３　方針や施策の決定時における女性の意見の反映度（全体・性別）



施策や方針決定時における女性の意見の反映度（全体・性別）

※網掛け部分%			サンプル数	①職場で							②地域社会で						
				十分の反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	十分の反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体			100.0	11.0	34.2	18.3	3.0	10.5	15.1	8.0	4.5	35.4	23.6	2.6	11.2	16.2	6.6
			1205	132	412	220	36	126	182	97	54	427	284	31	135	195	79
性・年代別	男性		100.0	13.7	36.9	16.6	2.1	9.3	12.5	8.9	7.3	40.0	21.8	1.5	8.1	13.3	7.9
			518	71	191	86	11	48	65	46	38	207	113	8	42	69	41
		20歳代	100.0	26.7	35.5	2.2	0.0	11.1	22.2	2.2	6.7	28.9	22.2	0	13.3	26.7	2.2
			45	12	16	1	0	5	10	1	3	13	10	0	6	12	1
		30歳代	100.0	23.4	35.1	15.6	5.2	9.1	11.7	0.0	14.3	35.1	15.6	5.2	11.7	18.2	0.0
			77	18	27	12	4	7	9	0	11	27	12	4	9	14	0
		40歳代	100.0	16.2	36.8	22.1	1.5	10.3	10.3	2.9	8.8	47.1	20.6	1.5	4.4	14.7	2.9
			68	11	25	15	1	7	7	2	6	32	14	1	3	10	2
		50歳代	100.0	13.4	42.5	15.7	2.4	9.4	12.6	3.9	7.1	52.0	18.9	0.0	7.1	11.8	3.1
			127	17	54	20	3	12	16	5	9	66	24	0	9	15	4
		60歳代	100.0	7.3	43.1	20.3	2.4	8.1	7.3	11.4	4.1	35.8	33.3	1.6	6.5	6.5	12.2
			123	9	53	25	3	10	9	14	5	44	41	2	8	8	15
		70歳以上	100.0	5.2	20.8	16.9	0.0	9.1	16.9	31.2	5.2	32.5	15.6	1.3	9.1	11.7	24.7
			77	4	16	13	0	7	13	24	4	25	12	1	7	9	19
	女性		100.0	8.7	32.3	19.5	3.7	11.5	17.3	7.1	2.2	32.0	24.9	3.2	13.7	18.6	5.3
			678	59	219	132	25	78	117	48	15	217	169	22	93	126	36
		20歳代	100.0	8.1	30.6	24.2	3.2	17.7	16.1	0.0	4.8	30.6	21.0	4.8	14.5	24.2	0.0
			62	5	19	15	2	11	10	0	3	19	13	3	9	15	0
		30歳代	100.0	11.3	39.6	24.5	2.8	7.5	14.2	0.0	3.8	33.0	28.3	3.8	11.3	19.8	0.0
			106	12	42	26	3	8	15	0	4	35	30	4	12	21	0
		40歳代	100.0	11.7	43.8	16.4	3.1	11.7	10.2	3.1	0.8	39.8	25.0	1.6	13.3	17.2	2.3
			128	15	56	21	4	15	13	4	1	51	32	2	17	22	3
		50歳代	100.0	9.9	29.2	22.4	5.0	15.5	13.7	4.3	2.5	32.9	26.7	3.1	17.4	14.3	3.1
			161	16	47	36	8	25	22	7	4	53	43	5	28	23	5
		60歳代	100.0	5.0	27.7	17.0	4.3	9.2	27.7	9.2	1.4	31.2	26.2	2.8	14.9	19.1	4.3
			141	7	39	24	6	13	39	13	2	44	37	4	21	27	6
		70歳以上	100.0	5.3	21.1	11.8	1.3	7.9	23.7	28.9	1.3	19.7	17.1	3.9	7.9	23.7	26.3
			76	4	16	9	1	6	18	22	1	15	13	3	6	18	20

※網掛け部分%			サンプル数	③市政・県政の場で							④国政の場で						
				十分の反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	十分の反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体			100.0	2.4	25.0	25.6	4.5	11.7	22.7	8.1	2.3	23.0	25.6	6.1	11.1	23.5	8.5
			1205	29	301	308	54	141	274	98	28	277	308	73	134	283	102
性・年代別	男性		100.0	4.1	29.3	24.9	3.9	9.3	19.1	9.5	4.1	29.7	23.7	5.2	8.7	18.7	9.8
			518	21	152	129	20	48	99	49	21	154	123	27	45	97	51
		20歳代	100.0	0.0	24.4	20.0	2.2	17.8	33.3	2.2	0.0	31.1	17.8	4.4	17.8	26.7	2.2
			45	0	11	9	1	8	15	1	0	14	8	2	8	12	1
		30歳代	100.0	7.8	18.2	24.7	7.8	14.3	27.3	0.0	7.8	24.7	19.5	10.4	11.7	26.0	0.0
			77	6	14	19	6	11	21	0	6	19	15	8	9	20	0
		40歳代	100.0	5.9	36.8	25.0	2.9	7.4	19.1	2.9	5.9	36.8	25.0	7.4	7.4	14.7	2.9
			68	4	25	17	2	5	13	2	4	25	17	5	5	10	2
		50歳代	100.0	3.1	39.4	26.0	3.9	7.1	17.3	3.1	3.9	37.8	25.2	3.1	7.1	19.7	3.1
			127	4	50	33	5	9	22	4	5	48	32	4	9	25	4
		60歳代	100.0	4.1	26.8	31.7	3.3	8.1	12.2	13.8	3.3	26.8	30.1	4.9	7.3	13.8	13.8
			123	5	33	39	4	10	15	17	4	33	37	6	9	17	17
		70歳以上	100.0	2.6	24.7	15.6	2.6	6.5	15.6	32.5	2.6	19.5	18.2	2.6	6.5	15.6	35.1
			77	2	19	12	2	5	12	25	2	15	14	2	5	12	27
	女性		100.0	1.2	21.5	26.1	5.0	13.6	25.8	6.8	1.0	17.6	27.1	6.8	13.0	27.4	7.1
			678	8	146	177	34	92	175	46	7	119	184	46	88	186	48
		20歳代	100.0	1.6	22.6	19.4	8.1	14.5	33.9	0.0	1.6	16.1	24.2	9.7	16.1	32.3	0.0
			62	1	14	12	5	9	21	0	1	10	15	6	10	20	0
		30歳代	100.0	2.8	18.9	34.9	4.7	17.0	21.7	0.0	2.8	15.1	38.7	5.7	15.1	22.6	0.0
			106	3	20	37	5	18	23	0	3	16	41	6	16	24	0
		40歳代	100.0	0.8	28.1	25.8	5.5	13.3	23.4	3.1	0.8	21.9	26.6	8.6	11.7	27.3	3.1
			128	1	36	33	7	17	30	4	1	28	34	11	15	35	4
		50歳代	100.0	0.0	22.4	29.2	7.5	14.3	23.0	3.7	0.0	18.6	31.7	8.1	14.3	23.6	3.7
			161	0	36	47	12	23	37	6	0	30	51	13	23	38	6
		60歳代	100.0	1.4	21.3	25.5	2.1	13.5	29.8	6.4	0.7	18.4	25.5	5.7	12.1	31.2	6.4
			141	2	30	36	3	19	42	9	1	26	36	8	17	44	9
		70歳以上	100.0	1.3	13.2	14.5	1.3	7.9	28.9	32.9	1.3	11.8	7.9	1.3	9.2	32.9	35.5
			76	1	10	11	1	6	22	25	1	9	6	1	7	25	27

（２）政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

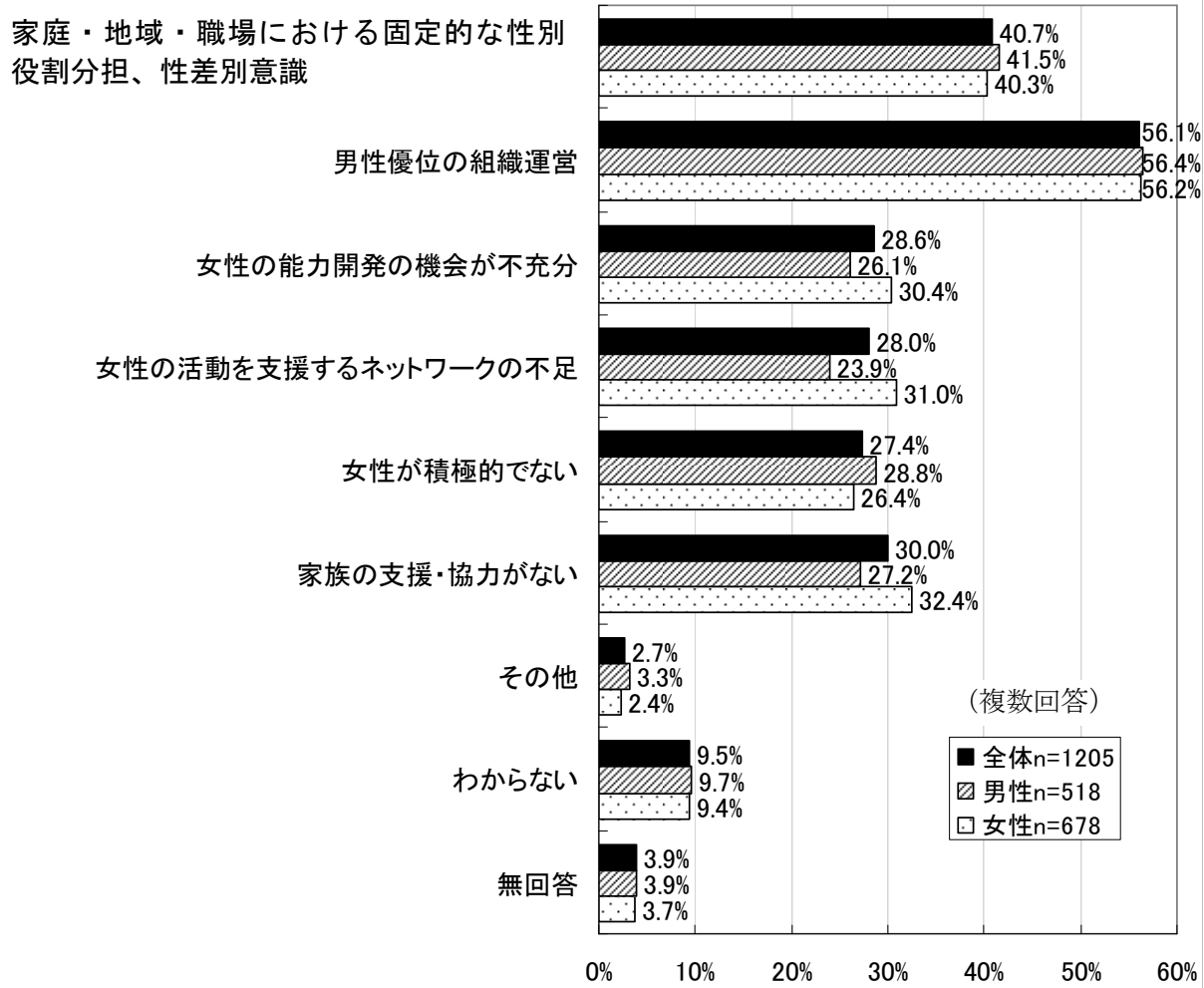
問１４　現在わが国の政策や方針決定過程の女性の参画状況は、先進国の中で低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由は、何だと思いますか。（○はいくつでも）

◆男性優位の組織運営と５割が回答◆

政策の企画や方針決定過程に女性が進出していない理由をみると、全体では、「男性優位の組織運営」56.1％の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」40.7％となっている。

これを性別にみると、「女性の活動を支援するネットワークの不足」において、女性31％の割合が男性23.9％の割合より高くなっている。

図１４　政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由（全体・性別）



７　配偶者等からの暴力について

（１）配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）や相談窓口について

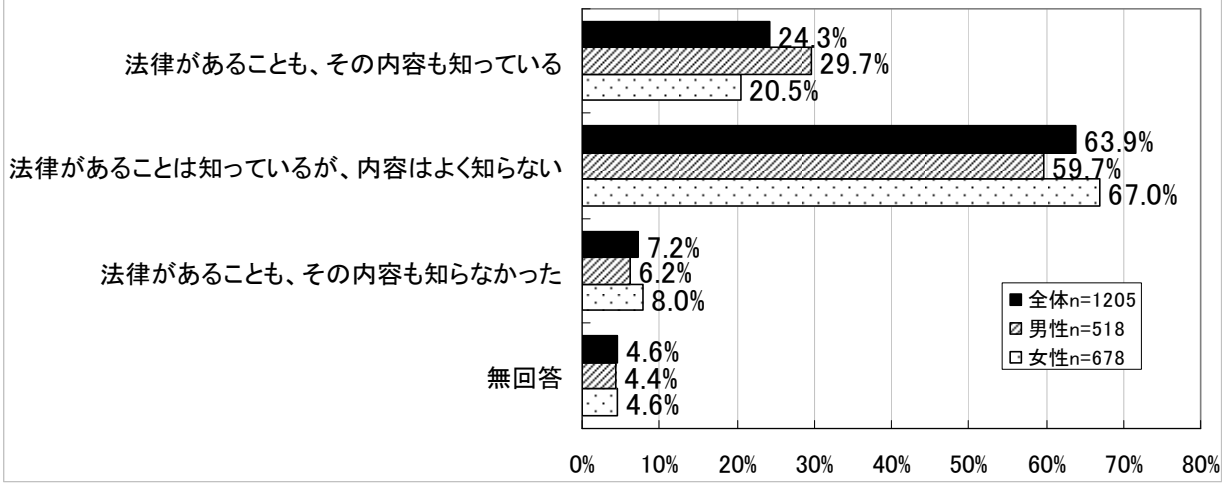
問１５　あなたは、「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律（配偶者暴力防止法）」を知っていますか。次の１から３の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

◆法律があることは知っているが、内容はよく知らないと６割が回答◆

配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律の認知度をみると、全体では、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」63.9%の割合が最も高く、次いで「法律があることもその内容も知っている」24.3%の順となっている。

これを性別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」において、男性29.7%の割合が女性20.5%の割合より高くなっている。

図１５　配偶者暴力防止法の認知度（全体・性別）



配偶者暴力防止法の認知度（全体・性別）

		サンプル数	法律があることもその内容も知っている	法律があることは知っているが、内容はよく知らない	法律があることも、その内容も知らなかった	無回答
全体		100.0%	24.3%	63.9%	7.2%	4.6%
		1205	293	770	87	55
性別	男性	100.0%	29.7%	59.7%	6.2%	4.4%
		518	154	309	32	23
	女性	100.0%	20.5%	67.0%	8.0%	4.6%
		678	139	454	54	31

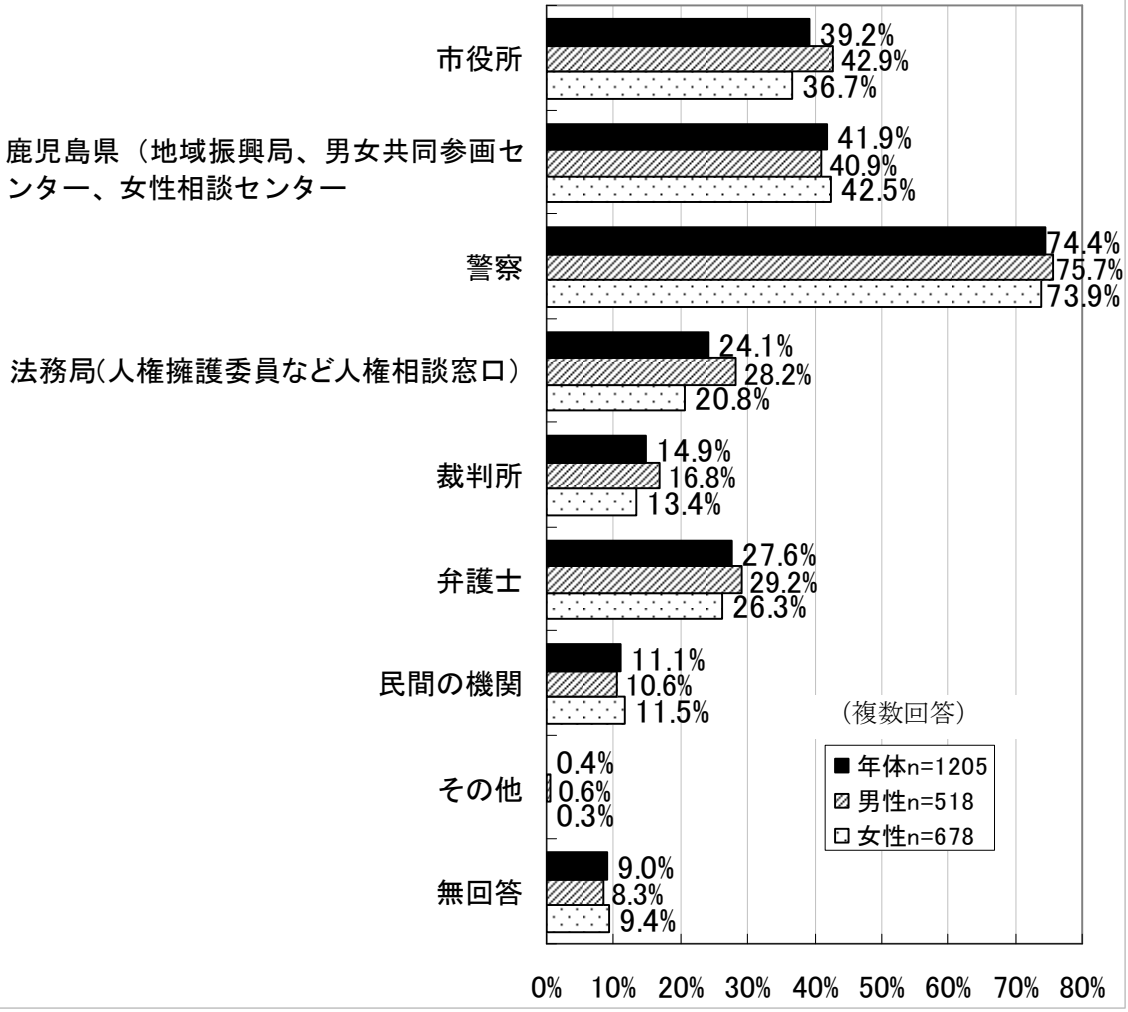
問１６　配偶者等からの暴力について相談できる窓口をあなたは知っていますか。次の１から８の中から、知っているものすべてに○をつけてください。
（あてはまるものすべてに○）

◆相談窓口は男女ともに警察が７割を占める◆

配偶者等からの暴力について相談窓口の認知度をみると、全体では、「警察」74.4%の割合が最も高く、次いで「市役所」39.2%、「弁護士」27.6%の順となっている。

これを性別にみると、市役所（男性：42.9%、女性 36.7%）、法務局（男性：28.2%、女性 20.8%）といずれも男性の割合が高くなっている。県地域振興局、男女共同参画センター、女性相談センター（男性：40.9%、女性：42.5%）は女性の割合が高くなっている。

図１６　相談窓口の認知度（全体・性別）



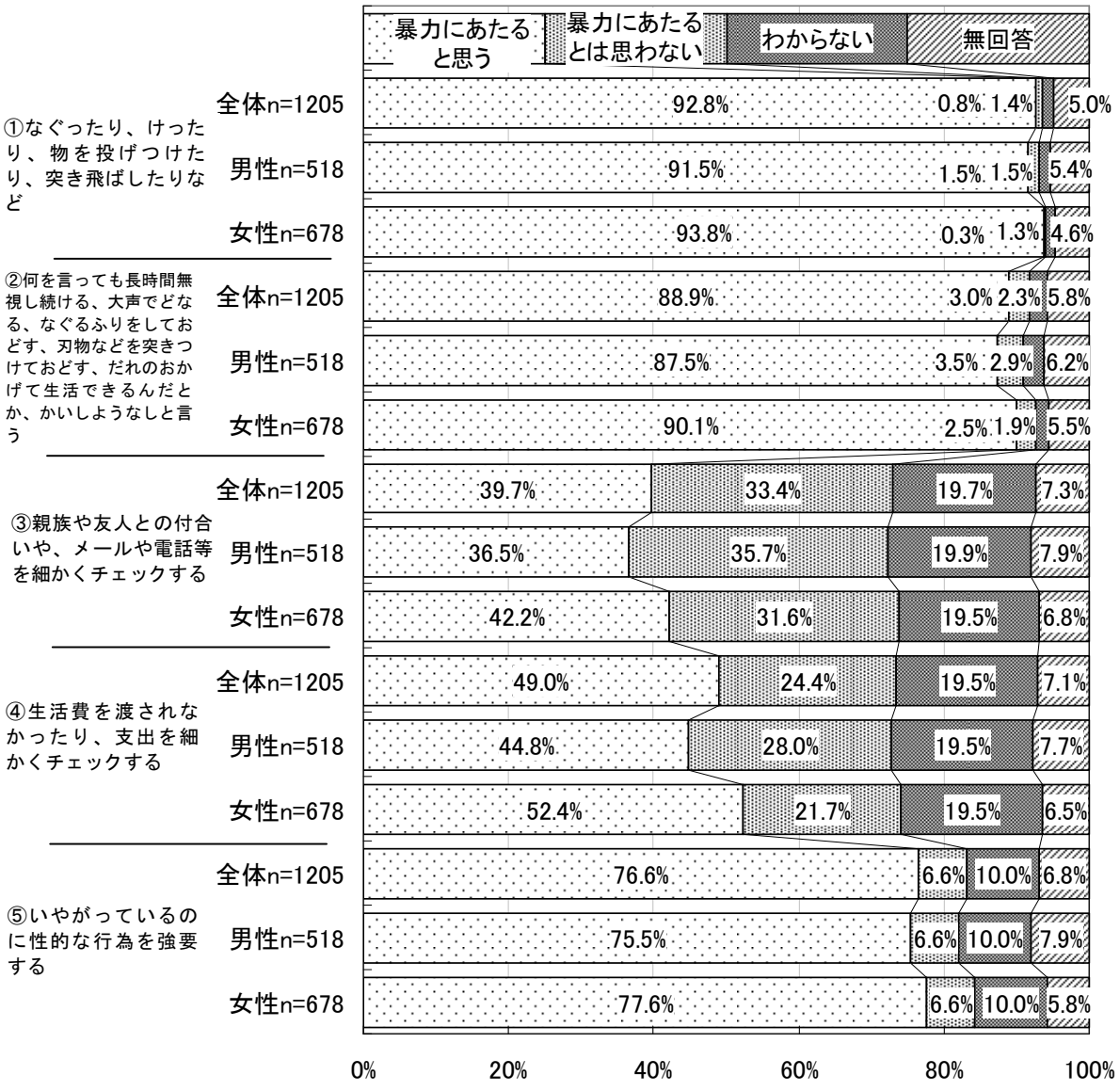
問１７　あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
①から⑤のそれぞれについて、１から３の中からあなたの考えに近い番号に○をつけてください。

◆身体的、精神的は８割を超える人が暴力にあたると回答◆

夫婦間の暴力についての考え方をみると、すべての項目で「暴力にあたる」割合が「暴力にあたるとは思わない」を上回っており、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど」と「何を言っても長時間無視し続ける、大声でどなる、なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、だれのおかげで生活できるんだとか、かいしょうなしと言う」は 8 割を超える人が「暴力にあたる」と回答している。

これを性別にみると、男女とも暴力についての意識は、若干違うもののほぼ同様の考え方であるのが分かる。

図１７　夫婦間の暴力についての考え方について（全体・性別）



夫婦間の暴力についての考え方（性・年代別）

※網掛け部分%			サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど				②何を言っても長時間無視し続ける、大声でどなる、なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、だれのおかげで生活できるんだとか、かいしょうなしと言う				③親族や友人との付合いやメールや電話等を細かくチェックする			
				暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体			100.0	92.8	0.8	1.4	50	88.9	3.0	2.3	5.8	39.7	33.4	19.7	7.3
			1205	1118	10	17	60	1071	36	28	70	478	402	237	88
性・年代別	男性		100.0	91.5	1.5	1.5	5.4	87.5	3.5	2.9	6.2	36.5	35.7	19.9	7.9
			518	474	8	8	28	453	18	15	32	189	185	103	41
		20歳代	100.0	93.3	2.2	2.2	2.2	95.6	0.0	2.2	2.2	28.9	53.3	15.6	2.2
			45	42	1	1	1	43	0	1	1	13	24	7	1
		30歳代	100.0	98.7	1.3	0.0	0.0	92.2	3.9	2.6	1.3	36.4	45.5	16.9	1.3
			77	76	1	0	0	71	3	2	1	28	35	13	1
		40歳代	100.0	98.5	0.0	0.0	1.5	92.6	2.9	2.9	1.5	39.7	39.7	19.1	1.5
			68	67	0	0	1	63	2	2	1	27	27	13	1
		50歳代	100.0	90.6	1.6	3.1	4.7	84.3	6.3	3.9	5.5	43.3	28.3	21.3	7.1
			127	115	2	4	6	107	8	5	7	55	36	27	9
		60歳代	100.0	89.4	1.6	0.8	8.1	87.8	2.4	1.6	8.1	37.4	34.1	19.5	8.9
			123	110	2	1	10	108	3	2	10	46	42	24	11
		70歳以上	100.0	81.8	2.6	2.6	13.0	77.9	2.6	3.9	15.6	24.7	27.3	24.7	23.4
			77	63	2	2	10	60	2	3	12	19	21	19	18
	女性		100.0	93.8	0.3	1.3	4.6	90.1	2.5	1.9	5.5	42.2	31.6	19.5	6.8
			678	636	2	9	31	611	17	13	37	286	214	132	46
		20歳代	100.0	96.8	0.0	0.0	3.2	96.8	0.0	0.0	3.2	38.7	43.5	14.5	3.2
			62	60	0	0	2	60	0	0	2	24	27	9	2
		30歳代	100.0	99.1	0.0	0.9	0.0	97.2	1.9	0.9	0.0	48.1	32.1	18.9	0.9
			106	105	0	1	0	103	2	1	0	51	34	20	1
		40歳代	100.0	96.9	0.8	0.8	1.6	94.5	2.3	1.6	1.6	47.7	35.2	15.6	1.6
			128	124	1	1	2	121	3	2	2	61	45	20	2
		50歳代	100.0	94.4	0.0	1.9	3.7	93.2	0.6	2.5	3.7	49.7	26.7	18.6	5.0
			161	152	0	3	6	150	1	4	6	80	43	30	8
		60歳代	100.0	95.0	0.7	0.0	4.3	87.2	5.0	2.8	5.0	36.2	30.5	26.2	7.1
			141	134	1	0	6	123	7	4	7	51	43	37	10
		70歳以上	100.0	75.0	0.0	5.3	19.7	65.8	5.3	2.6	26.3	19.7	28.9	21.1	30.3
			76	57	0	4	15	50	4	2	20	15	22	16	23

※網掛け部分%		サンプル数	④生活費を渡されなかったり、支出を細かくチェックする				⑤いやがっているのに性的な行為を強要する							
			暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答				
全体		100.0	49.0	24.4	19.5	7.1	76.6	6.6	10.0	6.8				
		1205	591	294	235	85	923	79	121	82				
性・年代別	男性	100.0	44.8	28.0	19.5	7.7	75.5	6.6	10.0	7.9				
		518	232	145	101	40	391	34	52	41				
	20歳代	100.0	37.8	46.7	13.3	2.2	84.4	2.2	11.1	2.2				
		45	17	21	6	1	38	1	5	1				
	30歳代	100.0	40.3	32.5	26.0	1.3	83.1	9.1	7.8	0.0				
		77	31	25	20	1	64	7	6	0				
	40歳代	100.0	51.5	27.9	19.1	1.5	80.9	11.8	4.4	2.9				
		68	35	19	13	1	55	8	3	2				
	50歳代	100.0	55.9	19.7	17.3	7.1	78.7	5.5	8.7	7.1				
		127	71	25	22	9	100	7	11	9				
	60歳代	100.0	41.5	30.9	19.5	8.1	74.0	5.7	11.4	8.9				
		123	51	38	24	10	91	7	14	11				
	70歳以上	100.0	33.8	22.1	20.8	23.4	54.5	5.2	16.9	23.4				
		77	26	17	16	18	42	4	13	18				
	女性	100.0	52.4	21.7	19.5	6.5	77.6	6.6	10.0	5.8				
		678	355	147	132	44	526	45	68	39				
	20歳代	100.0	41.9	27.4	27.4	3.2	85.5	6.5	4.8	3.2				
		62	26	17	17	2	53	4	3	2				
	30歳代	100.0	64.2	14.2	20.8	0.9	92.5	0.9	6.6	0.0				
		106	68	15	22	1	98	1	7	0				
	40歳代	100.0	64.8	18.0	15.6	1.6	85.2	7.0	6.3	1.6				
		128	83	23	20	2	109	9	8	2				
	50歳代	100.0	57.8	21.7	16.8	3.7	80.7	4.3	10.6	4.3				
		161	93	35	27	6	130	7	17	7				
	60歳代	100.0	44.0	28.4	21.3	6.4	68.1	12.8	14.2	5.0				
		141	62	40	30	9	96	18	20	7				
	70歳以上	100.0	26.3	21.1	21.1	31.6	47.4	7.9	17.1	27.6				
		76	20	16	16	24	36	6	13	21				

（2）配偶者等からの被害経験について

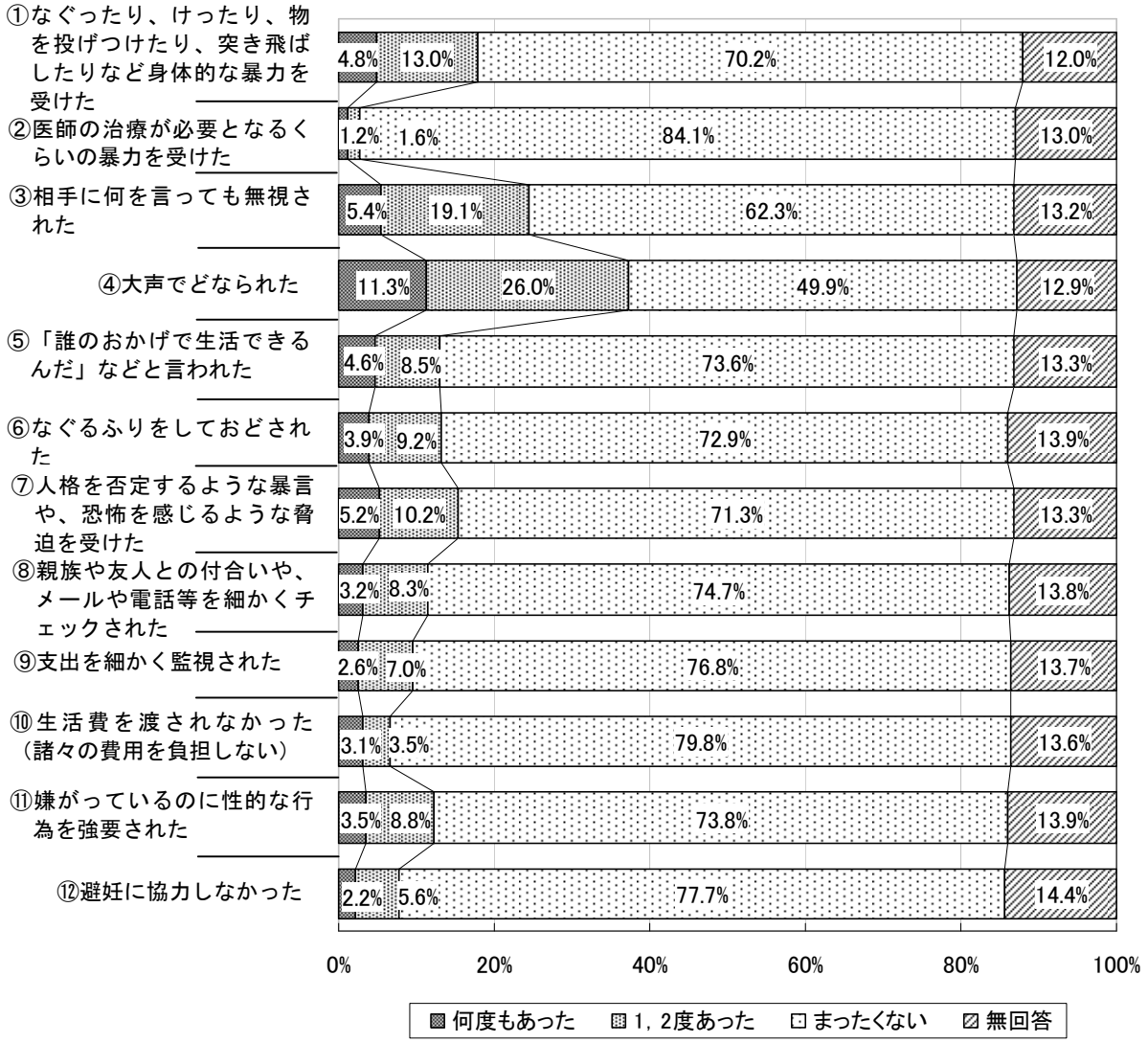
問１８　これまでにあなたの配偶者等から次のようなことをされたことがありますか。①から⑫のそれぞれについて、１から３のあてはまる番号に○をつけてください。

◆配偶者等からの身体的暴力の経験のある人は女性の５人に１人◆

配偶者等からの被害経験の有無についてみると、全体では「大声でどなられた」において、「1,2 度あった」と「何度もあった」を合わせて 37.3%の割合が最も高く、次いで「相手に何を言っても無視された」24.5%、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた」17.8%の順となっている。

これを性別にみると「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた」（男性:10%、女性:23.7%）、「人格を否定するような暴言や、恐怖を感じるような脅迫を受けた」（男性:8.8%、女性:20.2%）といずれも女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

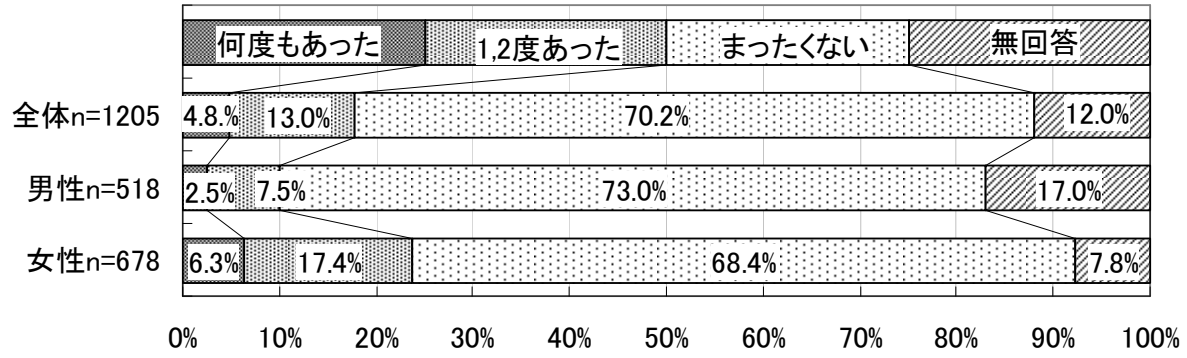
図１８　配偶者等からの被害経験の有無（全体）



身体的暴力を経験している人の割合は（男性：10%、女性：23.7%）でこれを前回調査（男性：8.8%、女性：27.4%）と比較すると、被害者は、圧倒的に女性の割合が高いものの女性が減少し、男性の割合がわずかに増えている。

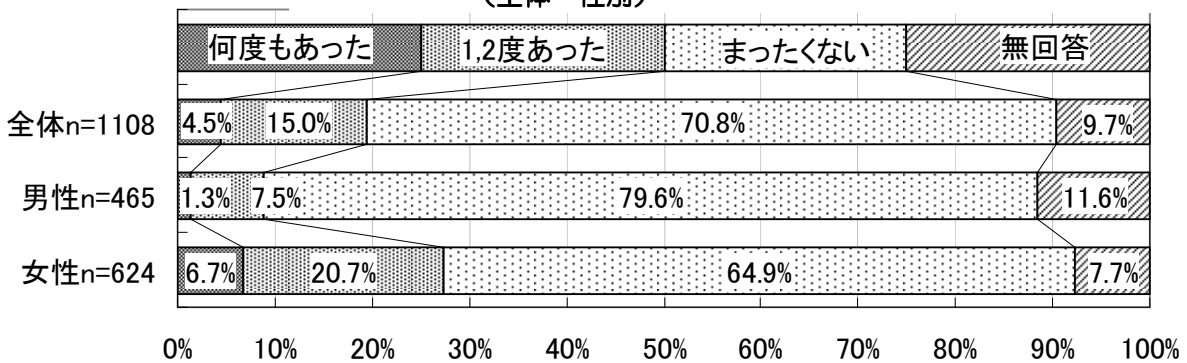
内閣府調査（男性：13.3%、女性：25.9%）と比較すると、男女ともに鹿屋市の方が被害経験者は低い割合となっている。

図１８-①　なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた（全体・性別）



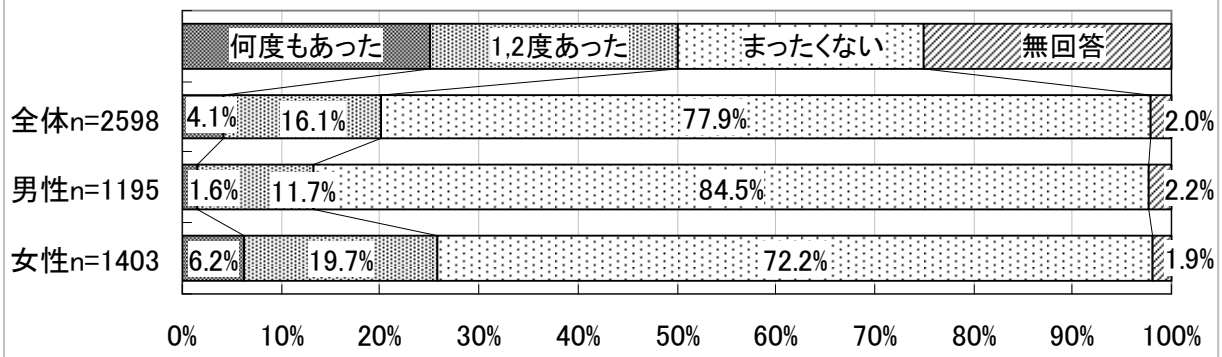
＜前回調査（平成 19 年度）＞

なぐったり、けったりなど身体的な暴力を受ける（全体・性別）



＜内閣府調査（平成 23 年度）＞

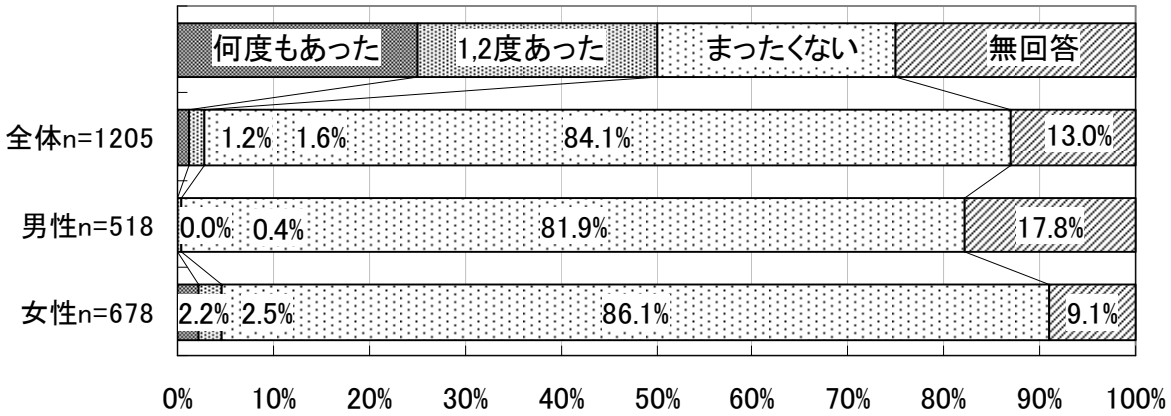
身体に対する暴行を受けた（全体・性別）



◆医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた経験のある人は女性の 22 人に 1 人◆

医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた人の割合（男性：0.4%、女性：4.7%）で、これを前回調査（男性：1.5%、女性：7.2%）と比較すると、男女ともに減少している。

図 18 - ②　医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた（全体・性別）



＜前回調査（平成 19 年度）＞

医師の治療が必要となるくらいの暴力を受ける（全体・性別）

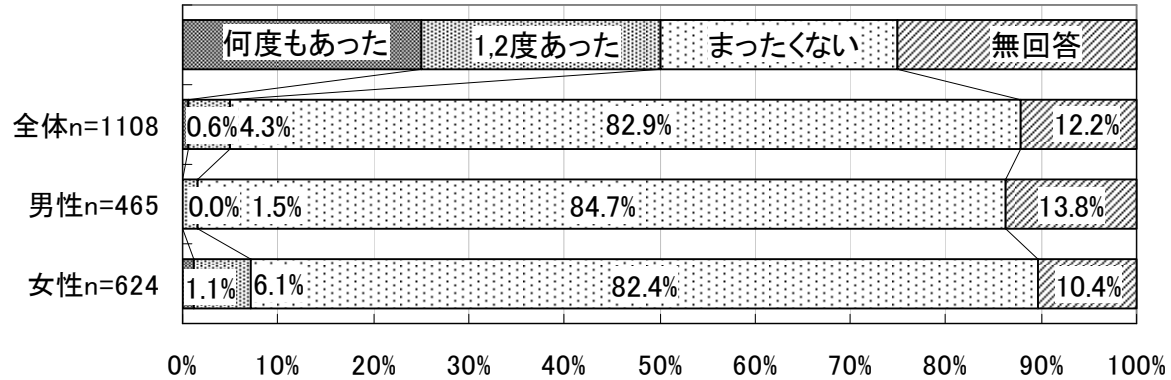


図 18-③　相手に何を言っても無視された（全体・性別）

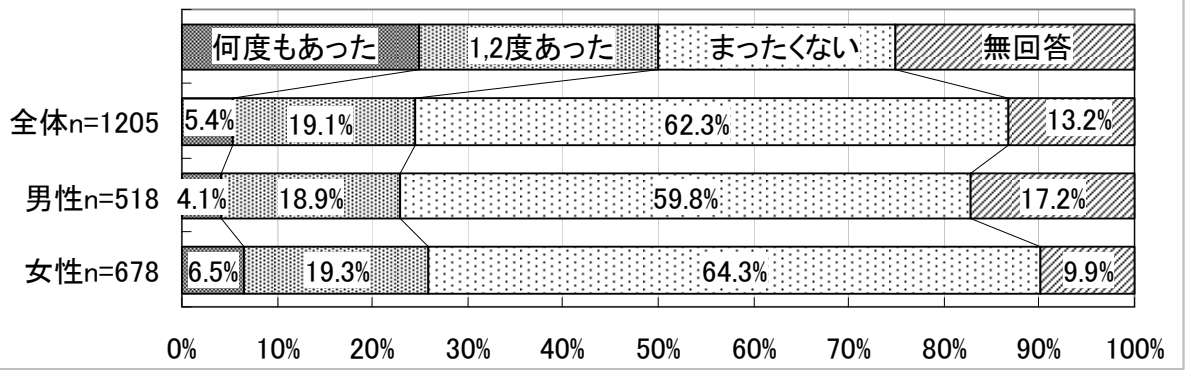


図 18-④　大声でどなられた（全体・性別）

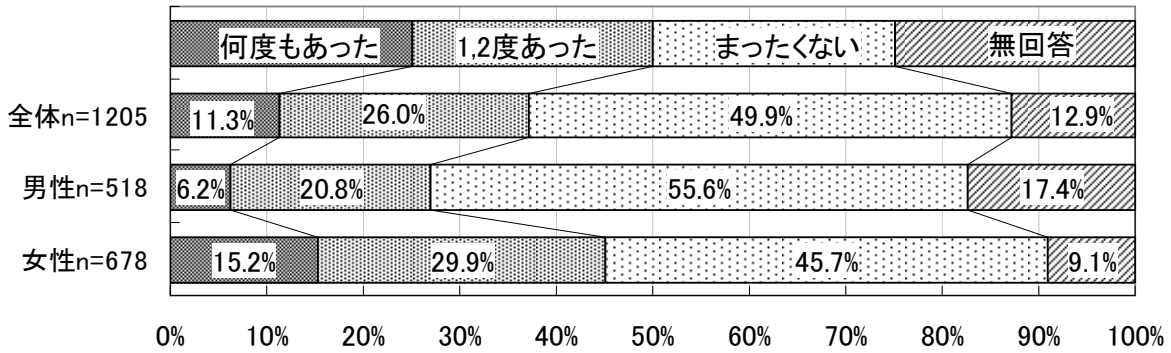


図１８-⑤　「誰のおかげで生活できるんだ」などと言われた（全体・性別）

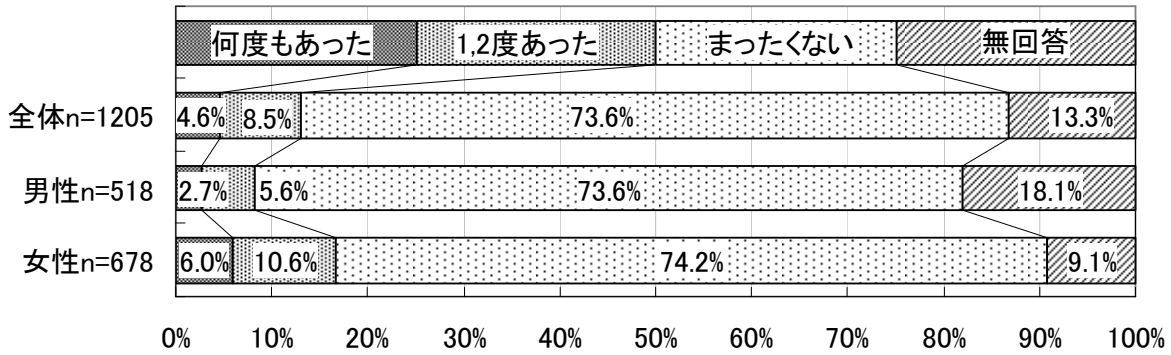
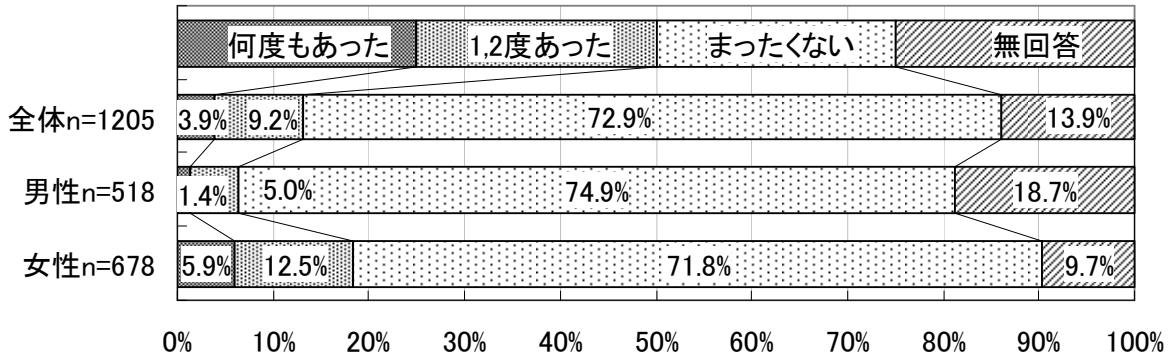


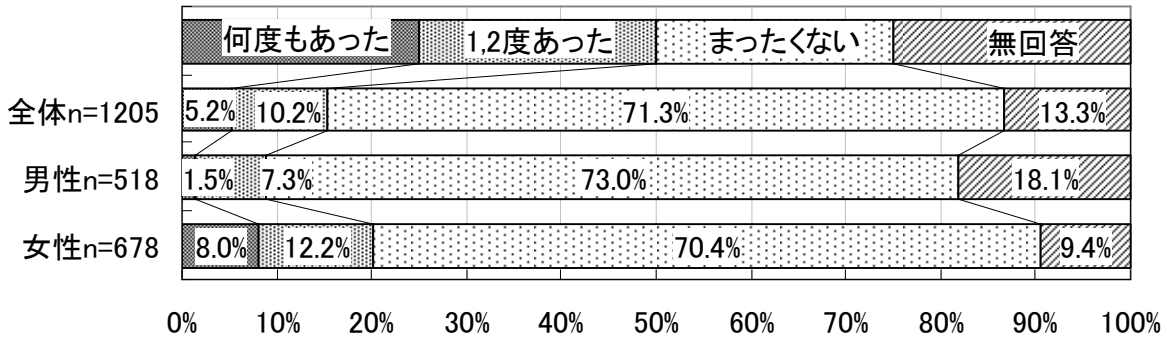
図１８-⑥　なぐるふりをしておどされた（全体・性別）



人格を否定するような暴言や、恐怖を感じるような脅迫を受けた人の割合は（男性:8.8%、女性:20.2%）で、これを前回調査（男性:7.7%、女性:23.2%）と比較すると、女性の割合が３ポイント低くなっている。

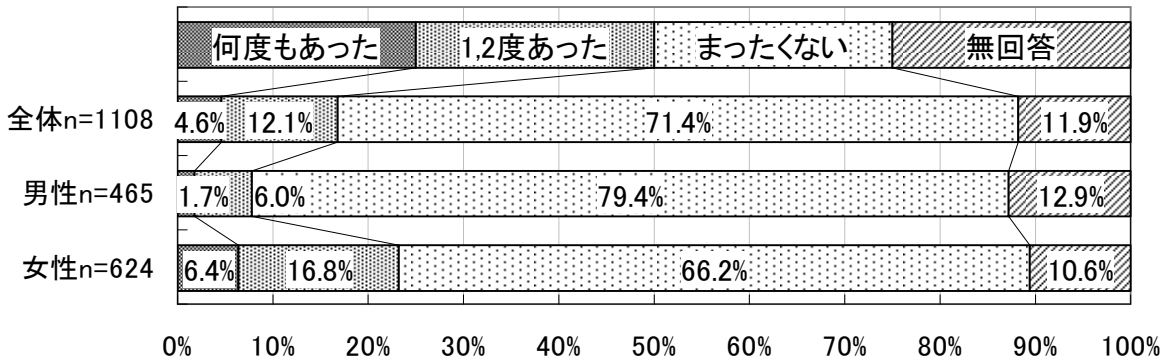
内閣府調査（男性:9.5%、女性:17.8%）と比較すると鹿屋市の方が女性の割合が高くなっている。

図１８-⑦　人格を否定するような暴言や恐怖を感じるような脅迫を受けた（全体・性別）



＜前回調査（平成 19 年度）＞

人格を否定するような暴言や恐怖を感じるような脅迫を受ける（全体・性別）



＜内閣府調査（平成 23 年度）＞

精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた（全体・性別）

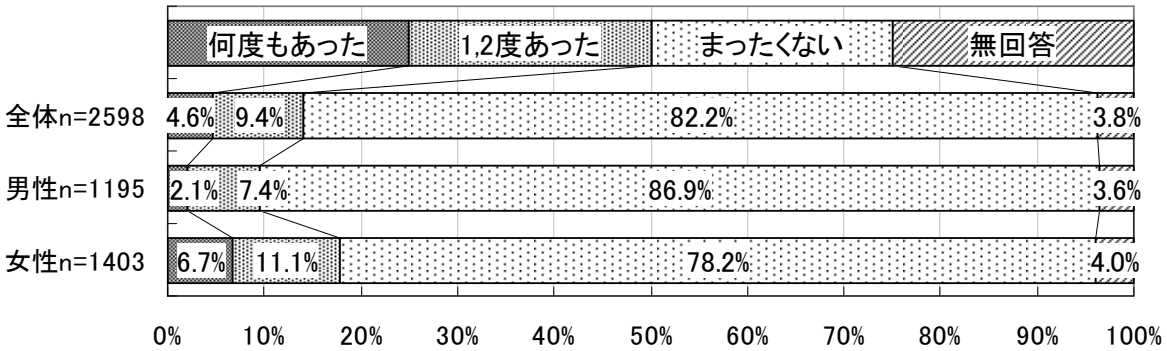


図１８-⑧　親族や友人との付合いやメールや電話等を細かくチェックされた（全体・性別）

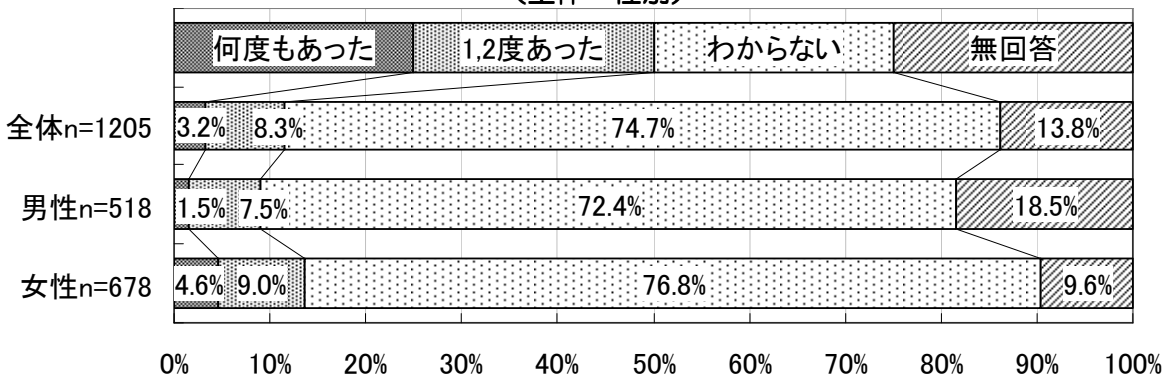


図１８-⑨　支出を細かく監視された（全体・性別）

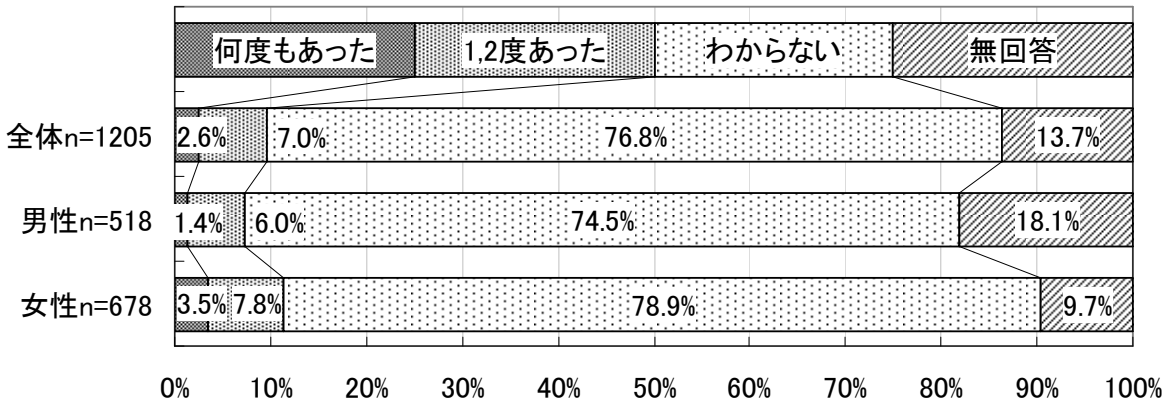
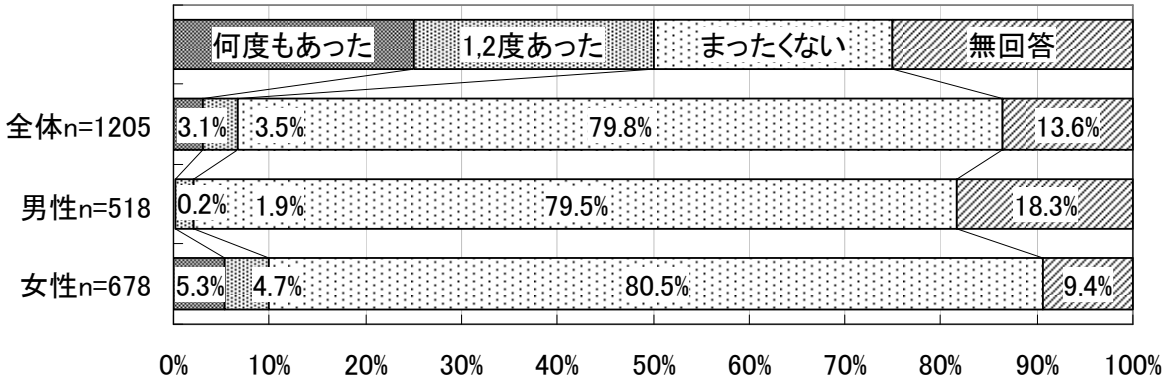


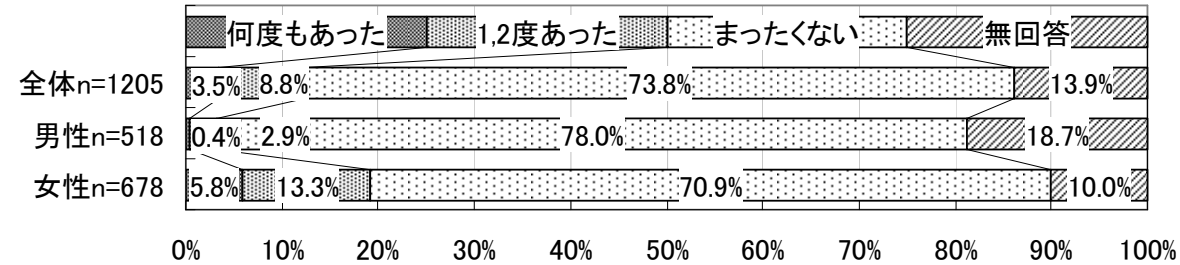
図１８-⑩　生活費を渡されなかった（諸々の費用を負担しない）（全体・性別）



嫌がっているのに性的な行為を強要された人の割合は（男性:3.3%、女性:19.1%）で、これを前回調査（男性:4.3%、女性:20.7%）と比較すると、男女ともにわずかに減少している。

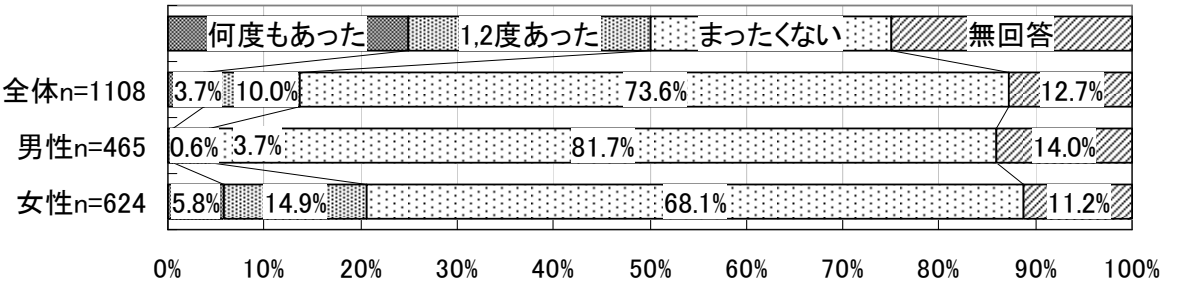
内閣府調査（男性:3.4%、女性:14.1%）と比較すると、鹿屋市の方が女性の割合が高くなっている。

図１８-⑪　嫌がっているのに性的な行為を強要された（全体・性別）



＜前回調査（平成 19 年度）＞

嫌がっているのに性的な行為を強要される（全体・性別）



＜内閣府調査（平成 23 年度）＞

性的な行為を強要された（全体・性別）

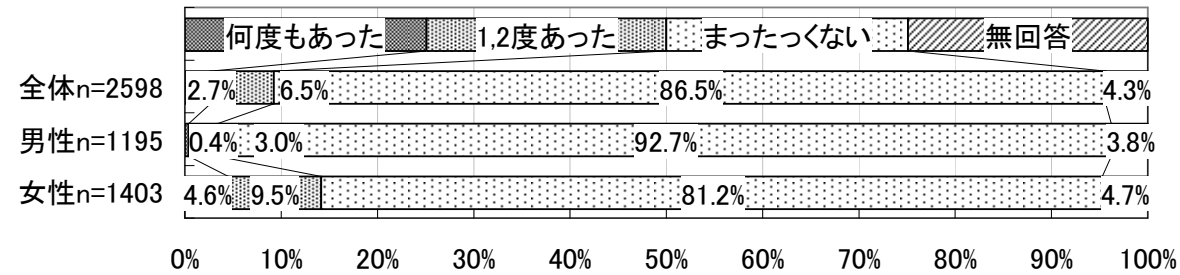


図１８-⑫　避妊に協力しなかった（全体・性別）

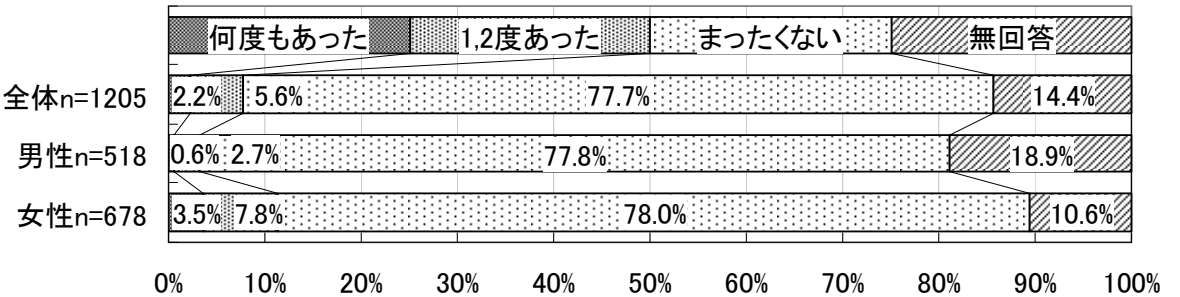


図１８-⑬　なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた（性・年代別）

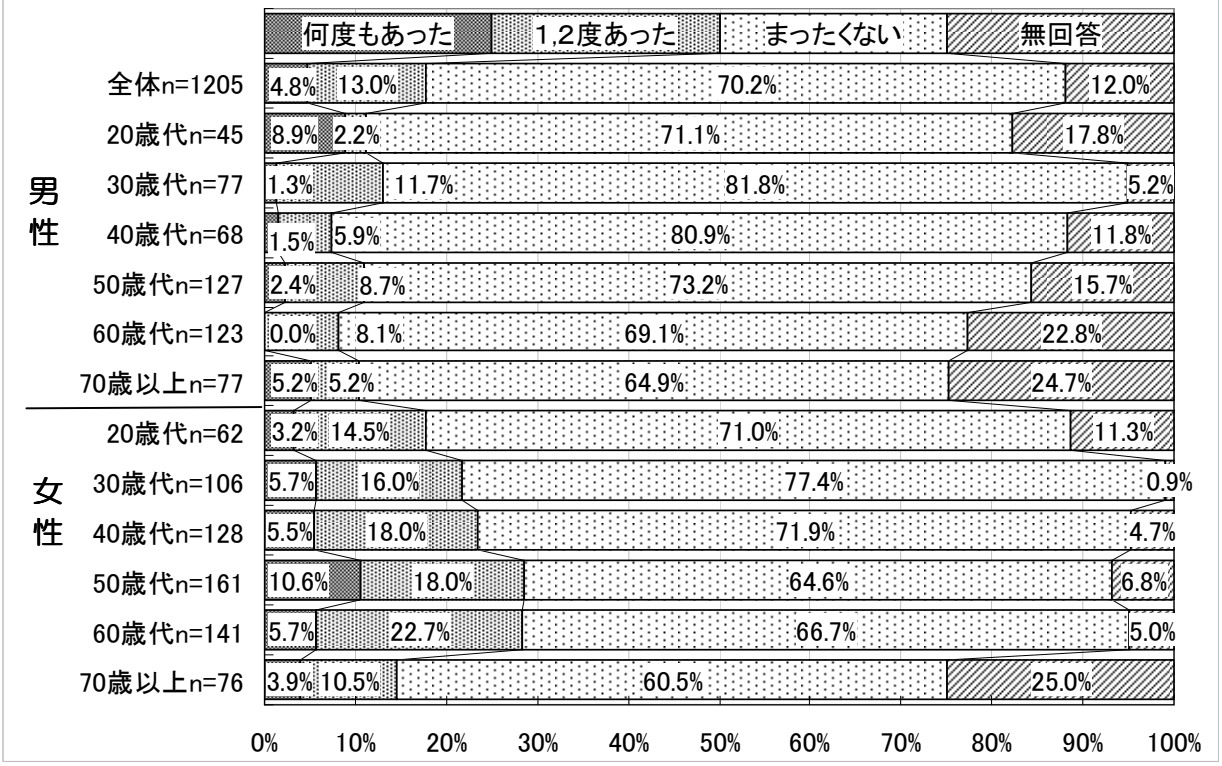


図１８-⑭　医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた（性・年代別）

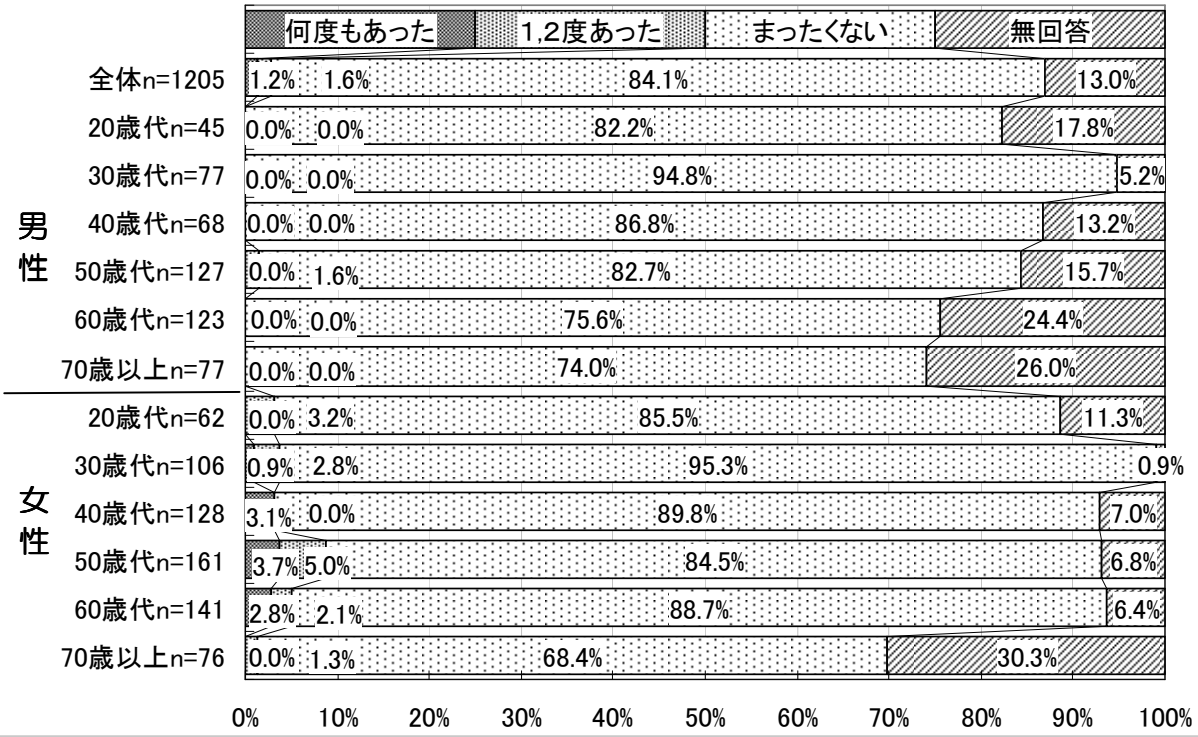


図１８-⑮　相手に何を言っても無視された（性・年代別）

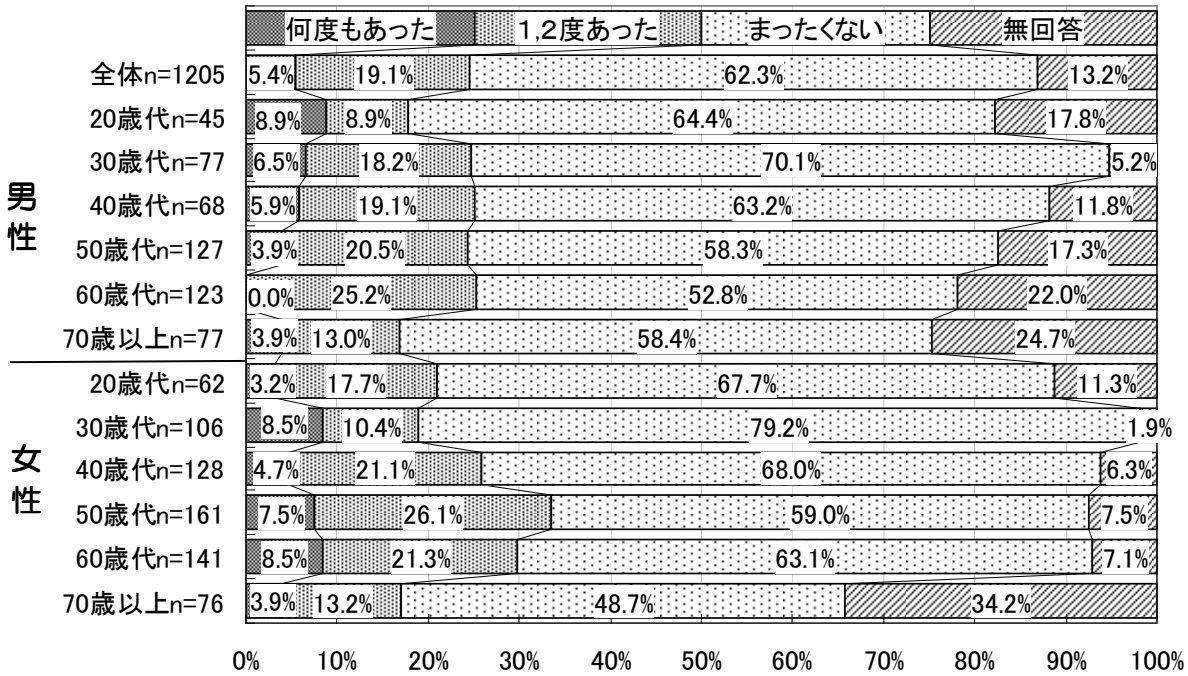


図１８-⑯　大声でどなられた（性・年代別）

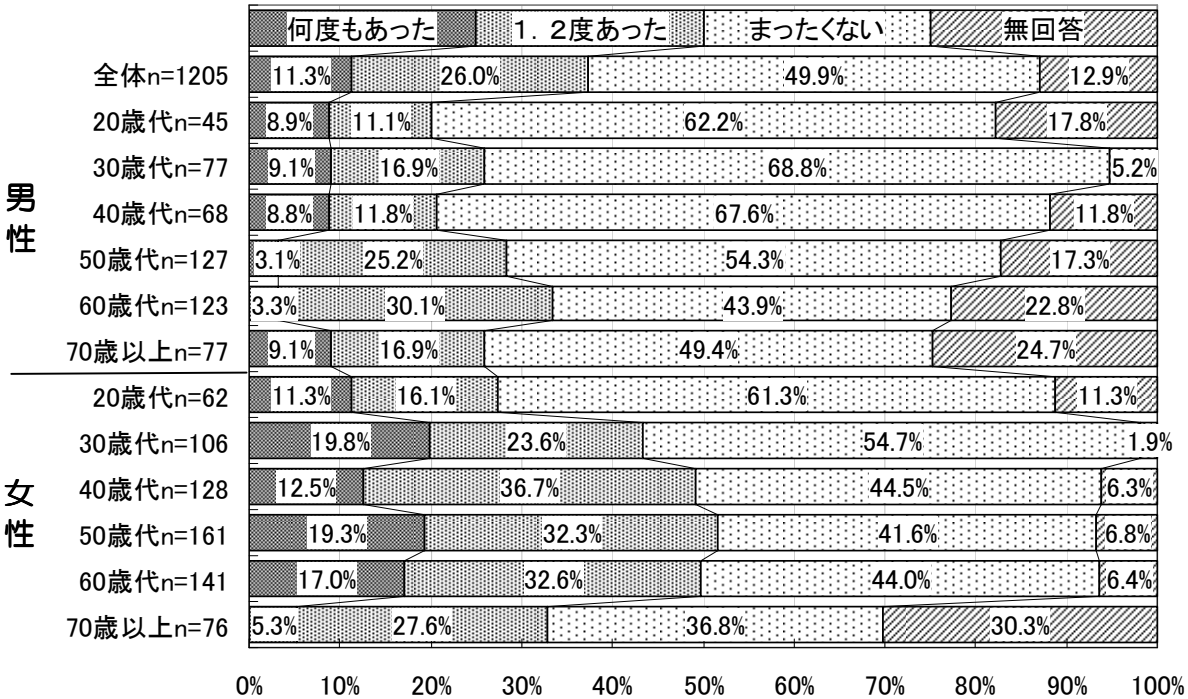


図１８－⑰　「誰のおかげで生活できるんだ」などと言われた（性・年代別）

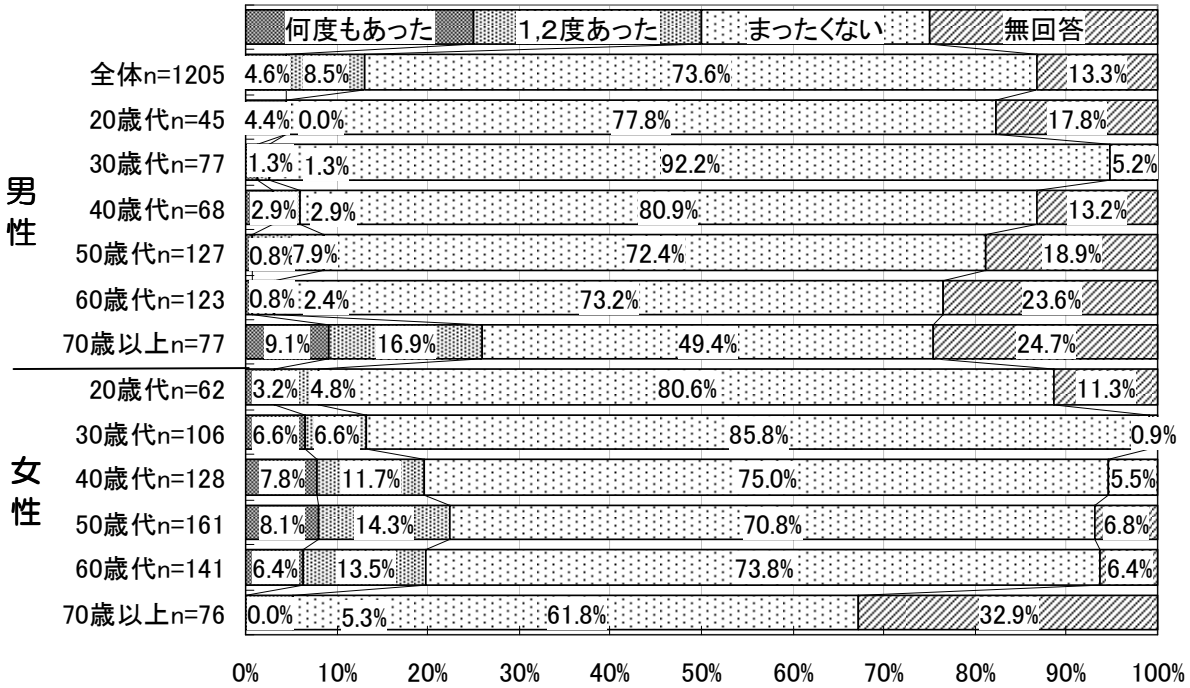


図１８-⑱　なぐるふりをしておどされた（性・年代別）

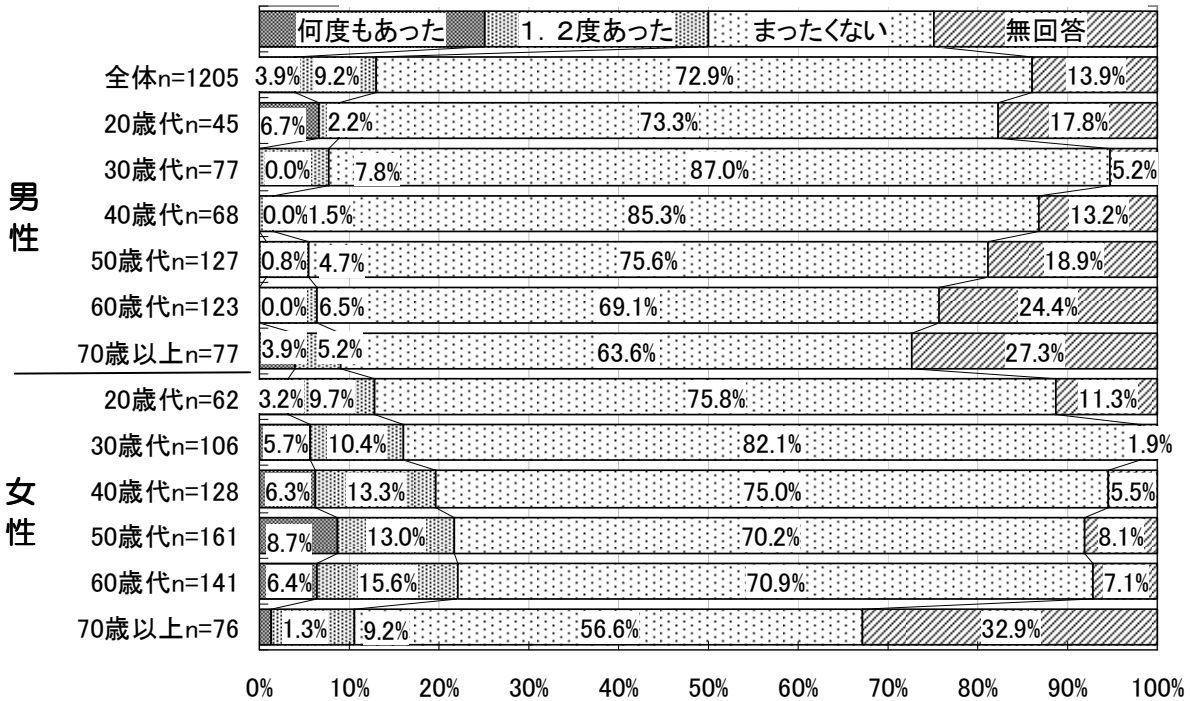


図１８-⑲　人格を否定するような暴言や恐怖を感じるような脅迫を受けた
（性・年代別）

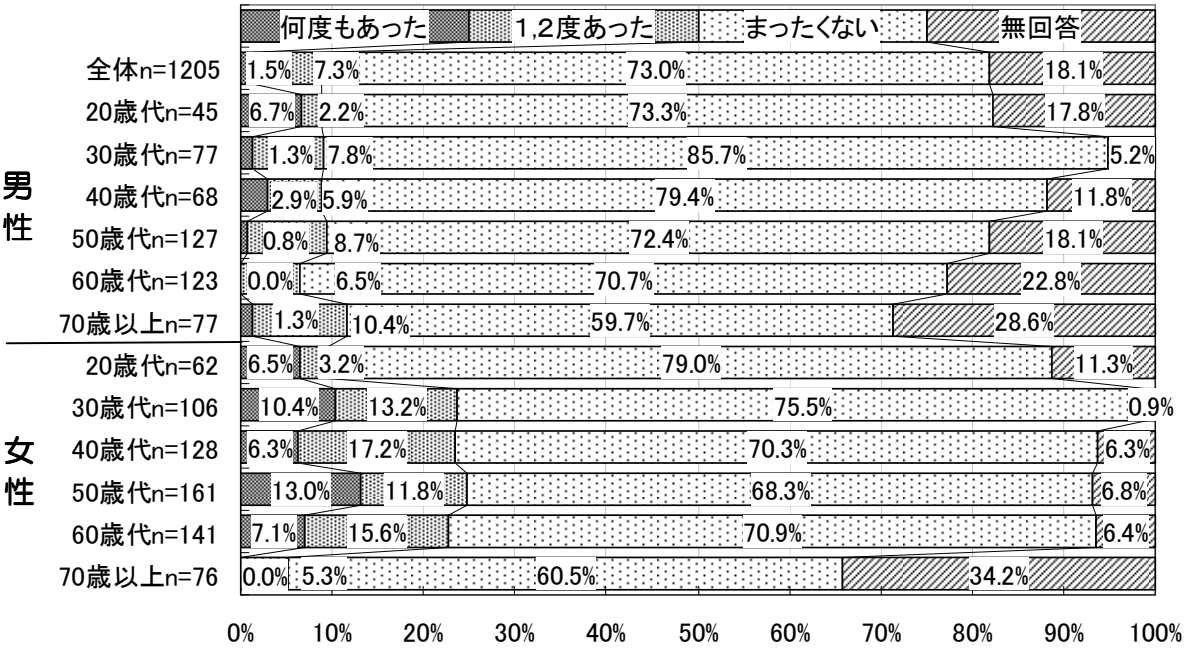


図１８-⑳　親友や友人との付合いやメールや電話等を細かくチェックされた
（性・年代別）

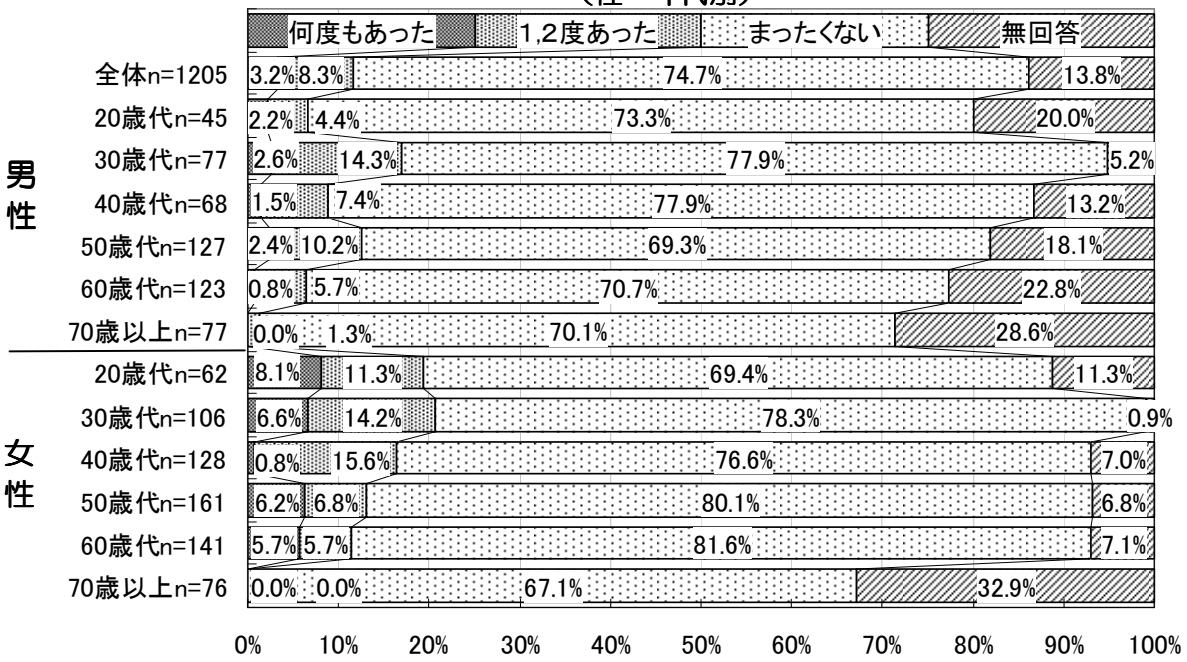


図１８－㉑　支出を細かく監視された（性・年代別）

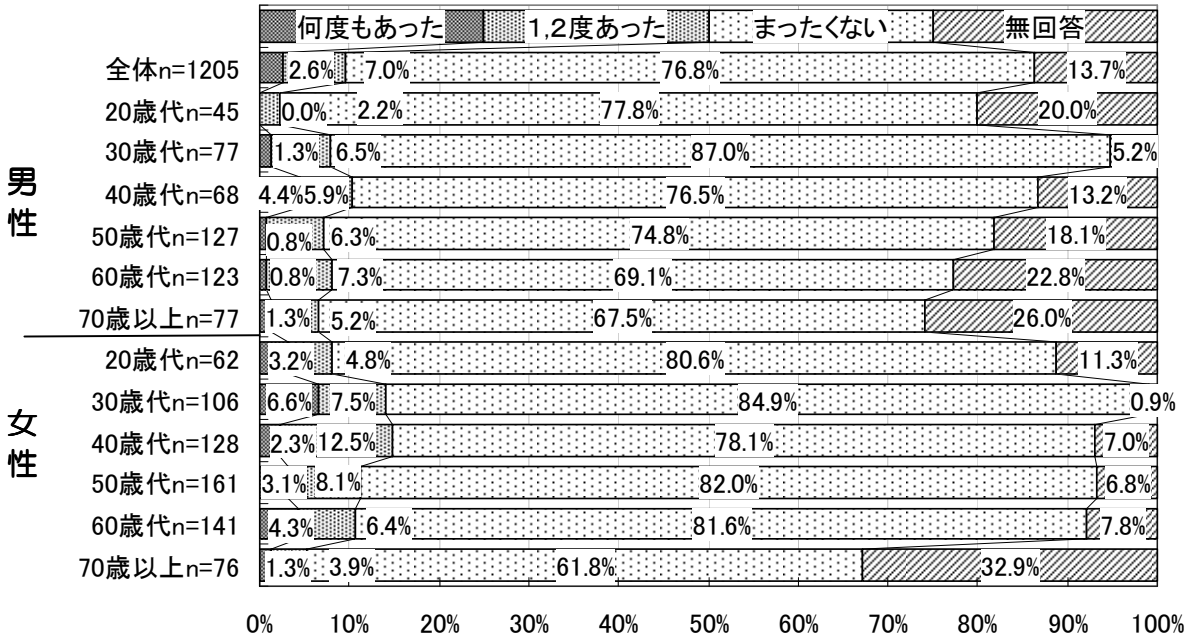


図１８－㉒　生活費を渡されなかった（性・年代別）

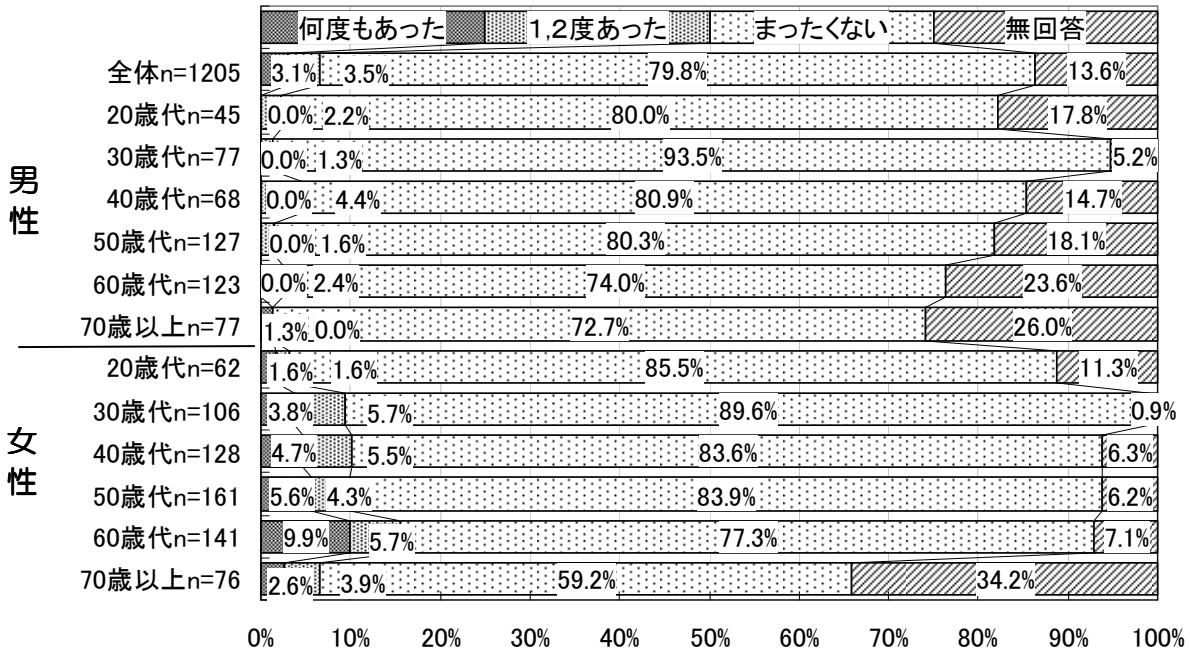


図１８-㉓ 嫌がっているのに性的な行為を強要された（性・年代別）

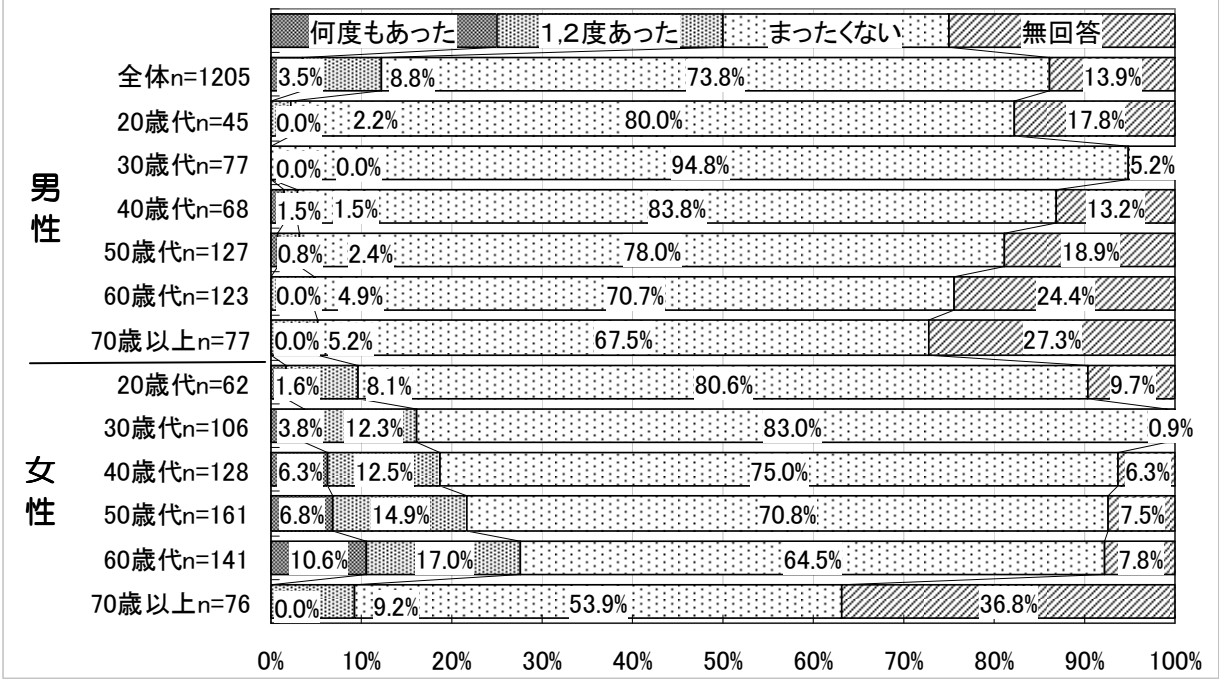
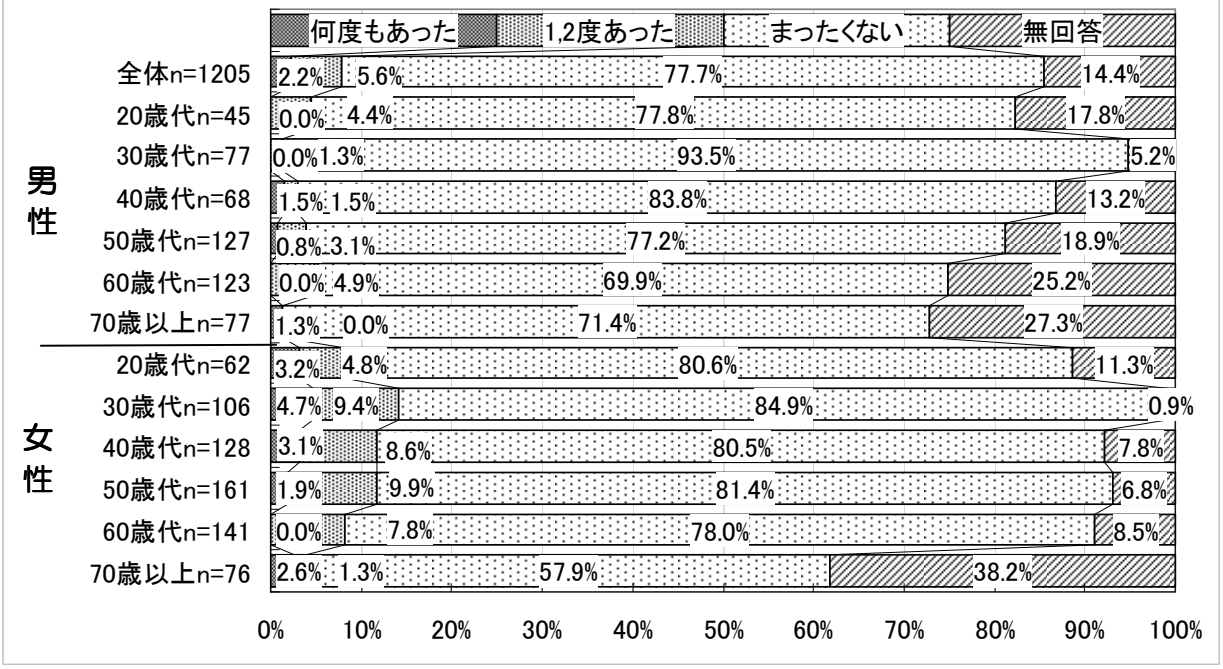


図 18 - ㉔ 避妊に協力しなかった（性・年代別）



配偶者等からの被害経験について（性・年代別）

※網掛け部分%		サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなど身体的な暴力を受けた				②医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた				③相手に何を言っても無視された			
			何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答
全体		100.0	4.8	13.0	70.2	12.0	1.2	1.6	84.1	13.0	5.4	19.1	62.3	13.2
		1205	58	157	846	144	15	19	1014	157	65	230	751	159
性・年代別	男性	100.0	2.5	7.5	73.0	17.0	0.0	0.4	81.9	17.8	4.1	18.9	59.8	17.2
		518	13	39	378	88	0	2	424	92	21	98	310	89
	20歳代	100.0	8.9	2.2	71.1	17.8	0.0	0.0	82.2	17.8	8.9	8.9	64.4	17.8
		45	4	1	32	8	0	0	37	8	4	4	29	8
	30歳代	100.0	1.3	11.7	81.8	5.2	0.0	0.0	94.8	5.2	6.5	18.2	70.1	5.2
		77	1	9	63	4	0	0	73	4	5	14	54	4
	40歳代	100.0	1.5	5.9	80.9	11.8	0.0	0.0	86.8	13.2	5.9	19.1	63.2	11.8
		68	1	4	55	8	0	0	59	9	4	13	43	8
	50歳代	100.0	2.4	8.7	73.2	15.7	0.0	1.6	82.7	15.7	3.9	20.5	58.3	17.3
		127	3	11	93	20	0	2	105	20	5	26	74	22
	60歳代	100.0	0.0	8.1	69.1	22.8	0.0	0.0	75.6	24.4	0.0	25.2	52.8	22.0
		123	0	10	85	28	0	0	93	30	0	31	65	27
	70歳以上	100.0	5.2	5.2	64.9	24.7	0.0	0.0	74.0	26.0	3.9	13.0	58.4	24.7
		77	4	4	50	19	0	0	57	20	3	10	45	19
	女性	100.0	6.3	17.4	68.4	7.8	2.2	2.5	86.1	9.1	6.5	19.3	64.3	9.9
		678	43	118	464	53	15	17	584	62	44	131	436	67
	20歳代	100.0	3.2	14.5	71.0	11.3	0.0	3.2	85.5	11.3	3.2	17.7	67.7	11.3
		62	2	9	44	7	0	2	53	7	2	11	42	7
	30歳代	100.0	5.7	16.0	77.4	0.9	0.9	2.8	95.3	0.9	8.5	10.4	79.2	1.9
		106	6	17	82	1	1	3	101	1	9	11	84	2
	40歳代	100.0	5.5	18.0	71.9	4.7	3.1	0.0	89.8	7.0	4.7	21.1	68.0	6.3
		128	7	23	92	6	4	0	115	9	6	27	87	8
	50歳代	100.0	10.6	18.0	64.6	6.8	3.7	5.0	84.5	6.8	7.5	26.1	59.0	7.5
		161	17	29	104	11	6	8	136	11	12	42	95	12
	60歳代	100.0	5.7	22.7	66.7	5.0	2.8	2.1	88.7	6.4	8.5	21.3	63.1	7.1
		141	8	32	94	7	4	3	125	9	12	30	89	10
	70歳以上	100.0	3.9	10.5	60.5	25.0	0.0	1.3	68.4	30.3	3.9	13.2	48.7	34.2
		76	3	8	46	19	0	1	52	23	3	10	37	26

※網掛け部分%		サンプル数	④大声でどなられた				⑤「誰のおかげで生活できるんだ」などと言われた				⑥なぐるふりをしておどされた			
			何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答
全体		100.0	11.3	26.0	49.9	12.9	4.6	8.5	73.6	13.3	3.9	9.2	72.9	13.9
		1205	136	313	601	155	55	103	887	160	47	111	879	168
性・年代別	男性	100.0	6.2	20.8	55.6	17.4	2.7	5.6	73.6	18.1	1.4	5.0	74.9	18.7
		518	32	108	288	90	14	29	381	94	7	26	388	97
	20歳代	100.0	8.9	11.1	62.2	17.8	4.4	0.0	77.8	17.8	6.7	2.2	73.3	17.8
		45	4	5	28	8	2	0	35	8	3	1	33	8
	30歳代	100.0	9.1	16.9	68.8	5.2	1.3	1.3	92.2	5.2	0.0	7.8	87.0	5.2
		77	7	13	53	4	1	1	71	4	0	6	67	4
	40歳代	100.0	8.8	11.8	67.6	11.8	2.9	2.9	80.9	13.2	0.0	1.5	85.3	13.2
		68	6	8	46	8	2	2	55	9	0	1	58	9
	50歳代	100.0	3.1	25.2	54.3	17.3	0.8	7.9	72.4	18.9	0.8	4.7	75.6	18.9
		127	4	32	69	22	1	10	92	24	1	6	96	24
	60歳代	100.0	3.3	30.1	43.9	22.8	0.8	2.4	73.2	23.6	0.0	6.5	69.1	24.4
		123	4	37	54	28	1	3	90	29	0	8	85	30
	70歳以上	100.0	9.1	16.9	49.4	24.7	9.1	16.9	49.3	24.7	3.9	5.2	63.6	27.3
		77	7	13	38	19	7	13	38	19	3	4	49	21
	女性	100.0	15.2	29.9	45.7	9.1	6.0	10.6	74.2	9.1	5.9	12.5	71.8	9.7
		678	103	203	310	62	41	72	503	62	40	85	487	66
	20歳代	100.0	11.3	16.1	61.3	11.3	3.2	4.8	80.6	11.3	3.2	9.7	75.8	11.3
		62	7	10	38	7	2	3	50	7	2	6	47	7
	30歳代	100.0	19.8	23.6	54.7	1.9	6.6	6.6	85.8	0.9	5.7	10.4	82.1	1.9
		106	21	25	58	2	7	7	91	1	6	11	87	2
	40歳代	100.0	12.5	36.7	44.5	6.3	7.8	11.7	75.0	5.5	6.3	13.3	75.0	5.5
		128	16	47	57	8	10	15	96	7	8	17	96	7
	50歳代	100.0	19.3	32.3	41.6	6.8	8.1	14.3	70.8	6.8	8.7	13.0	70.2	8.1
		161	31	52	67	11	13	23	114	11	14	21	113	13
	60歳代	100.0	17.0	32.6	44.0	6.4	6.4	13.5	73.8	6.4	6.4	15.6	70.9	7.1
		141	24	46	62	9	9	19	104	9	9	22	100	10
	70歳以上	100.0	5.3	27.6	36.8	30.3	0.0	5.3	61.8	32.9	1.3	9.2	56.6	32.9
		76	4	21	28	23	0	4	47	25	1	7	43	25

※網掛け部分%			サンプル数	⑦人格を否定するような暴言や、恐怖を感じるような脅迫を受けた				⑧親族や友人との付合いや、メールや電話等を細かくチェックされた				⑨支出を細かく監視された			
				何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答
全体			100.0	5.2	10.2	71.3	13.3	3.2	8.3	74.7	13.8	2.6	7.0	76.8	13.7
			1205	63	123	859	160	39	100	900	166	31	84	925	165
性・年代別	男性		100.0	1.5	7.3	73.0	18.1	1.5	7.5	72.4	18.5	1.4	6.0	74.5	18.1
			518	8	38	378	94	8	39	375	96	7	31	386	94
		20歳代	100.0	6.7	2.2	73.3	17.8	2.2	4.4	73.3	20.0	0.0	2.2	77.8	20.0
			45	3	1	33	8	1	2	33	9	0	1	35	9
		30歳代	100.0	1.3	7.8	85.7	5.2	2.6	14.3	77.9	5.2	1.3	6.5	87.0	5.2
			77	1	6	66	4	2	11	60	4	1	5	67	4
		40歳代	100.0	2.9	5.9	79.4	11.8	1.5	7.4	77.9	13.2	4.4	5.9	76.5	13.2
			68	2	4	54	8	1	5	53	9	3	4	52	9
		50歳代	100.0	0.8	8.7	72.4	18.1	2.4	10.2	69.3	18.1	0.8	6.3	74.8	18.1
			127	1	11	92	23	3	13	88	23	1	8	95	23
		60歳代	100.0	0.0	6.5	70.7	22.8	0.8	5.7	70.7	22.8	0.8	7.3	69.1	22.8
			123	0	8	87	28	1	7	87	28	1	9	85	28
		70歳以上	100.0	1.3	10.4	59.7	28.6	0.0	1.3	70.1	28.6	1.3	5.2	67.5	26.0
			77	1	8	46	22	0	1	54	22	1	4	52	20
	女性		100.0	8.0	12.2	70.4	9.4	4.6	9.0	76.8	9.6	3.5	7.8	78.9	9.7
			678	54	83	477	64	31	61	521	65	24	53	535	66
		20歳代	100.0	6.5	3.2	79.0	11.3	8.1	11.3	69.4	11.3	3.2	4.8	80.6	11.3
			62	4	2	49	7	5	7	43	7	2	3	50	7
		30歳代	100.0	10.4	13.2	75.5	0.9	6.6	14.2	78.3	0.9	6.6	7.5	84.9	0.9
			106	11	14	80	1	7	15	83	1	7	8	90	1
		40歳代	100.0	6.3	17.2	70.3	6.3	0.8	15.6	76.6	7.0	2.3	12.5	78.1	7.0
			128	8	22	90	8	1	20	98	9	3	16	100	9
		50歳代	100.0	13.0	11.8	68.3	6.8	6.2	6.8	80.1	6.8	3.1	8.1	82.0	6.8
			161	21	19	110	11	10	11	129	11	5	13	132	11
		60歳代	100.0	7.1	15.6	70.9	6.4	5.7	5.7	81.6	7.1	4.3	6.4	81.6	7.8
			141	10	22	100	9	8	8	115	10	6	9	115	11
		70歳以上	100.0	0.0	5.3	60.5	34.2	0.0	0.0	67.1	32.9	1.3	3.9	61.8	32.9
			76	0	4	46	26	0	0	51	25	1	3	47	25

※網掛け部分%		サンプル数	⑩生活費を渡されなかった（諸々の費用を負担しない）				⑪嫌がっているのに性的な行為を強要された				⑫避妊に協力しなかった			
			何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	何度もあった	一、二度あった	まったくない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
全体		100.0	3.1	3.5	79.8	13.6	3.5	8.8	73.8	13.9	2.2	5.6	77.7	14.4
		1205	37	42	962	164	42	106	889	168	27	68	936	174
性・年代別	男性	100.0	0.2	1.9	79.5	18.3	0.4	2.9	78.0	18.7	0.6	2.7	77.8	18.9
		518	1	10	412	95	2	15	404	97	3	14	403	98
	20歳代	100.0	0.0	2.2	80.0	17.8	0.0	2.2	80.0	17.8	0.0	4.4	77.8	17.8
		45	0	1	36	8	0	1	36	8	0	2	35	8
	30歳代	100.0	0.0	1.3	93.5	5.2	0.0	0.0	94.8	5.2	0.0	1.3	93.5	5.2
		77	0	1	72	4	0	0	73	4	0	1	72	4
	40歳代	100.0	0.0	4.4	80.9	14.7	1.5	1.5	83.8	13.2	1.5	1.5	83.8	13.2
		68	0	3	55	10	1	1	57	9	1	1	57	9
	50歳代	100.0	0.0	1.6	80.3	18.1	0.8	2.4	78.0	18.9	0.8	3.1	77.2	18.9
		127	0	2	102	23	1	3	99	24	1	4	98	24
	60歳代	100.0	0.0	2.4	74.0	23.6	0.0	4.9	70.7	24.4	0.0	4.9	69.9	25.2
		123	0	3	91	29	0	6	87	30	0	6	86	31
	70歳以上	100.0	1.3	0.0	72.7	26.0	0.0	5.2	67.5	27.3	1.3	0.0	71.4	27.3
		77	1	0	56	20	0	4	52	21	1	0	55	21
	女性	100.0	5.3	4.7	80.5	9.4	5.8	13.3	70.9	10.0	3.5	7.8	78.0	10.6
		678	36	32	546	64	39	90	481	68	24	53	529	72
	20歳代	100.0	1.6	1.6	85.5	11.3	1.6	8.1	80.6	9.7	3.2	4.8	80.6	11.3
		62	1	1	53	7	1	5	50	6	2	3	50	7
	30歳代	100.0	3.8	5.7	89.6	0.9	3.8	12.3	83.0	0.9	4.7	9.4	84.9	0.9
		106	4	6	95	1	4	13	88	1	5	10	90	1
	40歳代	100.0	4.7	5.5	83.6	6.3	6.3	12.5	75.0	6.3	3.1	8.6	80.5	7.8
		128	6	7	107	8	8	16	96	8	4	11	103	10
	50歳代	100.0	5.6	4.3	83.9	6.2	6.8	14.9	70.8	7.5	1.9	9.9	81.4	6.8
		161	9	7	135	10	11	24	114	12	3	16	131	11
	60歳代	100.0	9.9	5.7	77.3	7.1	10.6	17.0	64.5	7.8	5.7	7.8	78.0	8.5
		141	14	8	109	10	15	24	91	11	8	11	110	12
	70歳以上	100.0	2.6	3.9	59.2	34.2	0.0	9.2	53.9	36.8	2.6	1.3	57.9	38.2
		76	2	3	45	26	0	7	41	28	2	1	44	29

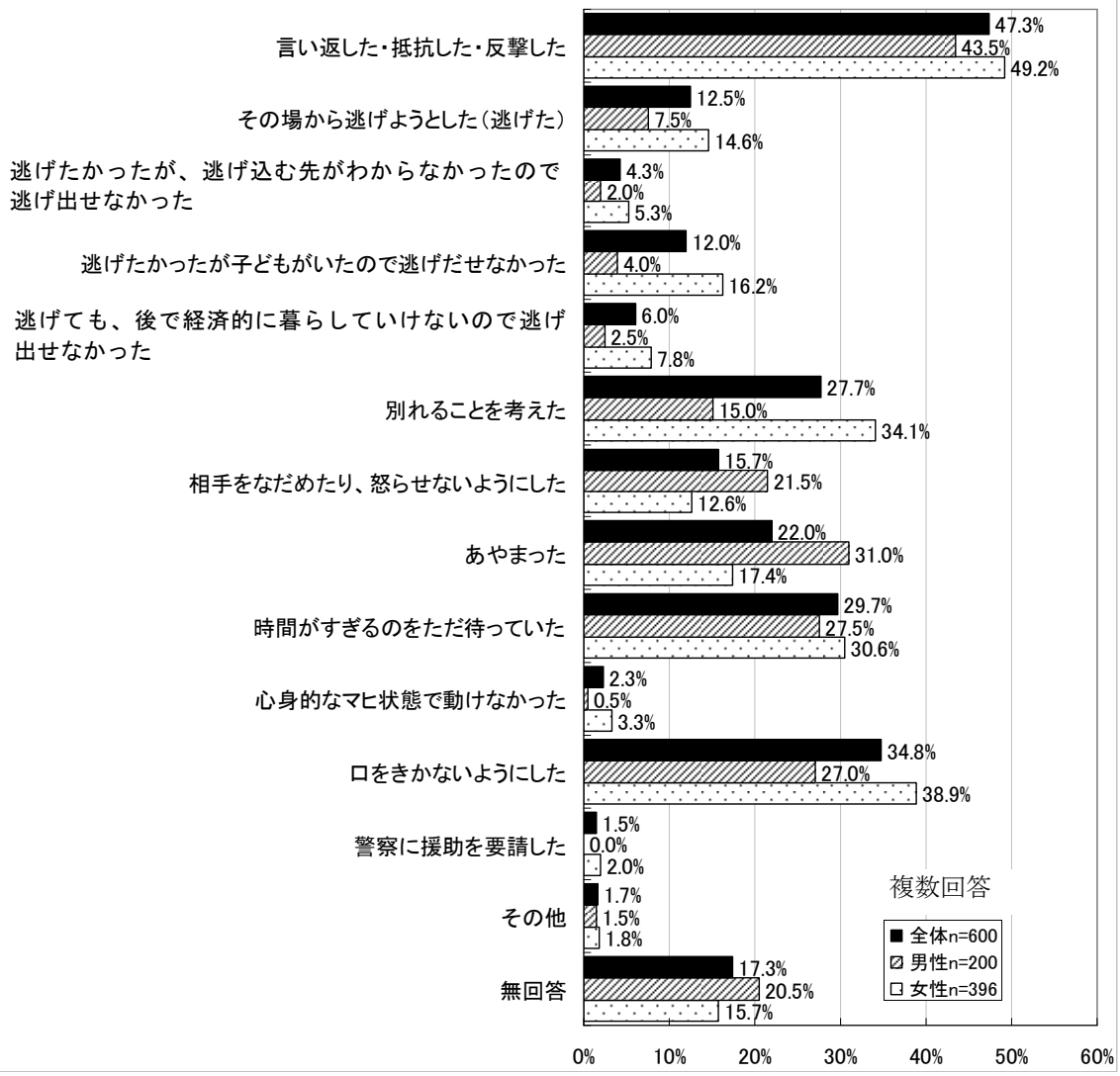
【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがあるすべての方におたずねします。】
問１９　あなたは、問 18 の①から⑫のような行為をされたとき、どうしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

◆男女ともに言い返した・抵抗した・反撃したが最も高い割合◆

暴力や嫌がらせ等の行為を受けたときどうしたかについてみると、全体では「言い返した・抵抗した・反撃した」47.3%の割合が最も高く、次いで「口をきかないようにした」34.8%、「時間が過ぎるのをただ待っていた」29.7%の順となっている。

これを性別にみると、あやまった（男性：31.0%、女性：17.4%）は男性の割合が高く、別れることを考えた（男性：15.0%、女性 34.1%）は女性の割合が高くなっている。

図１９　暴力を受けたときの行動（全体・性別）



【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがあるすべての方におたずねします。】
問２０　問 18 の①から⑫のような行為をした相手は、当時あなたとどのような関係でしたか。次の１から５の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

◆暴力や嫌がらせ等の行為をした相手は夫婦が７割弱◆

暴力や嫌がらせ等の行為をした相手をみると、全体では「夫婦」69.8％の割合が最も高くなっている。

これを性別にみると、婚姻を解消した相手（男性：0.5％、女性 5.3％）で女性の割合が高くなっている。また、年代別をみると、20 代の男女ともに恋人間の暴力（男性：25％、女性：28％）が高い割合となっている。

図２０　暴力や嫌がらせ等の行為をした相手（全体・性別）

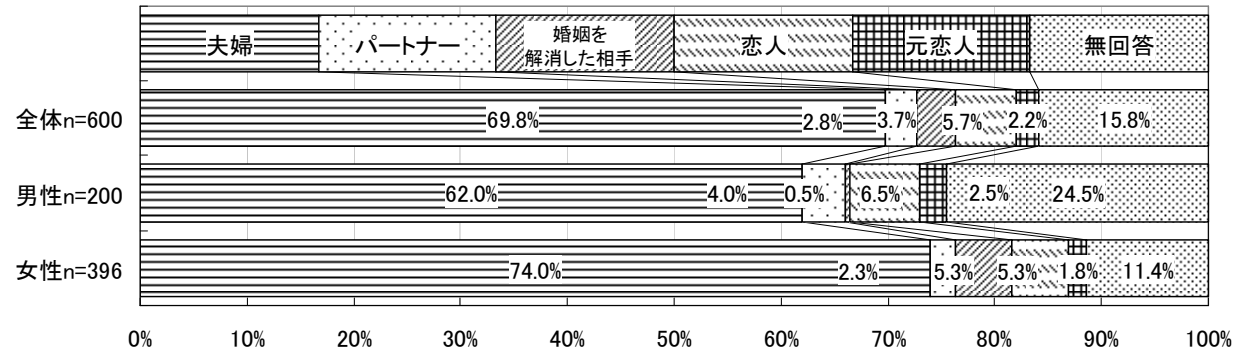
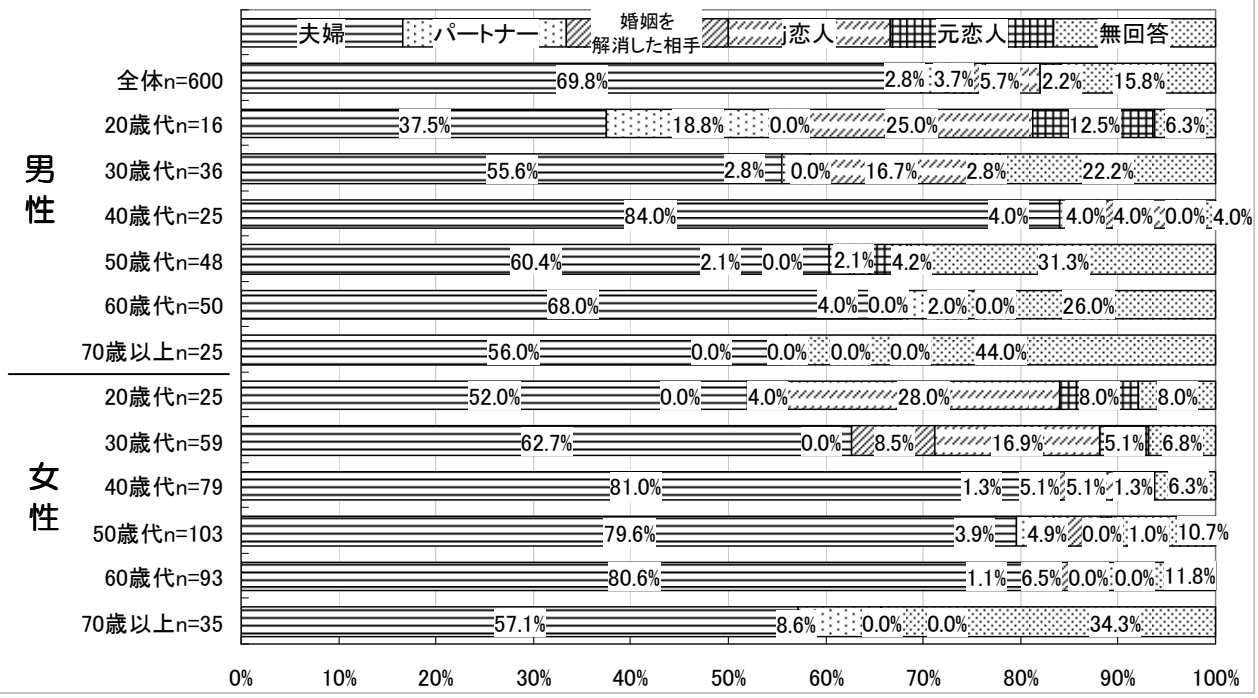


図 20 - ①　暴力や嫌がらせ等の行為をした相手（性・年代別）



暴力や嫌がらせ等の行為をした相手（性・年代別）

			サンプル数	夫婦	パートナー	婚姻を解消した相手	恋人	元恋人	無回答
全体			100.0%	69.8%	2.8%	3.7%	5.7%	2.2%	15.8%
			600	419	17	22	34	13	95
性・年代別	男性		100.0%	62.0%	4.0%	0.5%	6.5%	2.5%	24.5%
			200	124	8	1	13	5	49
		20 歳代	100.0%	37.5%	18.8%	0.0%	25.0%	12.5%	6.3%
			16	6	3	0	4	2	1
		30 歳代	100.0%	55.6%	2.8%	0.0%	16.7%	2.8%	22.2%
			36	20	1	0	6	1	8
		40 歳代	100.0%	84.0%	4.0%	4.0%	4.0%	0.0%	4.0%
			25	21	1	1	1	0	1
		50 歳代	100.0%	60.4%	2.1%	0.0%	2.1%	4.2%	31.3%
			48	29	1	0	1	2	15
		60 歳代	100.0%	68.0%	4.0%	0.0%	2.0%	0.0%	26.0%
			50	34	2	0	1	0	13
		70 歳以上	100.0%	56.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.0%
			25	14	0	0	0	0	11
	女性		100.0%	74.0%	2.3%	5.3%	5.3%	1.8%	11.4%
			396	293	9	21	21	7	45
		20 歳代	100.0%	52.0%	0.0%	4.0%	28.0%	8.0%	8.0%
			25	13	0	1	7	2	2
		30 歳代	100.0%	62.7%	0.0%	8.5%	16.9%	5.1%	6.8%
			59	37	0	5	10	3	4
		40 歳代	100.0%	81.0%	1.3%	5.1%	5.1%	1.3%	6.3%
			79	64	1	4	4	1	5
		50 歳代	100.0%	79.6%	3.9%	4.9%	0.0%	1.0%	10.7%
			103	82	4	5	0	1	11
		60 歳代	100.0%	80.6%	1.1%	6.5%	0.0%	0.0%	11.8%
			93	75	1	6	0	0	11
		70 歳以上	100.0%	57.1%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	34.3%
			35	20	3	0	0	0	12

【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがある方でお子さんがいらっしゃる方におたずねします。】

問２１　その相手はあなたのお子さんに対して、あなたがされた問 18 の①から⑫と同じような行為をしたことがありましたか。あてはまる番号を１つ選んで○をつけてください。

◆子どもへ同じような行為が「あった」と回答は２割弱◆

暴力や嫌がらせ等の行為をした相手は、子どもへ同じような行為が「あった」の割合は、全体の 18.5%となっている。

これを性別にみると、あった（男性：15.5%、女性：19.6%）となっており、女性の方が子どもへ同じような行為があったと回答している割合が高くなっている。

図２１　子どもへの暴力行為（全体）

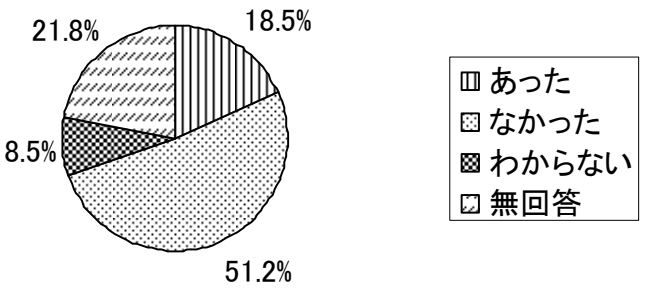
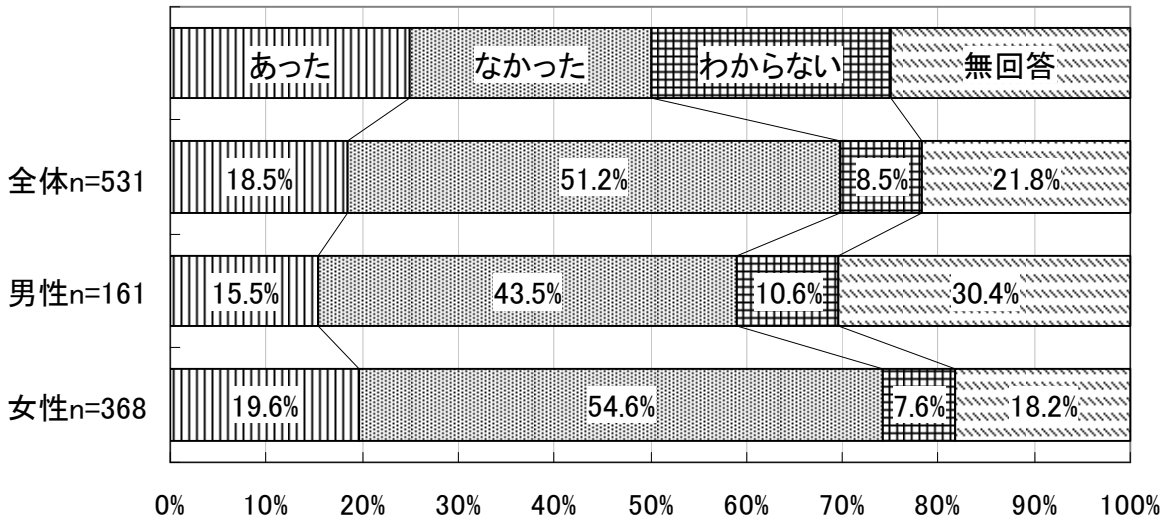


図２１-①　子どもへの暴力行為（全体・性別）



子どもへの暴力行為（性・年代別）

			サンプル数	あった	なかった	わからない	無回答
全体			100.0%	18.5%	51.2%	8.5%	21.8%
			531	98	272	45	116
性・年代別	男性		100.0%	15.5%	43.5%	10.6%	30.4%
			161	25	70	17	49
		20 歳代	100.0%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
			6	1	4	1	0
		30 歳代	100.0%	10.0%	60.0%	10.0%	20.0%
			20	2	12	2	4
		40 歳代	100.0%	26.1%	52.2%	4.3%	17.4%
			23	6	12	1	4
		50 歳代	100.0%	8.1%	45.9%	8.1%	37.8%
			37	3	17	3	14
		60 歳代	100.0%	12.2%	38.8%	12.2%	36.7%
			49	6	19	6	18
		70 歳以上	100.0%	26.9%	23.1%	15.4%	34.6%
			26	7	6	4	9
	女性		100.0%	19.6%	54.6%	7.6%	18.2%
			368	72	201	28	67
		20 歳代	100.0%	9.1%	50.0%	9.1%	31.8%
			22	2	11	2	7
		30 歳代	100.0%	17.8%	62.2%	0.0%	20.0%
			45	8	28	0	9
		40 歳代	100.0%	26.0%	53.4%	5.5%	15.1%
			73	19	39	4	11
		50 歳代	100.0%	28.7%	52.5%	5.9%	12.9%
			101	29	53	6	13
		60 歳代	100.0%	12.2%	61.1%	11.1%	15.6%
			90	11	55	10	14
		70 歳以上	100.0%	5.7%	40.0%	17.1%	37.1%
			35	2	14	6	13

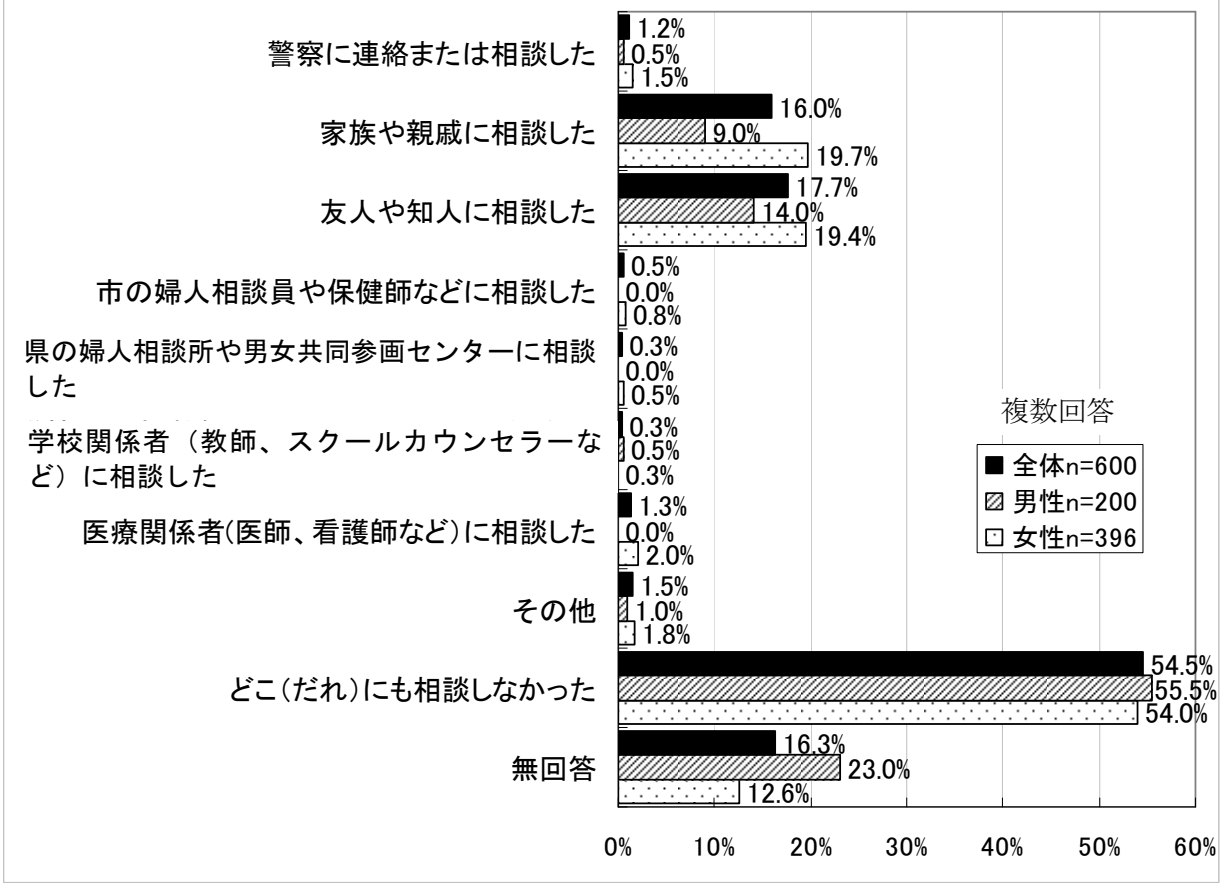
【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがあるすべての方におたずねします。】
問２２　そのようなとき、あなたはどこか（誰か）に相談されましたか。次の１から９の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

◆配偶者等から被害にあった際の被害者の相談先は友人・知人・家族が最も多い◆

配偶者等から被害にあった際の相談先についてみると、全体では「どこ（だれ）にも相談しなかった（54.5％）の割合が最も高く、次いで「友人や知人に相談した」（17.7％）、「家族や親戚に相談した」（16.0％）の順となっている。

これを性別でみると、「家族や親戚に相談した」（男性：9.0％、女性 19.7％）、「友人や知人に相談した」（男性：14.0％、女性：19.4％）では女性の割合が男性より高く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（男性：55.5％、女性：54.0％）では男性の割合が女性より高くなっている。

図２２　配偶者等から被害にあった際の相談先（全体・性別）



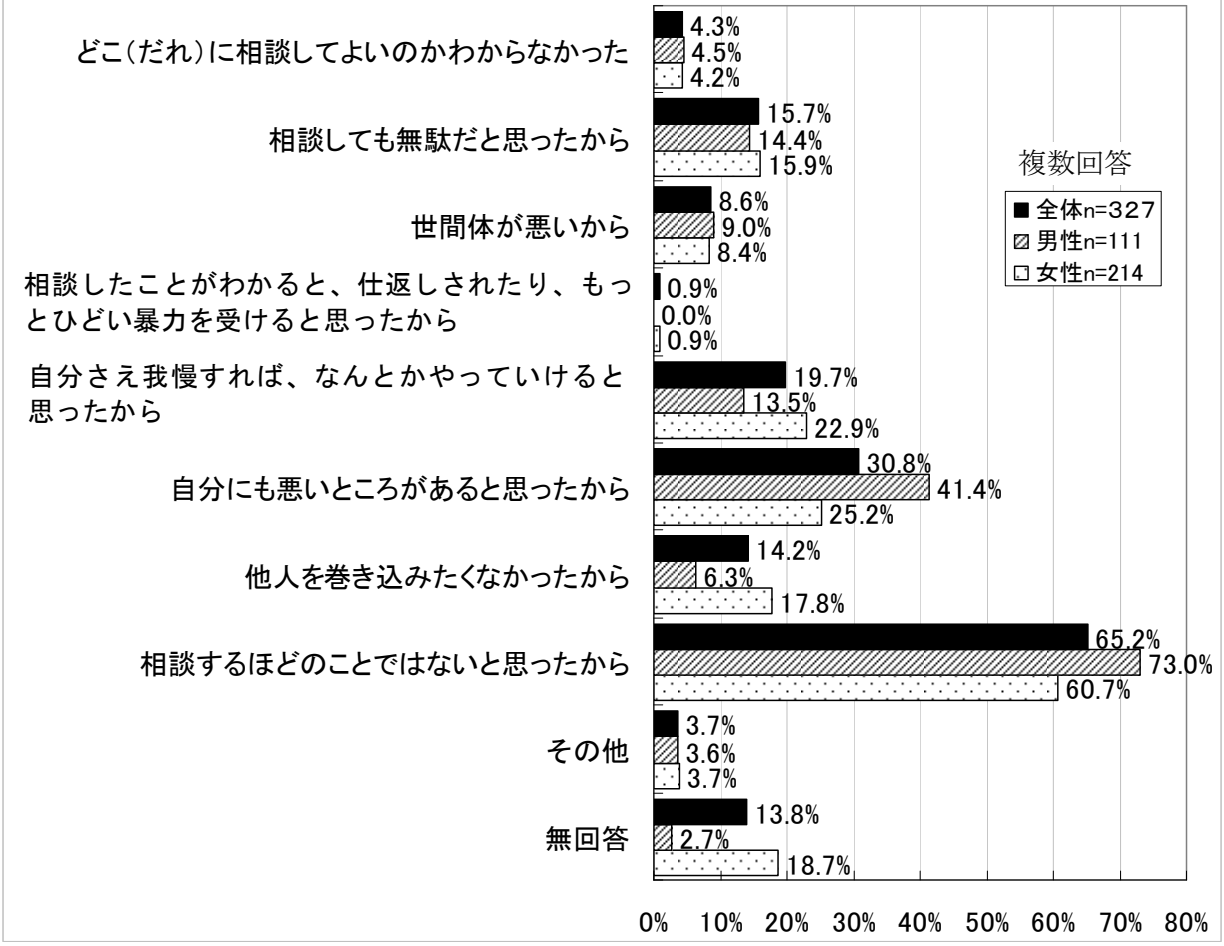
【問 22 で「９どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。】
問２３　どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。次の１から９の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

◆相談するほどのことではないと思ったからが最も多い理由◆

ＤＶにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」（65.2%）が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（30.8%）、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」（19.7%）の順となっている。

これを性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」（男性：73.0%、女性：60.7%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（男性：41.4%、女性：25.2%、「世間体が悪いから」（男性：9.0%、女性 8.4%）で男性の割合が女性より高くなっており、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」（男性：13.5%、女性：22.9%）、「他人を巻き込みたくなかったから」（男性：6.3%、女性：17.8%）、「相談しても無駄だと思ったから」（男性：14.4%、女性：15.9%）で女性の割合が男性より高くなっている。

図２３　どこ（だれ）にも相談しなかった理由（全体・性別）



【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがある方すべてにおたずねします。】
問２４　あなたが、あなたの配偶者等からそのような行為を最初に受けたのは、いつですか。
次の１から８の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

◆結婚してからが５割を超える◆

配偶者等から最初に被害を受けたのはいつかをみると、全体では「結婚してから」が 5 割以上で、性別でみると、「婚約してから」（男性:6.5%、女性:2.0%）で男性の割合が女性より高くなっている。これを年代別にみると、20 歳代の男女ともに「交際中」の割合が最も高くなっている。

図２４　配偶者等から最初に被害を受けた時期（全体・性別）

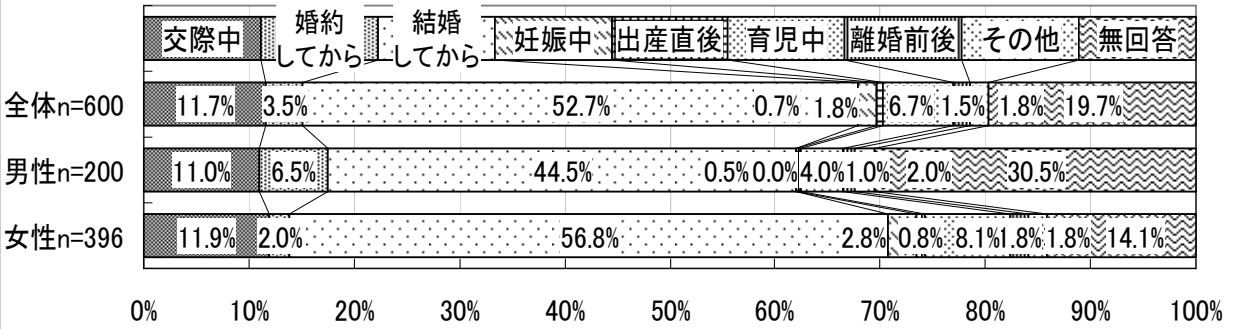
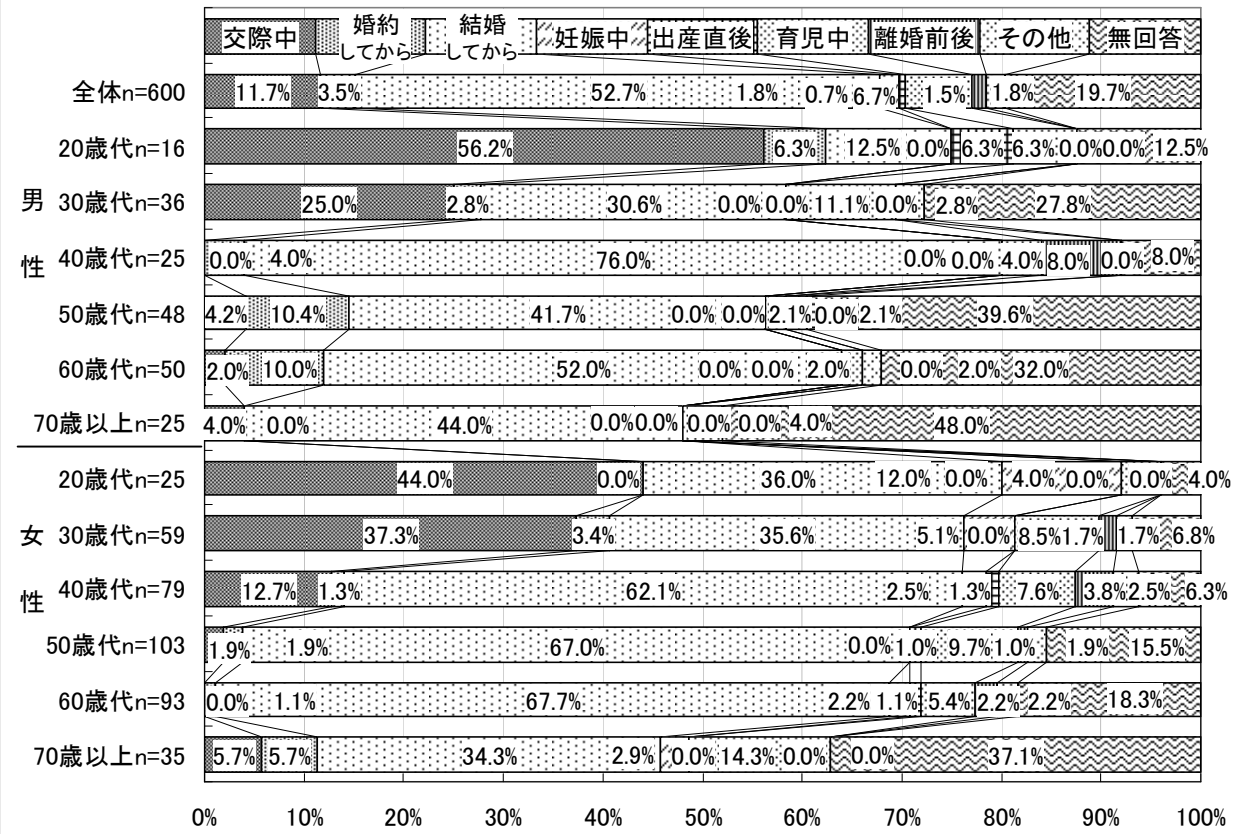


図 24 - ①　配偶者等から最初に被害を受けた時期　（性・年代別）



配偶者等から最初に被害を受けた時期（性・年代別）

		サンプル数	交際中	婚約してから	結婚（同居）してから	妊娠中	出産直後	育児中	離婚前後	その他	無回答
全体		100.0%	11.7%	3.5%	52.7%	1.8%	0.7%	6.7%	1.5%	1.8%	19.7%
		600	70	21	316	11	4	40	9	11	118
性・年代別	男性	100.0%	11.0%	6.5%	44.5%	0.0%	0.5%	4.0%	1.0%	2.0%	30.5%
		200	22	13	89	0	1	8	2	4	61
	20 歳代	100.0%	56.2%	6.3%	12.5%	0.0%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%
		16	9	1	2	0	1	1	0	0	2
	30 歳代	100.0%	25.0%	2.8%	30.6%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	2.8%	27.8%
		36	9	1	11	0	0	4	0	1	10
	40 歳代	100.0%	0.0%	4.0%	7.6%	0.0%	0.0%	4.0%	8.0%	0.0%	8.0%
		25	0	1	19	0	0	1	2	0	2
	50 歳代	100.0%	4.2%	10.4%	41.7%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	2.1%	39.6%
		48	2	5	20	0	0	1	0	1	19
	60 歳代	100.0%	2.0%	10.0%	52.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	2.0%	32.0%
		50	1	5	26	0	0	1	0	1	16
	70 歳以上	100.0%	4.0%	0.0%	44.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	48.0%
		25	1	0	11	0	0	0	0	1	12
	女性	100.0%	11.9%	2.0%	56.8%	2.8%	0.8%	8.1%	1.8%	1.8%	14.1%
		396	47	8	225	11	3	32	7	7	56
	20 歳代	100.0%	44.0%	0.0%	36.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%
		25	11	0	9	3	0	1	0	0	1
	30 歳代	100.0%	37.3%	3.4%	35.6%	5.1%	0.0%	8.5%	1.7%	1.7%	6.8%
		59	22	2	21	3	0	5	1	1	4
	40 歳代	100.0%	12.7%	1.3%	62.1%	2.5%	1.3%	7.6%	3.8%	2.5%	6.3%
		79	10	1	49	2	1	6	3	2	5
	50 歳代	100.0%	1.9%	1.9%	67.0%	0.0%	1.0%	9.7%	1.0%	1.9%	15.5%
		103	2	2	69	0	1	10	1	2	16
	60 歳代	100.0%	0.0%	1.1%	67.7%	2.2%	1.1%	5.4%	2.2%	2.2%	18.3%
		93	0	1	63	2	1	5	2	2	17
	70 歳以上	100.0%	5.7%	5.7%	34.3%	2.9%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	37.1%
		35	2	2	12	1	0	5	0	0	13

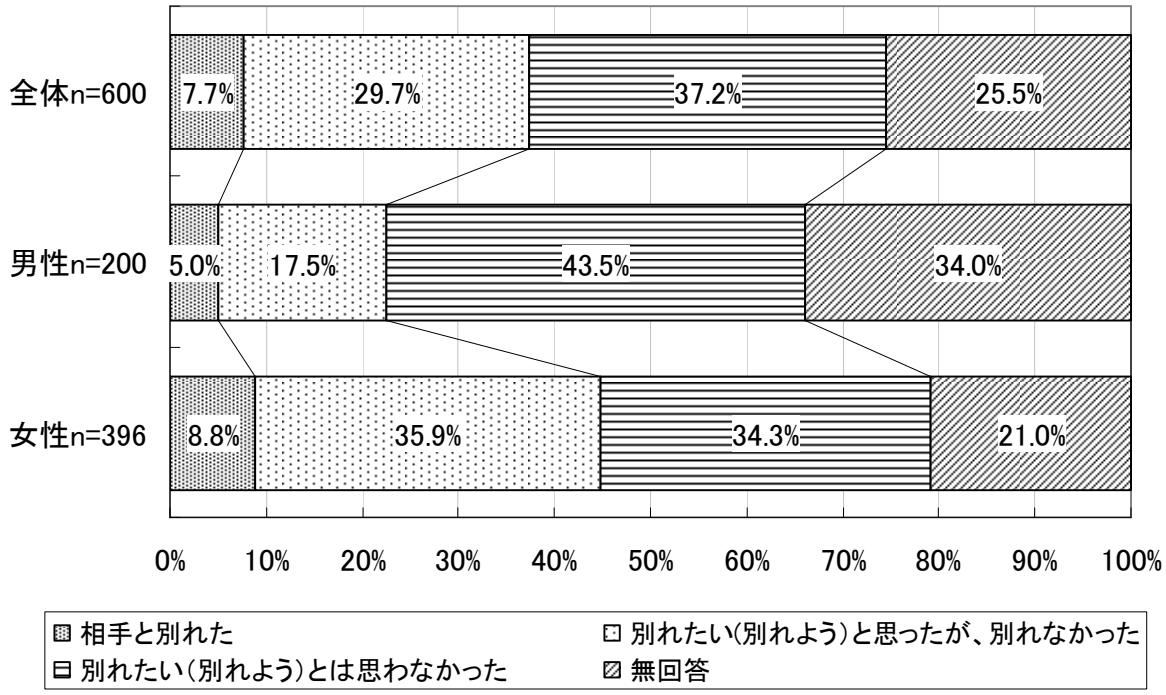
【問 18 の①から⑫の行為を受けたことがある方すべてにおたずねします。】
問２５　あなたは、あなたの配偶者等からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか。次の１から３の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

◆男性「別れようとは思わなかった」女性「別れようと思ったが別れなかった」◆

これまでに配偶者等から被害を受けたことのある人（600 人）にその行為を最初に受けた時の行動を聞いたところ、全体では「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が 37.2％と最も高く、次いで「別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった」が、29.7％、「相手と別れた」が 7.7％の順となっている。

これを性別にみると、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」（男性：43.5％、女性:34.3％）で男性の割合が女性より高く、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」（男性:17.5％、女性:35.9％）で男性より女性の方が高い割合となっている。

図２５　配偶者等から最初に被害を受けた時の行動(全体・性別)



最初に被害を受けた時の行動（性・年代別）

			サンプル数	相手と別れた	別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった	別れたい（別れよう）とは思わなかった	無回答
全体			100.0%	7.7%	29.7%	37.2%	25.5%
			600	46	178	223	153
性・年代別	男性		100.0%	5.0%	17.5%	43.5%	34.0%
			200	10	35	87	68
		20 歳代	100.0%	0.0%	6.3%	68.8%	25.0%
			16	0	1	11	4
		30 歳代	100.0%	11.1%	19.4%	44.4%	25.0%
			36	4	7	16	9
		40 歳代	100.0%	16.0%	24.0%	48.0%	12.0%
			25	4	6	12	3
		50 歳代	100.0%	4.2%	16.7%	35.4%	43.8%
			48	2	8	17	21
		60 歳代	100.0%	0.0%	12.0%	46.0%	42.0%
			50	0	6	23	21
		70 歳以上	100.0%	0.0%	28.0%	32.0%	40.0%
			25	0	7	8	10
	女性		100.0%	8.8%	35.9%	34.3%	21.0%
			396	35	142	136	83
		20 歳代	100.0%	12.0%	36.0%	36.0%	16.0%
			25	3	9	9	4
		30 歳代	100.0%	15.3%	37.3%	33.9%	13.6%
			59	9	22	20	8
		40 歳代	100.0%	11.4%	39.2%	36.7%	12.7%
			79	9	31	29	10
		50 歳代	100.0%	4.9%	46.6%	27.2%	21.4%
			103	5	48	28	22
		60 歳代	100.0%	9.7%	28.0%	38.7%	23.7%
			93	9	26	36	22
		70 歳以上	100.0%	0.0%	17.1%	34.3%	48.6%
			35	0	6	12	17

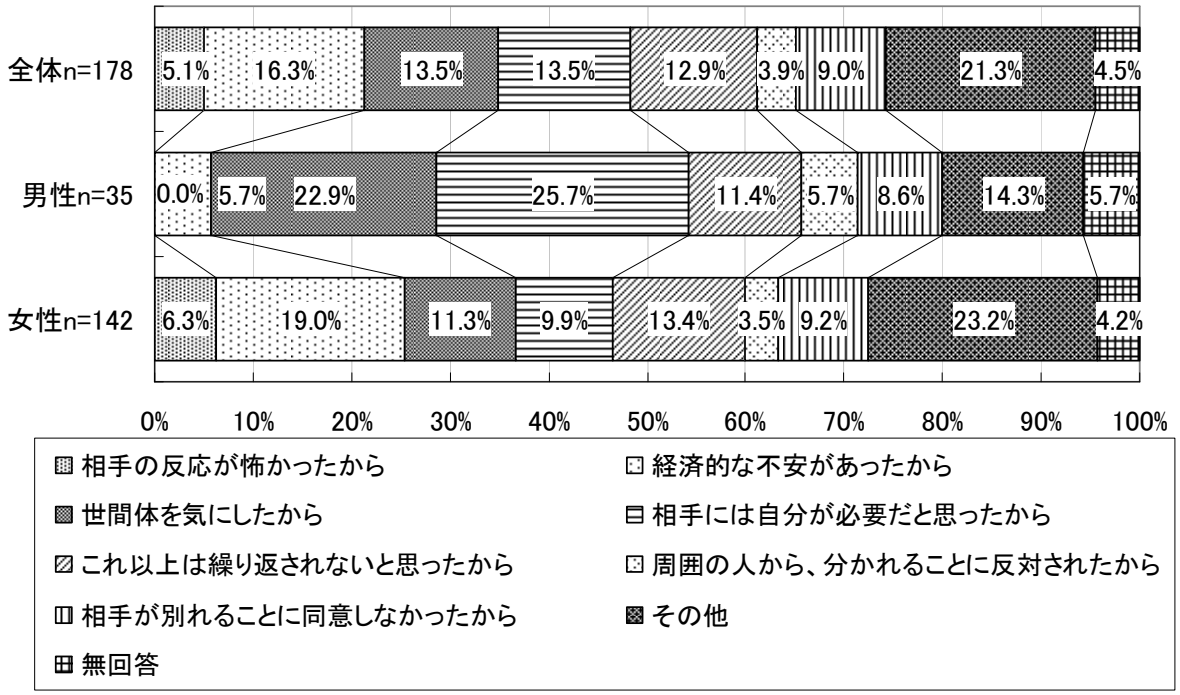
【問 25 で「２別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と答えた方におたずねします。】
問２６　あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。次の１から８の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

◆男性「相手には自分が必要」、女性「経済的な不安」◆

配偶者等から最初に被害を受けたころ、相手と「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」という人（178 人）にその理由を聞いてみると、全体では、「経済的な不安があったから」16.3%の割合が最も高く、次いで「世間体を気にしたから」と「相手には自分が必要だと思ったから」は共に、13.5%、「これ以上は繰り返されないと思ったから」12.9%の順となっている。

これを性別にみると、「相手には自分が必要だと思ったから」（男性：25.7%、女性：9.9%）、「世間体を気にしたから」（男性：22.9%、女性：11.3%）、「周囲の人から、別れることに反対されたから」（男性：5.7%、女性：3.5%）が女性より男性の割合が高く、「経済的な不安があったから」（男性：5.7%、女性：19.0%）、「これ以上は繰り返されないと思ったから」（男性：11.4%、女性：13.4%）、「相手の反応が怖かったから」（男性：0.0%、女性：6.3%）で男性より女性の割合が高くなっている。

図２６　配偶者等と別れなかった理由（全体・性別）



配偶者等と別れなかった理由（性別・年代別）

		サンプル数	相手の反応が怖かったから	経済的な不安があったから	世間体を気にしたから	相手には自分が必要だと思ったから	これ以上は繰り返されないと思ったから	周囲の人から、別れることに反対されたから	相手が別れることに同意しなかったから	その他	無回答
全体		100.0%	5.1%	16.3%	13.5%	13.5%	12.9%	3.9%	9.0%	21.3%	4.5%
		178	9	29	24	24	23	7	16	38	8
性・年代別	男性	100.0%	0.0%	5.7%	22.9%	25.7%	11.4%	5.7%	8.6%	14.3%	5.7%
		35	0	2	8	9	4	2	3	5	2
	20 歳代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	30 歳代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%
		7	0	0	0	2	1	0	2	1	1
	40 歳代	100.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
		6	0	1	0	2	0	0	0	3	0
	50 歳代	100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		8	0	0	2	4	1	1	0	0	0
	60 歳代	100.0%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
		6	0	0	4	1	0	0	0	1	0
	70 歳以上	100.0%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
		7	0	1	2	0	2	1	1	0	0
	女性	100.0%	6.3%	19.0%	11.3%	9.9%	13.4%	3.5%	9.2%	23.2%	4.2%
		142	9	27	16	14	19	5	13	33	6
	20 歳代	100.0%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	22.2%	11.1%
		9	1	1	1	1	1	0	1	2	1
	30 歳代	100.0%	4.5%	9.1%	0.0%	13.6%	18.2%	0.0%	18.2%	36.4%	0.0%
		22	1	2	0	3	4	0	4	8	0
	40 歳代	100.0%	3.2%	22.6%	9.7%	3.2%	19.4%	3.2%	9.7%	29.0%	0.0%
		31	1	7	3	1	6	1	3	9	0
	50 歳代	100.0%	10.4%	16.7%	12.5%	14.6%	14.6%	4.2%	4.2%	16.7%	6.3%
		48	5	8	6	7	7	2	2	8	3
	60 歳代	100.0%	3.9%	26.9%	19.2%	7.7%	3.9%	3.9%	11.5%	19.2%	3.9%
		26	1	7	5	2	1	1	3	5	1
	70 歳以上	100.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%
		6	0	2	1	0	0	1	0	1	1

【問 25 でお答えいただいた方すべてにおたずねします。】
問２７　あなたはこれまでに、あなたの配偶者等から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

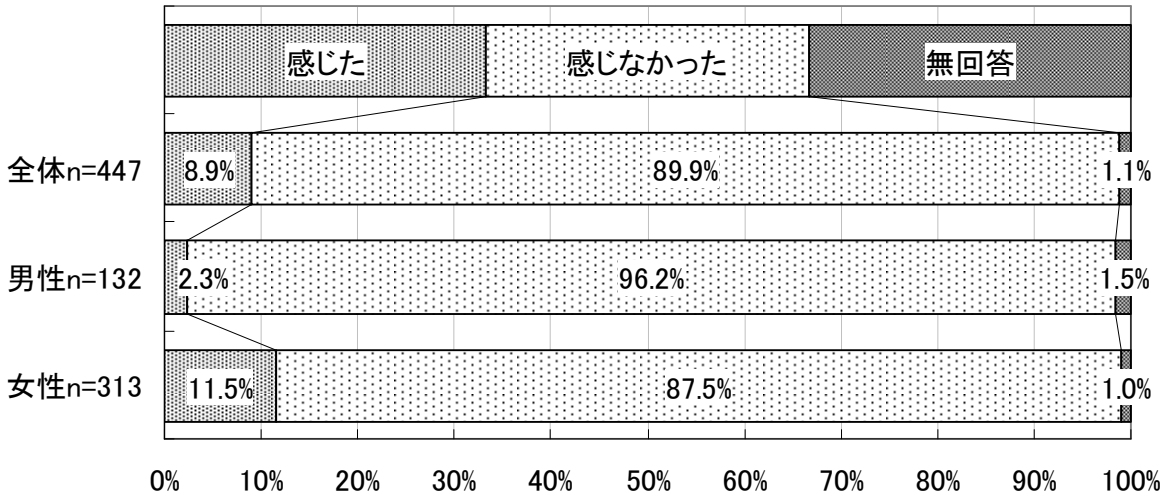
◆命の危険を感じた経験のある人は女性の９人に１人◆

これまでに配偶者等から被害を受けたことのある人（447 人）に、その行為によって命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、全体では「感じた」は 8.9%である。

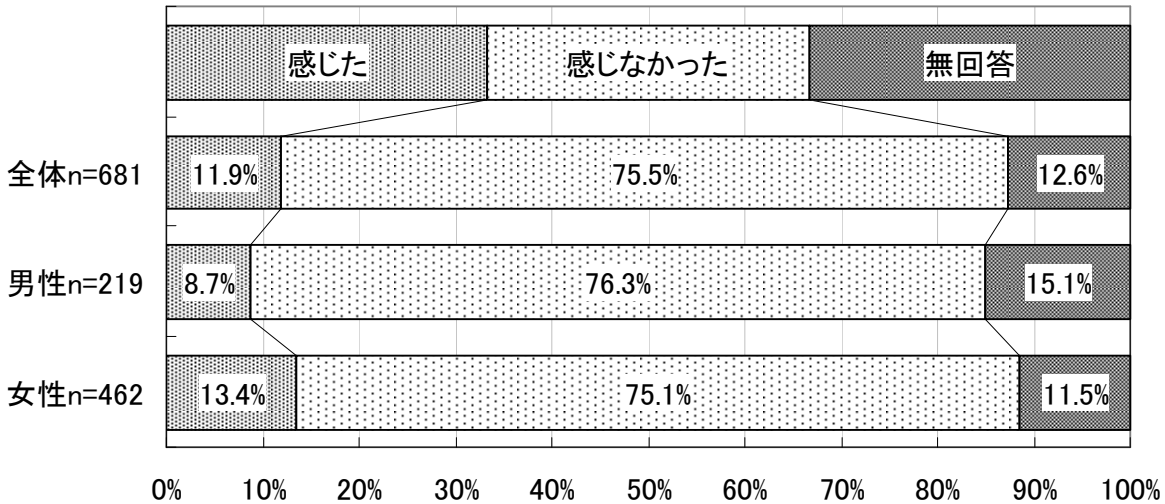
これを性別にみると、命の危険を「感じた」（男性:2.3%、女性:11.5%）で女性の割合が男性より高くなっている。

内閣府調査と比較すると、命の危険を「感じた」は、男女ともに鹿屋市の方が低い割合となっている。

図２７　配偶者等からの被害により命の危険を感じた経験（全体・性別）



＜内閣府調査＞　配偶者からの被害により命の危険を感じた経験（全体・性別）



配偶者等からの被害により命の危険を感じた経験（性・年代別）

			サンプル数	感じた	感じなかった	無回答
全体			100.0%	8.9%	89.9%	1.1%
			447	40	402	5
性・年代別	男性		100.0%	2.3%	96.2%	1.5%
			132	3	127	2
		20 歳代	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
			12	0	12	0
		30 歳代	100.0%	3.7%	92.6%	3.7%
			27	1	25	1
		40 歳代	100.0%	4.5%	95.5%	0.0%
			22	1	21	0
		50 歳代	100.0%	3.7%	96.3%	0.0%
			27	1	26	0
		60 歳代	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
			29	0	29	0
		70 歳以上	100.0%	0.0%	93.3%	6.7%
			15	0	14	1
	女性		100.0%	11.5%	87.5%	1.0%
			313	36	274	3
		20 歳代	100.0%	4.8%	90.5%	4.8%
			21	1	19	1
		30 歳代	100.0%	17.6%	82.4%	0.0%
			51	9	42	0
		40 歳代	100.0%	13.0%	87.0%	0.0%
			69	9	60	0
		50 歳代	100.0%	12.3%	87.7%	0.0%
			81	10	71	0
		60 歳代	100.0%	8.5%	88.7%	2.8%
			71	6	63	2
		70 歳以上	100.0%	5.6%	94.4%	0.0%
			18	1	17	0

８　暴力防止策や被害者支援について
（１）男女間における暴力をなくすために必要なこと

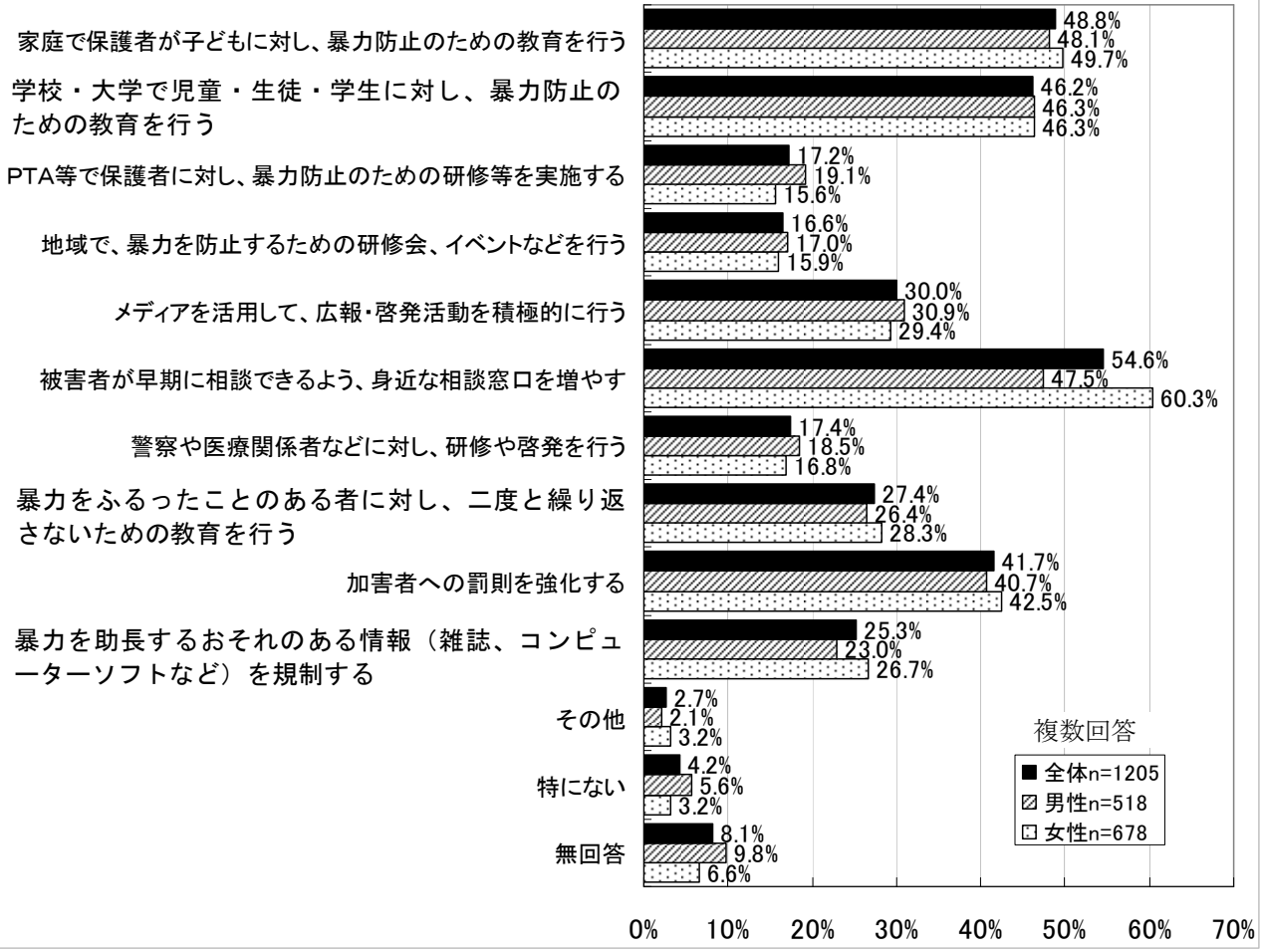
問２８　男女間における暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。
次の１から 12 の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

◆身近な相談窓口を増やすことや家庭、学校等での教育が必要◆

男女間における暴力をなくすために必要なことについてみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」54.6%が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力防止のための教育を行う」48.8%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力防止のための教育を行う」46.2%の順となっている。

これを性別にみると、「ＰＴＡ等で保護者に対し、暴力防止のための研修等を実施する」（男性:19.1%、女性:15.6%）では女性より男性の割合が高く、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（男性:47.5%、女性:60.3%）では男性より女性の割合が高くなっている。

図２８　男女間における暴力を防止するために必要なこと（全体・性別）



（２）メディアにおける性・暴力表現についての考え

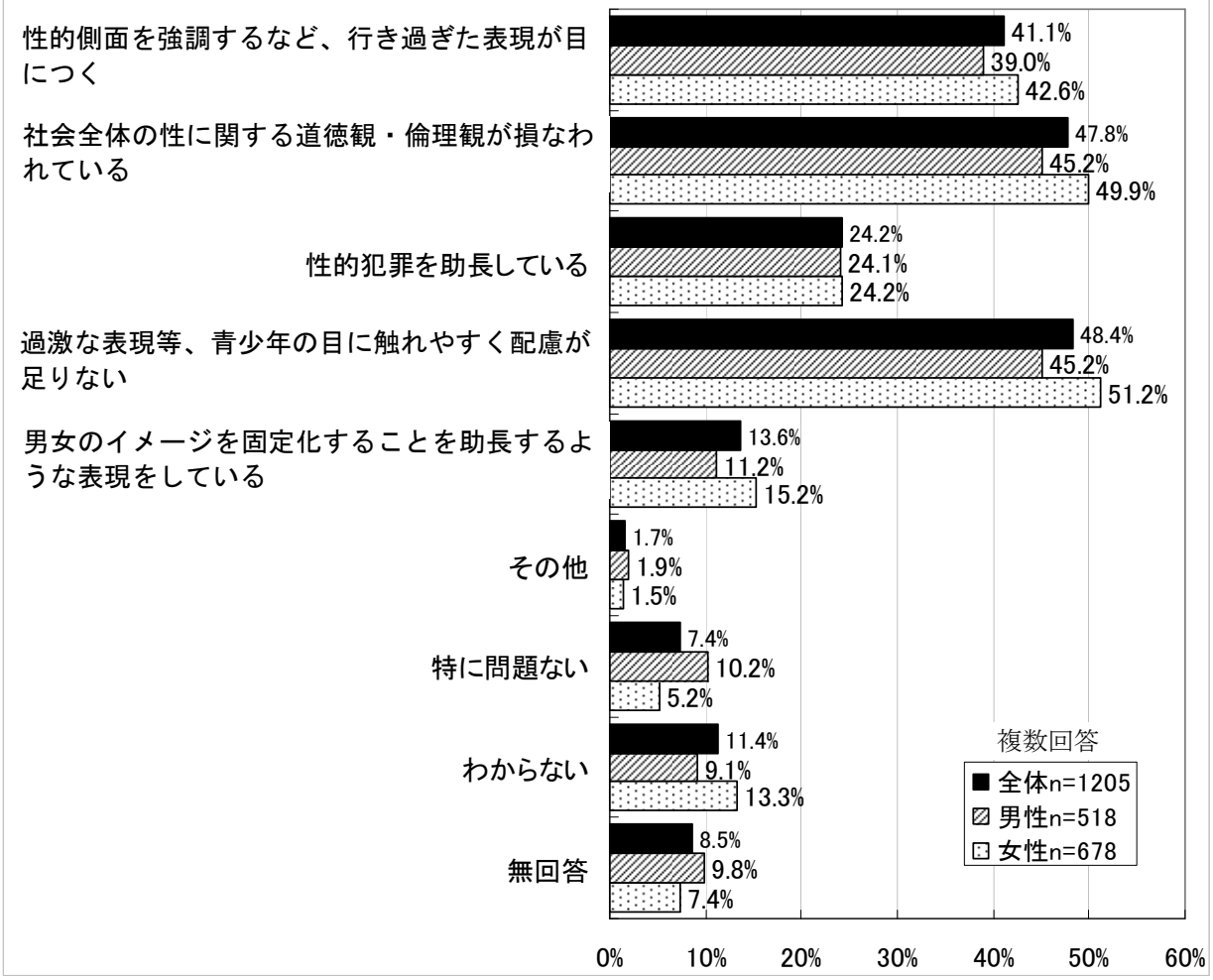
問２９　テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。
次の１から８の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

◆過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りないと感じる人が多い◆

メディアにおける性・暴力表現についての考え方についてみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」48.4％の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」47.8％の順となっている。

これを性別にみると、「特に問題ない」（男性:10.2％、女性:5.2％）では男性が女性より高く、その他の項目ではすべて男性より女性が高い割合となっている。

図２９　メディアにおける性・暴力表現についての考え（全体・性別）



９　各質問（その他）の意見について（具体的に）

問６

問５の②「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で「賛成」「どちらかというと賛成」と答えた方におたずねします。
その理由は何ですか。次の１から７の中からいくつでもお選びください。

No	20歳代・女性
1	別にそんなにこだわらなくても、男を立てる方がうまくいく。
2	自分自身、学生時代帰宅した際、母親がいるのがあたり前で、子どもに寂しい思いをさせないために、できれば、妻は家庭内にいることが望ましい。

No	３０歳代・男性
1	男性は、子どもを生むことができないし、おっぱいもでないので、おっぱいをあげることもできない。だから、子どもには母親が常に近くにいる方がいい。生物としての本能を考えると、女性が家庭を守っていかざるを得ないと思う。
2	女性にしかできないことがある。
3	犯罪が少なくなる。

No	３０歳代・女性
1	働いている女性は、家事・育児ほとんどすべて行っているから負担が多いので、負担を減らすために家庭にいたほうがいい。
2	２人とも働くと家事などができず、家のなかのことがおろそかになるから。
3	子どもの育児に関していうと、小さいうちは母親が家にいた方が子どもの心が安定するから。

No	４０歳代・男性
1	女性がやりたい仕事をバリバリやるのは大賛成だが、夫の給料が少ないから、家計のために仕方なく働きに出るのは、最終的に家庭不和のもとになると思うから。
2	危険な職業の場合は女性に向かない。
3	妻が家にいてほしいから。
4	女性は、子どもがいたら家庭優先でないと子どもが大変

No	４０歳代・女性
1	子どもの幼少期、母子が過ごす時間が大切
2	賃金が男性の方が高い場合が多いので。
3	学校行事などの参加がきちんとできるから。
4	男と女は本質的に違うから。
5	必ずというわけではなくて、生物学的に見てもその方が理に合っていると思う。

No	５０歳代・女性
1	両立は難しく、子どものしつけが手薄になるから。
2	女性は優しく家族を守り、ここ一番のときが、夫の役目と思う。
3	性差はあるが、向き不向きではないと思う。

No	６０歳代・男性
1	子育てに専念できるから。仕事より子育て優先のため
2	妻が仕事を持つとどうしても妻の負担が大きい。
3	共働きは、子どもが学校から帰ってきたとき、誰もいなかったらかわいそう。

No	６０歳代・女性
1	男性は子どもを産めないし、子育ては女性のほうが向いている。
2	女性が外に出れば、家事・子どもの世話がなおざりになる。
3	子育ては、子どもがある程度の年齢になるまで妻（母親）が見届ける必要があると思うから。
4	家事、育児、家庭を守るのも大事な仕事である。女性が仕事に生きがいを持っていたら、外で働いてもいいと思う。
5	子どもは、３歳までに母親が育てる方が、人間としてちゃんと育つと思う。

No	７０歳以上・女性
1	夫が家事・育児に協力的でなかったら、すべて一人でしないといけないので、疲れてけんかのもとになるから。

問８

あなたは、今後男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の１から９の中から３つ以内でお選びください。

No	20 歳代・男性
1	できることとできないことを明示した上での法整備
2	なぜ男女ともに参加しなければならないのかわからない。
3	共同参画が進んでいる国をモデルに、学校からの教育、社会における意識改革をしていく必要がある。

No	３０歳代・男性
1	社会のゆとり
2	子どもを預ける施設を増やす。
3	地域コミュニティーの絆を深める取り組み、行事、イベントを通してコミュニケーションをとる。
4	子どもがいる家庭の共働きに対しての税の控除

No	３０歳代・女性
1	女性の給与、社会的地位を上げて、男性を扶養できるくらいにすべき。
2	法律や制度は見直されていても、社会的に受け入れられていない現況が変わらなければ、意味はないと思う。
3	それぞれの家庭で役割分担ができていればいいと思う。
4	子どもが病気という理由で、以前職場をくびになったことが２度もあるので、育児に専念した方がいいと思う。

No	４０歳代・男性
1	今から育つ子どもたちは、教育やしつけで何とかなるかもしれないが、すでに成人している人たちは、働いていれば仕事優先となるので、その人たちをどうするか。
2	女性の就業率を向上させ、女性の所得を向上させ、男女の格差をなくす。男女のどちらが外で働いても、家で家事をしても、対等に扱われる。
3	女性が経済的に自立できる環境が必要
4	子育ては、仕事を持った女性には大変な労力だと思う。共働きでは、子どもを６歳くらいまで面倒見られて、社会復帰できる体制が必要

No	４０歳代・女性
1	結婚・出産を当然のライフステージとみなした上で、両性のより働きやすい環境を保障するような社会のシステムづくり
2	女性が、家事、子育て、介護をするのがあたりまえという考え方を変えていくこと。

No	５０歳代・男性
1	職場の全体がシステム的に認めることが重要
2	収入の確保。収入のない女性は、男性の暴力に耐えるしかない。
3	どちらか収入の多い方が働き、少ない方は家庭

No	５０歳代・女性
1	本人の意識
2	男性が家事・育児に積極的に参加できるように、男性向けの講座を設ける。

No	６０歳代・男性
1	男性に積極的に家事等の分担を与えて、共に生活基盤をお互いに作っていくことを当初に実行、継続していくこと。

No	７０歳以上・男性
1	男女、夫婦共にそれぞれ自立することが大事である。

No	７０歳以上・女性
1	男性が仕事をしている場合、嫁が家事をすればよい。したくなければ、女性も仕事をすればよい。または、結婚しなければよい。

問９

一般的に女性が仕事をもつことについて、あなたはどう思われますか。
次の１から７の中からあてはまる番号を１つお選びください。

No	20 歳代・男性
1	女性自身の希望を尊重する方がいい。
2	本人の自由だと思う。

No	20 歳代・女性
1	女性は子育てに専念したいが、生活のためには仕事を続けるしかない。
2	家庭や本人の状況次第

No	20歳代・女性
3	仕事ができる環境が整えば職業を持つほうがいい。
4	子どもができても職業を続けていいと思う。しかし、育児をしていく中で、仕事の負担が大きく子育てに影響を及ぼしそうだと感じたら、やめてもいいと思う。
5	本人の自由

No	３０歳代・男性
1	女性の意志を尊重
2	女性の自由に。
3	個人の自由「～方がよい」という考えは当てはまらない。
4	選べる環境をつくるべき。
5	世の不況のため、女性は働かざるを得ない。
6	まだまだ子どもを持つ母親は働きにくい環境にあるため、どうこう言えない。
7	社会的・経済的状況に応じてその都度考えればよい。

No	３０歳代・女性
1	本人の意思
2	育児が仕事をする上での障害になっているから。
3	収入次第
4	どちらでも良い。子どもが小さいときは、どちらかが家にいればよい。女性である必要はない。

No	４０歳代・男性
1	各家庭の事情により異なることなので、自由なのでは。
2	本人の希望により決定すればよい。
3	１人の賃金では低いため
4	本当にやりたい仕事なら続けてもよいと思う。

No	４０歳代・女性
1	生活のため
2	それぞれの自由だと思います。
3	子どもを育てるためにはお金が必要です。そのためには働かざるをえない。
4	個々で違うので一律に言えない。
5	その家庭でその時点で判断すべきと思います。
6	働けるときは働いて、家庭子どもを犠牲にしてまではどうかと思う。
7	続けたくても続けられない状態になったときまでは、仕事もしたほうがよい。
8	子どもをつくらず働く。
9	男性がお金をかせぐ大変さをわかるために、女性も一度は仕事を持つことが必要
10	生活できる水準にあるかで、夫婦で決めることだと思う。
11	環境が許せば育児に専念できればいいが、現実に生活が苦しいとなると働かざるをえない。

No	５０歳代・男性
1	ケースバイケースである。
2	家庭の事情に委ねるべき。
3	収入が少なければ仕事をすればいいと思う。

No	５０歳代・女性
1	夫の協力がないと両立は大変なことです。
2	生活費に困らなければ子育てに専念するほうが子どもとコミュニケーションがとれて良い。
3	個人の考え方によるし、環境にも左右されるので、どちらがいいか判断しかねる。
4	各家族間の考え方にもよるが、女性も社会に目を向け行動すべき。
5	生活に余裕があるかないかで考える。
6	子どもが２歳ぐらいまでは母親が家庭にいたほうが良いと思うが、共稼ぎしないと生活に余裕がないので、そうも言ってられない。

No	６０歳代・男性
1	両立は難しい。子どもは、母親のもとでのんびりゆっくり時間をかけてやる。３歳くらいまでは、家で遊ばせる。
2	生活面（経済面）、体調等総合的に考えてお互い話し合いながら、最も良い方向を見出すことが大事

No	６０歳代・女性
1	子育てで親を必要としている期間は限られており、子育て後、働くチャンスはある。
2	各家庭、各個人で考え方があるし、事情もある。その家庭、個人が一番良いと思う方法を選択し、男性であれ、女性であれ、生きがいのある人生を歩けたらと思う。（職業は、１つの手段である。）
3	それぞれ事情があるので、これといって決める必要はないと思う。女性が働きやすい環境が大事なのでは。
4	子育てと職業が両立できるよう社会が変わってほしい。保育園も増えてはいるが、時間的な問題等
5	職業を続けたかったり、続けられる状態であれば、続ける方が良い。
6	子育てをしながらの職業は大変だと思うけど、近くにサポートしてくれる人がいたら、職業を持ってもいいと思う。

No	７０歳以上・男性
1	夫婦で理解しあって決める。

No	７０歳以上・女性
1	経済的に仕事が必要で、同意があり家庭円満ならよい。

問 10

問９で１から４を選んだ方におたずねします。そう思われた理由は何ですか。
次の１から５の中からあてはまる番号をお選びください。（○印はいくつでも）

No	20 歳代・女性
1	子どもに寂しい思いをさせないため

No	３０歳代・男性
1	経済的に共働きでないと生活が苦しいから。

No	３０歳代・女性
1	仕事のために子どもが犠牲になるから。
2	子どもが一番かわいい時期に子育てを楽しみたい。
3	子どもの病気などのとき休みづらく、迷惑をかけるから。
4	個人の自由。こうすべきということはない。
5	それが女性としてのあり方だから。
6	子どものためにも子どもが小さいときは一緒にいてあげた方が良い。

No	４０歳代・男性
1	子どもが小さいうちは、母親と過ごすことが大事だと思うから。
2	専念してもらいたいから。

No	４０歳代・女性
1	理想的だと思ったから。
2	仕事と家庭生活の両立は、幼い子を育てながらは難しい。
3	子育てを優先できない。
4	女性も母親としてだけでなく、自分の人生を考えたときにやりたいこと（仕事）を持つことも大切だと思うので、社会にその配慮があっても良いと思う。
5	仕事をしないと生活していけないため
6	子どもの０～３歳は、一生を左右するほど大切なときです。母親との関係をしっかり築くことで、社会へ向かう自信を築く時です。

No	５０歳代・男性
1	女性も社会の中にかかわりを持つべき。
2	女性も社会の構造を知るべき。
3	法律や制度が充実してないので両立は難しい。
4	子どもがかわいそう。
5	３歳になるまでは家庭でしっかり育てた方が良い。

No	５０歳代・女性
1	乳幼児期に母親と接する時間が多い方が良いと考えます。
2	子どもの人間性、家庭環境の重要性から。
3	子どもが病気のとき困るから。
4	育児休暇制度があり、子育てをする方には改善されつつあるが、まわりの同僚などが、仕事、転勤などで負担が増えている。
5	仕事で疲れて、子どもと充分に向き合えなかったから。

No	６０歳代・男性
1	男１人の収入で充分やっていけるから、無理して働かなくても良い。
2	雇用不安定な時代には、無理して働くことは不要である。
3	子どもに対する安全と教養・教育のため
4	育児施設も良いが、母親の愛情が子どもにはより大事なことだと思うから。

No	６０歳代・女性
1	子育ても人生上におけるライフワークと思うから。
2	生活に余裕がないから。

No	７０歳以上・男性
1	子どもの教育に専念し、時間に余裕ができたら経済的にも余裕が望ましい。

問 11

あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。
次の１から９の中からあてはまる番号をいくつでもお選びください。

No	20 歳代・男性
1	職務の重みが男性ばかりで、要求されるのも男性が大きく、女性には甘い。

No	３０歳代・男性
1	力仕事、外仕事は主に男性がしますよね。当然ですけど。
2	女性は、補助的な業務や雑用、肉体労働は男が優先、普通です。
3	女性が多い職場は、どちらかというと女性の方が処遇は良い傾向にあると思う。

No	４０歳代・女性
1	専門職でも女性が主体だと低賃金を設定されやすいように感じる。
2	職場は特にないが、銀行、漁協等は男女格差がある。

No	５０歳代・男性
1	女性の方が処遇を避ける傾向も否めない。

No	５０歳代・女性
1	男性にはきびしく言わず、女性にはきびしい。
2	女性の側の意識が弱い。適材適所でない。

No	６０歳代・男性
1	男性より教育面で優遇されている。

問 12

高齢者介護について今後どのようなことが必要だと思いますか。
次の１から 11 の中からあてはまる番号をお選びください。（○印は３つまで）

No	20 歳代・女性
1	介護師への配慮

No	３０歳代・男性
1	助成金がもっとあれば、充実した介護環境が実現できる。
2	高齢者の自覚とそうなったときの準備

No	３０歳代・女性
1	介護師の給与アップ（社会全体で負担）

No	４０歳代・女性
1	仕事をやめて、介護にあたる人もいます。介護する人を支える政策が必要だと思います。
2	若い方、体力のある方の介護の参加　介護されている方への保障の充実

No	５０歳代・女性
1	明日はわが身と考えて、介護が必要になったらこうしたい、してほしいを前もって計画しておく。

No	６０歳代・女性
1	介護者に休みを与えてほしい。
2	自分の力で衣食住を考える手だてを提供していく。

No	７０歳以上・男性
1	健康管理に努力し、運動等に努め、介護施設に世話にならぬよう努力する。

No	７０歳以上・女性
1	地域の公民館等で定期的な体力づくり（ストレッチやリハビリを兼ねたもの）が必要に思います。

問 14

現在わが国の政策や方針決定過程の女性の参画状況は、先進国の中で低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由は、何だと思いますか。（○はいくつでも）

No	20 歳代・男性
1	女性自身に結婚したら家庭に入るという意識があると思う。
2	女性は感情論で物事をはかるから。
3	そういった雰囲気なのでは。

No	20 歳代・女性
1	女性は母性本能で子どもを持つとそのような意欲を持つ人は少ない。
2	我が物顔で男性が政策決定を決めているから。

No	３０歳代・男性
1	比率でいえば、充分進出していると思いますが…。
2	能力の高い女性は、高く評価されている。しかしながら、女性自身が女性であることを理由に、厳しい勤務をしていないところが大きい。（残業、転勤等）男性より昇任できないのは仕方ないと思う。
3	資質のある人材が少ない。
4	正職員として女性が働くには、日本は労働時間が長すぎて家庭との両立が不可能
5	やる気、行動力が弱く、人まかせ（依頼心）なところも要因としてあるのでは。
6	女性観点からの意見、対応にしても女性という部分が出てしまっている。

No	４０歳代・男性
1	日本女性の資質であり、特別はやしたてなくてもいい。
2	そういう意見が偏見であり、女性自身の偏見をなくすべき。
3	出産後一旦離職すると、再就職の機会が極端に減ると思う。
4	進出しようと思っている人はしている。昔とは違う。
5	基本的に参画したいと望んでいる人が少ないのではないか。

No	４０歳代・女性
1	男性は、仕事に専念できる環境にあるが、女性は、家庭のことでいっぱいで、雑事に追われ、ゆとりがない。
2	男性に比べて女性は、結婚すると妊娠・出産と体調や環境が激変します。たとえ短い期間でも大事な仕事から距離を置かざるをえません。そういう状況が影響するのではと思います。
3	年代で意識の格差が大きすぎる。
4	両性で子どもを育てるための職場、社会のシステムやサポート体制が不十分。

No	５０歳代・男性
1	男性の女性への理解が足りない。
2	女性は、子どもにふりまわされる。

No	６０歳代・男性
1	女性は家庭があるから、仕事中心に没頭できないから、無理がある。最後まで責任がとれないのもある。側面からの支援で良い。
2	必要ない提案が多い。
3	能力不足（判断能力の幅が狭い）

No	６０歳代・女性
1	女性の考えの中に「女性だから…はできない」「できなくて良い」という風習があり、また、男性の中にも「女だからでしゃばるな」みたいな考え方が奥にある気がする。
2	政策への無関心さ。
3	先進都市と地方都市の考え方の違い。
4	いくら女性が能力を発揮しても受け入れられない現状が今だにある。

No	７０歳以上・女性
1	田舎の女性はまったく反論しない。陰で言う。

問 19

あなたは、問 18 の①から⑫のような行為をされたとき、どうしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

No	20 歳代・男性
1	気にしなかった。

No	３０歳代・男性
1	相手方の親族に相談した。

No	３０歳代・女性
1	親に来てもらって説得した。
2	心をシャットダウンしている。他人だと思うようにする。

No	４０歳代・女性
1	自分の心の中で消却した。あきらめた。

No	５０歳代・女性
1	若い頃は恐かったが、年齢と共に強くなった。性格的なものだと思い我慢した。

No	６０歳代・女性
1	ずっと暴力を受けてきましたが、「このくらいでは」と思いずっと我慢してきました。

問 22

そのようなとき、あなたはどこか（誰か）にそうだんされましたか。
次の１から９の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

No	20 歳代・女性
1	夫婦の問題だから。

No	４０歳代・女性
1	夫婦喧嘩だったから。

No	５０歳代・女性
1	親に何度も相談したが、親のメンツなのかどうか、世間体。わが子の苦しみをわかってくれなかった。みんなそうやって来たんだから…と。
2	知人に話しても、皆同じような言葉、暴言を言われていた。

No	６０歳代・女性
1	民生委員

問 23

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
次の１から９の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

No	20 歳代・男性
1	夫婦間のけんかだから。

No	20 歳代・女性
1	明らかに原因が自分にあったと認識していたから。

No	３０歳代・男性
1	たいしたことではないから。

No	３０歳代・女性
1	他の人の通報により警察がきてくれたが、痴話げんかだと言われたので、信用できなかった。

No	４０歳代・女性
1	相手は変わらない。自分は自分の方針を曲げたくないと考え、自分のやり方を生活の中で貫こうとおもった。
2	夫婦生活のことは相談しづらい。
3	時間が経てば相手から話しかけてくるから。
4	自分自身が悪いのだからと思い、自身を責めて耐えて我慢していた。
5	誰に言ってもわかってもらえないと思った。

問 24

あなたが、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたのは、いつですか。
次の１から８のなかからあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

No	３０歳代・男性
1	自分の親が金の無心をするようになってから。

No	４０歳代・女性
1	仕事を変えたとき。

No	６０歳代・女性
1	更年期のとき。

問 26

あなたが相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。
次の１から８のなかからあてはまる番号に○をつけてください。（○は１つだけ）

No	20 歳代・女性
1	そのときだけの感情だったから。
2	当時は自分に非があると思っていたから。

No	３０歳代・男性
1	子どものため

No	３０歳代・女性
1	子どものため
2	少しずつ変わってくれると思ったから。
3	自分に相手が必要だから。

No	４０歳代・男性
1	子育てに必要

No	４０歳代・女性
1	子どもがいたから。
2	子どもは２人で育てようと思っているから。
3	ささいなことだったから。
4	お互いに悪いところ、良いところがあると思ったから。

No	５０歳代・女性
1	子どもがいたため
2	暴言が何日も続くのではないから耐えられた。
3	冷静になれば良いと思った。
4	別れたいと相談したら、自殺すると言われ別れられなかった。

No	６０歳代・男性
1	夫婦なら誰でも１、２度は経験していることで、たいしたことはないから。
2	子どものことを考えた。

No	６０歳代・女性
1	子どもがいたので、子どもを残せられないと思った。

No	７０歳以上・女性
1	子どもがいたから。

問 28

男女間における暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。
次の１から 12 のなかからあてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

No	20 歳代・男性
1	ストレス社会にピリオドを打つ。
2	ストレスをなくすカウンセリングを受けさす。
3	被害者が賢くなる。
4	警察がもう少しがんばってもらいたい。

No	20 歳代・女性
1	すぐに逃げ出せるようなシェルター等を増やす。

No	３０歳代・男性
1	暴力をふるう人は、一生治らないので、かかわらない、近づかない、つき合わないことを徹底する。ひどい場合は、国が責任を持って隔離するぐらいの勢いが必要ではないか。県、市、人権の議論もあるだろうが、現実、そんなことも言ってられない場合もある。
2	110 番、119 番などのように覚えやすい緊急電話番号の設置

No	３０歳代・女性
1	暴力をふるった人に対するカウンセリングなどの療育
2	男性に圧力を加えないで、主夫を増やすべき。ストレスによるものが大きい。

No	４０歳代・男性
1	理性の問題で、人は簡単に変われない。
2	子どもの前で、人の悪口を言わないようにする。
3	家事ができない女性を男性は、潜在的に受け入れない等、レベルの低いことが多いので、男性の意識を変える。
4	地域がもっとコミュニケーション力を高める必要がある。そのためにも個々の生活にゆとりを持たせる政策が必要
5	「自分もこうやって育てられた」という理由および経験で「下の世代」に暴力を振るうのではないでしょうか。家庭学校など教育の場で暴力による指導という連鎖をなくしていくことが必要
6	親が悪口を言ったり、しつけだと言って叩くから子どももすぐ手を出すようになるのでは。親になるための教育が必要なのではないでしょうか。
7	心的要因が何なのか、心の不安定をどう解消するか。

No	４０歳代・女性
1	気軽にカウンセリングを受けられるような環境を整える。
2	子どもに対して無関心な子育てをしない。人間形成の基本は、まず、家庭から。精神的にも経済的にも安心できる家庭づくり
3	性格や生活環境だと思うので、予防は無理だと思う。
4	早い段階での警察の関与を法律で決める。
5	女性の意識を高める。男性に依存しなくてもいいような精神力を養う。
6	もっと経済成長し、豊かな暮らしができるようにすることが先決
7	家庭で親が「キレる」姿を見せるのが悪いと思います。幼少体験は大切です。

No	５０歳代・男性
1	職場でも必須研修にして年２回程度受講させる。
2	法による罰則の強化
3	コミュニケーションのとりかた等のサポート側を充実させる。

No	５０歳代・女性
1	暴力等本人が悪いことをしているという自覚がないと思うので、防止策などないと思いますが…。
2	もって生まれたものなので、教育を受けても変わらないと思う。
3	男の子に対する親のしつけが甘い。
No	６０歳代・男性
1	別居させたら良い。

No	６０歳代・女性
1	家庭環境が重視されると思う。夫婦間、親子間の対話
2	相手と別れたらいいと思う。
3	暴力に対する教育の中身の検討が必要。社会全体で幼児教育から取り組む。
4	暴力的な人とは早い時期に別れるべき。

No	７０歳以上・男性
1	お互いに他人を思い合う、尊敬する心を育む教育こそが大事と思う。道徳教育が必要と思う。

No	７０歳以上・女性
1	お互いに思いやりの気持ちを持って二人で一人前と思って生活する。

問 29

テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。
次の１から８の中からあてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

No	20 歳代・男性
1	男性があまりにも無慈悲であることに残念でならない。

No	３０歳代・男性
1	正しい情報ならもっと流す必要がある。
2	現実と混同しなければよいと思う。逆に見て発散したほうがよい。
3	コンビニ等の店舗における陳列の仕方

No	３０歳代・女性
1	過激なＡＶを罰するべき。売らないようにする。
2	夢と現実が区別できる年齢になるまでは与えない方がよい。
3	きちんと性に対する正しい教育をすべき。フィクションだとちゃんとわからせる。

No	４０歳代・男性
1	規制ばかりの社会ではつまらない。
2	性について表現されたもの（出版物、インターネットなど）について、あまりにも野方図である。18 歳以下の子どもの目に触れないように規制を強化すべき。逆に、成人には自己責任で、それらのものを自由に接する場を与えてもいいのではないかと思う。
3	昔に比べて、規制・規制で、逆にもっとオープンにしたほうがよいと思う。隠れてこそこそといったような人間形成につながりかねない。

No	４０歳代・女性
1	子どもの目に映る映像が子どもに錯覚を起こさせ、信じ込ませてしまうので、許せない。
2	性暴力について軽視していて、悪い意識がない。
3	性暴力事件の加害者のその後の生活（刑に服している）等も具体的に出していくことも必要
4	何でも「表現の自由」というところに問題を感じる。

No	５０歳代・男性
1	制限する。
2	メディア規制によるデメリットを考えるべき。メディアの規制は危険。性犯罪の多くは男性から女性に対して行われるので、原因は、男性社会であると考えられる。

No	５０歳代・女性
1	家族でテレビなど見たときに理解するまで話し合う。

No	６０歳代・女性
1	雑誌等への掲載は、一切廃止すべきだ。

No	７０歳以上・女性
1	事件の引き金につながるのではないか。
2	少女マンガなど過激すぎる。
3	女性が弱い立場で表現されるので嫌になる。

１０　男女共同参画に関する意見・要望等（自由意見）

〔ご意見欄〕　最後に、この調査についてのご意見・ご要望がありましたら何でもお書きください。

寄せられた多くの意見の中から、本調査に直接関係のないものや要望、重複意見等を除き、一部を紹介する。

No	20 歳代・男性
1	鹿児島は特に男尊女卑が強いと言われているが、地域社会では今でもそれがあたり前のようになっているので、その中で生活している子どもたちは、しっかり教育を行わないと気づきにくいと思う。学校の先生ではなく、男女共同参画などの専門の講師を立てて、保護者と子どもを対話させながら講義をすると良いかも。と思いました。
2	男女がなぜ平等でなくてはならないのか。まず、そこをきちっと説明してほしい。男には男の、女には女の、また人、一人ひとりには、その人の特長がある。男女平等などという前に、皆がその特長を生かすために努力をするべきだと思う。問題に対する解決は、対応ではなく原因をしっかりとらえることだ。個人が本質を捉えないと根本は何も解決しない。
3	都合のいい場合のみ「男女平等」を推進するのは理解できない。できること、できないことを整理し、明示した上で社会全体の賃金、能力、幸福等が最大化するよう行政は取り組むべき。
4	実際、この不景気の中、産休をとることなんて、公務員でもない限り無理である。特に中小企業は、人件費などの削減に取り組んでいるのに（そうするしかない）その中、何箇月もの休みはいただけないのが現状ではないでしょうか。ですから、男女平等も良いが、子ども手当などもっと充実させてほしい。女性が働かなくても良いように。男性が仕事を、女性は家事を。それができるように社会を動かしてほしいと思う。

No	20 歳代・女性
1	職場においては、男性が上位で、女性が雑務といったところが多い。同期でも男性が優位に立ち、出世も格段に早い。一方、女性はいつまでたってもお茶汲みやコピーとり、上司にセクハラされても、くびになったら仕事がないからと我慢している人が多い。この現状が変わることがあるのでしょうか。
2	男性は、女性が外に働きに出ていても、家事育児をするのは女性だとあたり前のように思っていると思います。もちろんすべての男性がそうだとは言いません。女性は、家に帰ってきても休めるひまがありません。同じ女性である義母に相談しても息子をかばうばかり。育児ノイローゼ、育児放棄など男性の協力がなかったのではないでしょうか。男性の家事育児への協力がほしいです。
3	性教育不足を感じます。過激な DVD を見て、誤った考えを持つ男性がいます。女性が自分の体を大切にし、男性が女性の体を思いやり、命を大切にする授業を中学生のときからきちっと教えてほしいと思います。
4	男女は別に平等じゃなくても私はよいと思う。実際、平等を望む女性はそんなに数多くいるのでしょうか。女性は、子育てもあり、社会で働くことは男性よりももちろん少ないですが、その理由は、きっと母性本能があるから…。男性が働いて女性が支える。そういう古風な環境が家庭生活がうまくいくと思います。日本の離婚率は、女性が前に出よう出ようとするのがいけないのでは？男性を立てて感謝すべきだと思います。もちろん女性がパートで多少働いたり、男性が父親になったとき、子育てに協力したりそのようなことは必要です。現在男女平等になったって不景気ですし、女性が働くところはな

No	20歳代・女性
	いのでは？
5	男性と女性は別。なんでもかんでも平等にする必要はないと思う。最近は平等や差別などよく聞くが、あまり興味がない。男女それぞれ役割がある。女性が社会に出て、男性と同等にできるとは思えない。男女平等にしようという最近の流れに疑問を感じる。

No	３０歳代・男性
1	基本的にお互いに尊敬と感謝の念があれば、男女平等、暴力根絶となる。尊敬と感謝の念をもつよう道徳教育が必要。唯物教育から唯心教育への転換が必要です。
2	男女平等は、数的な割合だけで測れるものではない。男も女もその特性を十分に理解し、お互いに助け合うことが大切である。（必ずしも分担がよいとは思わない）しかし、性によって何かの可能性や選択肢が狭まることは、決してあってはならないことである。
3	しっかりとした道徳教育を受けていない親たちが、子どもに対してしっかりとした教育ができるだろうか。「男女共同参画」という言葉が表に出てきて何年になる？今だにこの言葉を元に作業（調査）をしないといけないことに残念である。国政が今だに変わらないのに個人レベルで何が変わる？
4	世の不況のため、専業主婦は少なくなっていると思う。亭主関白ほどではないが、女性格差は家庭では永遠のテーマだと思う。
5	男性と女性は、そもそも違う性別です。役割が違ってもおかしくありません。お互いを尊重し、理解する努力が必要です。一人一人では生きていけません。支え合っていきましょう。
6	人間同士という意味では、男も女も平等であってしかるべきとは思いますが、男性、女性として生きていく上で、すべてが平等である必要もなければ、できるはずもありません。生物的にはっきりと役割が違うからです。大切なのは、その違いを互いに認め、尊敬しあうことです。職業、役職についてなども女性を多用すれば良いというわけではないはずです。適材適所であれば、女性であれ、男性であれ、どちらでもよいのです。「男女平等」という言葉に振り回されて、ちぐはぐな形になりがちな雰囲気が今の世の流れのように思います。もっと男女とも自然体で、もっと自由であっていいと思います。どんな形でもそれが‘自分らしく’あれる世の中が本当の平等であると思っています。
7	暴力を受ける側にも問題がある。相手に顔色でどこまで言っていいのかどうかわからないのだと思う。する方とされる方、両方に問題の検証をすべき。性的な問題も強要するしないは、難しいと思う。恋人夫婦間は、当然であると思うが、それに対して浮気して解消することが良いことか悪いことか。断られて浮気をするのは当然ということになる。

No	３０歳代・女性
1	鹿屋市が男女共同参画社会の実現を目指した取り組みを行っていることは、全く知りませんでした。女性の立場として、少しでも多くの女性が働ける職場が増えることを願うばかりです。鹿屋に男女関係なく仕事の求人が多くなるよう取り組んでいただきたいと思います。
2	詳細な質問であり、普段あまり深く考えることのないようなテーマがあって、今回初めてそのことについて考えるいい機会でした。
3	男女共同参画に関する調査や催し（１度だけ講演会に行きました。）を続けることで、大きな変化はなくても少しずつ少しずつ何かが変わってくると思います。あきらめるこ

No	３０歳代・女性
	となく、これからも続けていってほしいと思います。２人の男の子を持つ私としては、私自身も学びを深め、小さいうちから多くの対話を持ち、自然な形で教えていきたいと思います。そのためにも、誰でも気軽に学べる、知ることのできる場、機会を与えていただければと思います。
4	職場内においては、女性だからといって不平等に思うことはなく、男性の方が向いていること、逆に女性のほうが向いていることの仕事の内容があると思っています。各々が自分に向いていること、得意なことを尊重しあえる職場の雰囲気づくりが必要と思えます。社会の中においてもそうでありたいと思います。
5	男女平等といわれていますが、性の別はどうしてもあると思います。もっと男女平等であるべきことがわかりやすく説明されたら良いと思います。
6	仕事面での女性の意見、家庭での女性の意見など、少しでも良い方面に改善されれば、子どもに対しても他人に対してもゆとりがもて、生活に活かされると思う。会社での有給は何のためにあるのか？休みにくい会社が今だにあることに不満で、人間関係のトラブルにつながると思う。
7	昔よりは、だいぶ女性が社会に出て活躍してきてはいるが、家庭の面では、まだまだ女性だけが大変でバタバタしていることが多いと思う。男性の意識も大事だが、男性が家庭を手伝えるといった状況にないのだと思う。一緒に家事・育児をしたくても朝が早かったり、夜が遅かったり、結局、仕事の時間で融通がきく女性がせざるを得ないところだと思う。社会（会社）の制度やこれまでのあたりまえという意識が変わらない限り平等というのは難しいことだろうと思う。昔ながらの歴史が作り上げてきているので、選択性ではなく、決め事として法律が代わらない限り、海外のような男女平等はなかなか上手くいくことはないと思う。
8	まだまだ世の中は男社会だし、世間の「男の人は仕事に専念して、女は家を守り、家事は女がするもの」的な固定観念が抜けきれない世の中だと思います。まず、政治や制度が変わって、育児休暇を男の人がすすんでとれたり、育児休暇後の女性のポストが保障されるような世の中に、意識そのものから根こそぎ変わっていかなければならないし、仕事を優先しないと出世できないような世間の悪いムードがなくなるようにしてほしいです。（北欧の制度とか見習ってほしいです。）
9	鹿児島は特に、男性の方が優位な立場にあると思う。特に昔の人は、「女は男をたててひかえめにすることがあたり前」と考えている人が多いと思う。
10	平等は良いと思うのですが、男女不平等の方が結婚、出生率は上がると思います。
11	家事・育児の負担が女性にのしかかり、離婚を考えるとき、専業主婦はお金がなく、仕事もなく、先がみえない。男性よりも女性のほうが離婚後の人生が不安である。
12	女性も政治や行政の活動について勉強すべき。自分が勉強して努力しないと自分の生活も良くならない。そんなことをメディアは教えるべき。
13	DV という言葉がメディアから聞かれるようになってからは、ほとんど DV 行為はなくなった。なので、どういうのがＤＶだというのをもっともっとメディアから発信してほしい。多分、『自分の行為がＤＶだと知らない』からしてしまうのだと思う。『こういうことをしたらＤＶだ』と知れば、ちゃんと考えるのではないだろうか。

No	４０歳代・男性
1	制度の充実は図られてきたが、日常生活の中での意識、生活習慣が追いついていないような気がします。ただ、今後は少しずつ意識改革も図られてくると思います。性差別の克服（男女共同参画社会づくりの推進）を活力ある次世代の社会づくりのために必要なこととポジティブにとらえて推進していただきたい。また、他の差別（障がい者差別、

No	40歳代・男性
	ハンセン病差別、部落差別など）の克服についても、積極的に啓発をすすめていただきたい。その際には、その解決のために活動している多くの団体の意見を聴くことも必要ではないでしょうか。
2	もっと人間形成のための小・中・高校の教育、対人間に対する教育に力を入れてください。原点はそこにあるんじゃないですか？

No	４０歳代・女性
1	男性とか女性とかで政策を語ることはないのでは？人間として困っているものに対してやればいいと思う。
2	男女平等といいますが、職場では男性優先、家庭では家事、学校行事などは多分、ほとんどの家庭で女性の仕事になっているのではないでしょうか。多くの女性のかたは、朝起きてから夜寝るまで、仕事をしているのと同じ状態だと思います。会社では男性と同じように働いても給料は低く、休みをもらうこともためらわれ、学校行事など一度も行けない年があるような環境で、子どもの病気のための退職。外で働いていても、家事は妻がすべてするのがあたり前のように話す主人に、イライラし、子どもにあたったりし、主人に文句を言われ、何の楽しみもない毎日で、男女平等なんてどこにもないと思います。
3	元々、男と女しかいないこの世界、協力なしでは社会はなくなってしまいます。性の違いを意識し、協力できるような社会であってほしいと願っています。お互いの不足の部分を補なえるような平等意識が必要だと思います。共同ではなく、協同かなぁ。女性が社会で活躍することは、とてもかっこいいことだと思います。中には、家庭を持って両立しているすばらしいかたもたくさんいます。しかし、子どもの気持ちがおきざりの保育支援、私はあまり好きではありません。せめて、大切な０～３歳まで、子育てに専念できる社会であったらと思います。男も女もしっかり子育てし、次の世代をつくれたらいいですね。
4	一番の格差は、高年代の方々の意識によるものだと思います（地域社会～国政まで）。また、共同参画なのに、母子家庭への優遇はあまりにひどい。共働きで懸命に生活設計をたてている方々への配慮も必要。女性だけを守りすぎているところも多いので、女性も自立できるようなシステムを考えていただきたい。
5	私の職場は女性が多い（看護師）ので、性別により処遇が異なることはないと思います。賃金にも性別によって格差もないと思いますし、男性看護師でも管理職、昇進、昇格されています。しかし、一般企業は、このようにはいかないかなと思います。現状では、男性の方が様々な分野で優遇されていると思います。その分、責任感やプレッシャー等は大きいのかなぁ。男女平等って昔から言われていますが、理想と現実はなかなか難しいですね。
6	男女平等にも時と場合があるのです。母親が安心して育児するために、男性（父親）の仕事、収入が安定しているのがとても大事です。有能な女性が男性の仕事職場をとってしまったら…。かわいそうな家庭をつくってしまうことにならないでしょうか？？ お父さんを中心に家族が安心して暮らす社会で、やさしいいい子も育ちます。結婚した女性は、家庭を大事に無理のないよう働いたらいいと思います。男性（父親）が仕事に就けない状況が一番深刻です。
7	まだまだ男女平等とは言えないが、それもありかなと思うこともあります。個人的に

No	40歳代・女性
	は、男性が働き、女性は家事をすることが理想のように思うこともあります（特に子育て中）。経済的余裕があれば、子育てに専念したかったと思うことも多々ありました。最近は、女性が強くなり、世の男性は気の毒だと思ったりします。
8	常々、世論調査に対して感じることに、「平等」意識を問う設問への答えにくさがあります。男性対女性と単純に性別で二分され、優遇かそうでないかという尋ねられ方がいまだになされるかと思うと、本質的な問題と感じられている部分が表出しないまま、感覚上の空論に終わるような気がしてなりません。どんなときに女性として、生きづらさ、社会生活上の不利益を感じるのか、もっと具体的に、誰もが感じられ、こたえたくなるような問いかけの方法はないものでしょうか。それらが明らかにされない限り、生活の中にかくれているジェンダーの課題は、共有され解決されにくいように思います。回答の集約には大変興味があります。地域性がより映し出されるとすれば、今後の市政の展開も大いに期待したいものです。
9	ひと昔前からすると、男性が育児や家事に参加し、職場内でも男性が育児休暇を使ったりできています。政治家や役所には、まだ、古い考え方の方もいますが、男性、女性の別なく、障がいがあるないの別なく、それを個性と考えられる社会になってほしいです。
10	親が暴力をふるうと、それを見ていた子どもは、暴力があたりまえのことだと思うようになるのではないのか。収入が低い家庭に多いと思う。お金がないと暴力などになることもあるのではないのか。
11	自分の周囲で奥さんが子連れで逃げて、「旦那さんのＤＶだった」と聞くことはよくあります。しかし、その後、残された旦那さんの単身生活の様子を見ると「本当にＤＶだったのかなぁ」と思う程、つつましいものです。住宅ローンを抱え、動くに動けぬ出ていかれた側の男の人をケアすることも必要かと思います。自殺も心配しましたし、最悪、自宅もろとも焼身自殺となると、地域で取り組むべき対策も行政の手引きがほしいものです。
12	いろいろな理由があり、離婚したいと思っても、今の法律では女性が不利になることが多いようです。裁判で決まっても、実際、きちんと支払いをする人が少ないので、それをどうにかしてほしいと思います。不貞行為をした者に対して、もっと厳しく罰すべきだと思う。そうしないと弱い者はいつまでたっても救われません。携帯電話の利用によって、不貞行為が増えて、これからもっと離婚も多くなると思うので、女性や子どもだけが不幸にならないような法律を考えてほしいと思います。
13	もっと身近になって相談にのってくれる方、窓口がほしい。ＤＶ等は、同じ経験をした方が相談にのってくれてアドバイスして欲しい。
14	できれば、シェルターとかにいる方にＤＶについてのアンケートをした方がいいと思う。

No	５０歳代・男性
1	根本的に制度を改めるべきだと思います。子どもに対するしつけではないでしょうか。男女関係なく家事を手伝わせるとか必要でないのかなぁ。女性の方へよく意見を聞いたりするのですが、「主人に聞かないとわかりません」という答えが返ってきたりします。自分の意見はないのでしょうか？女性も自分の意見を持ち、もっと前へ出てもいいのではと思うことがあります。

No	50歳代・男性
2	私共の家庭では、お互いの仕事分担を決め、仕事、家事を行っております。今般、女性は子どもを生み育てるという大きな仕事がありますが、それも経済的な事を含め現状では就職難の問題、子育ての心のゆとり、地域社会のかかわりなどむずかしい事ばかり。老いてゆけば介護の問題、親を見るには仕事との両立はなかなかむずかしく、どちらかが当然犠牲になる。仕事をやめるか、簡単な部署へ移る。大黒柱である男性はそれはなく、必然的に女性の方がそうなる。これではいつ男女平等はくるのかと思ってしまう。それでも皆一度は通る道と思い、あきらめてしまうしかないのか。なにもかもが男女平等というわけにはいかないので、男性にできる事、女性にしかできない事、意見ははっきり言える事、分担を決めやっていけばいいのではないでしょうか。
3	男女共同参画を重んずるあまり、男の権威が薄れかけて残念
4	深夜作業、危険作業、有害作業、専門的な機械作業、過酷な作業、極めて汚れる仕事、力仕事、不定期的な日程、これらは、女性ではできないのです。底辺の労働は、こんなのが普通です。机とイスで仕事をするのは、女性の割合を増やさないと女性の上位、自立は促されません。
5	九州出身者ではないが、自分の育った土地と比べ鹿児島は、封建的と見える。
6	鹿児島は、まだまだ、男尊女卑の風習が残っているように思います。家庭生活は、お互いに助け合う事で成り立つと考えます。男女の区別をすること自体、今の時代には、全く意味の無い事だと考えます。
7	Ｆ５の職業が大ざっぱであり、もっと細分化することにより職場、職種等での男女共同参画への取り組みへの温度差をより具体的に知ることができるのではないでしょうか。たとえば福祉の現場では女性上位であり、若い男子職員に対する言葉でのパワハラ、セクハラは、日常茶飯事だと思います。
8	以前、近隣から子どもを叱責し、激しく泣く声が聞こえ、どこに相談していいかわからず、警察や市役所に電話しましたが、はっきりとした連絡が不明でした。子どもの虐待は、夫婦のＤＶが元のことが多いので、子どもの虐待１１０番のようなネットワークを早急に作成する必要があると思います。（鹿屋市において）地域全体で子どもを見守る姿勢が必要です。そんなネットワークができれば、参加して子どものために役立ちたいと思っています。また、ＤＶ被害の寺小屋的な女性の駆け込み寺も必要です。

No	５０歳代・女性
1	もう少し女性の考え方を取り入れてほしい。子どものために女性は頑張ろうとするが、男性は、躾をされていないため、家事、育児、介護も女性に押し付けて自分はしようとしない。女性には実家の親の介護もあり、休む暇もない。主人の協力がほしい。
2	今からの子どもたちには、家事等も性別なく身につけて育ててほしい。でないと、いつまでも男性の協力が得られない状態が続き、女性は、結婚したくないという気持ちが強くなります。
3	若者の就職難が語られて久しいですが、恒久的な職場を得られた人々は、男女区別なく努力して欲しい。男女と区別することなく、人間として対等に社会からの評価がされることが良いと思います。得られた地位に安穏とすることなく、様々な職場で励んでゆかれることが、地域や社会にとっても良いことだと思います。
4	子どものときから私の家では、掃除にしても料理、洗濯等にしても、男だから、女だからと言われた事はなく、手のあいているものがするというルールで育ってきました。嫁いできた鹿児島では、主人はあととり息子、姑には「なぜ、こんな事を息子にさせる、嫁の仕事だ」と言われ、びっくりしました。他県に住んでいたときには、掃除も洗濯もしていた主人は何もしなくなりました。私たちには子ども（男の子）がいますが、家事

No	50歳代・女性
	全般仕込みました。
5	高齢化が急速に進む中で、「介護予防策の充実化」は、急いで取り組むべき課題だと思います。病院などに頼らず、生涯元気で生活できれば、本人にとっても幸福なことですし、財政面においてもおおいにプラスになると思います。女性が家庭を持って仕事に就く場合、男性に比べて女性への負担がかなり大きいように感じます。殆どの女性が、家事・育児との両立で大変なのでは…。少子化対策のうえでも、保育施設の充実化は急ぐべき課題だと思います。仕事に就きたくても就けない人がいる一方で、企業などでは、一人に課される業務量が年々増えているように感じます。ワークシェアリングをうまく利用し、社会全体が生活をレベルアップできるような仕組みを導入できないものでしょうか。例えば、働きたくても時間が制約される人と、報酬が少し減ってもいいので時間がほしい人を、ワークシェアできないか。今後は、働き方ももっと多様化されていいのでは？ 家事は女性の仕事と決めつけている人が、女性の中にもまだまだ多く見受けられます。女性が、男性と同様に働いている中（業務は男女の区別なし）で、男女共にもっと意識の改革が図られるべきだと思います。今回のような調査を機に、少しでも改善の方向へ持っていっていただけるとありがたいです。
6	最近は、女性もしっかりとした仕事を持ち、意見や意志をしっかりと言える人が増えて、強くなったと思われているが、社会通念はやはり男性社会だと思う。鹿屋市に女性の市会議員が少ないのは、その例だと思う。家庭生活では、女性もはっきりと意見を言えている家庭もあると思う。それは、男性の度量がちゃんと女性を認めているからではないかと思う。男女平等はやはり、家庭や学校で、小さい頃からしっかりと教えていかなければならないと思う。子どもは親を見て育つので、とても家庭における教えは大事だと思う。
7	「男女平等に」という問題は、簡単に解決できる事ではないと思います。例えば、仕事では体力的にはどうしても男女に差が出ますし、それを平等にするとしたら、女性としてやりにくくなることも考えられます。まだまだお年寄りが頑張っておられる地域などでは、固定観念から外れる事もあります。家庭において、昭和の父親が大黒柱としてゆるぎない力を持っていた時代にもそれはそれでいい面もあったように思います。いずれにせよ、「お互いに思いやりの心」、「相手の立場になって考える力」が必要なのではないかと思います。
8	子どもを預ける場所があれば、女性が仕事をやめず、続けられる環境になり、男女共に協力すると思います。
9	私は女性ですが、最近、離婚が多くなっているのは、女性に優遇されすぎているからではないでしょうか。離婚しても母子年金や子ども手当等で生活していけるため、簡単に別れてしまうのでは…。自分のことだけではなく子どものことも考えて相手方と何回も話し合いをして、元に戻れたら良いと思います。相手を攻めるだけではなく、自分を見つめなおし反省することも大事だと思います。
10	女性として、結婚して幸せに暮らしていける人は、私からするとキセキに近い。夫の暴力で離婚してから必死で子どもを育てました。児童手当、母子貸付、現在は障害者年金等、行政にはすごく世話になり有難かったです。そういう制度があることを知らない人も多いです。
11	あの頃、助けを求め、相談できる所も相談できる人もいなかった。親が周りを気にせず、理解してくれたならと思う。親に反してまで、離婚はできなかった。今の時代は、相談できる所がある。しかし、聞いてくれるだけで、助けてくれるわけじゃない。自分

No	50 歳代・女性
	の事は、いざとなった時でも、誰も頼らず、結局自分で決めるしかないのだ。親の子育てしだいで、このような夫がやがては出来上がるのだと痛感いたします。私は、夫と同じ人間が出来上がらないために、自分の子どもだけは将来を思い、人間としてあるべく家庭を向いている夫であり、妻をお手伝いさんではなく大事な人と認め、妻も子どもも一番目に大事な人で、愛してくれる人であるように子育てをしました。夫となった息子は、家事・育児を手伝っています。女は、結婚で一生が決まると言っても過言ではないと思います。
12	暴力を受けた本人が、「続かない、もうだめだ」と思ったら、離婚するしかないと思います。
13	暴力は、あってはならないことです。なかなか直らないし、受けた本人でないと痛みはわからないと思います。
14	この世の中から暴力がなくなり、性的犯罪がなく、住みよい生活ができるようになればよいと思います。

No	６０歳代・男性
1	男女平等であるべきです。意識に構える問題ではない。
2	男女共同参画とは、その場その場の断片的な現象としてとらえても、どう改善できるかは別のように思う。ただ、データ収集にはよいかも。要は、幼少期から小学、中学、高校と常に男女が共に活動し、考え、何でも造り上げる連帯感、達成感の醸成の積み重ねが必要ではないでしょうか。
3	人間皆平等が基本。歴史的に男性優位の封建的な考え方があるが、最近はだいぶ女性の社会的な進出も目立ち、改善されてきていると思う。能力的には、女性も男性も変わらず、りっぱな女性もたくさんいる。女性も積極的にいろいろな分野に参画し、社会も平等に受け入れる体制になってほしい。そのお手本として公的機関が率先して同じ能力であるなら、女性を登用したらよいのではないだろうか。
4	アンケートの結果に基づいての資料作成だけでなく、市民に対しての良き相談資料、および地域の会議等に利用してもらいたいです。
5	平成 20 年頃の米国による日本空襲において、グラマン機に女性パイロットが搭乗していたという話を聞いています。今から 60 有余年前の話ですが、最前線にも男女区別なく、国を守る兵役としての任務が与えられたのです。平和な日本にあって、もっと女性が街頭に進出すべきです。バス、電車、航空機、タクシー等、地方公務員の配置増を望みます。後方支援は女性の役目というのは、もう一昔前の話です。不況で男性の職場も減少にあって、人口の半数以上、平均寿命も長い女性に活動の場を増やすのは、今後、日本の大きな方向性を決める課題だと思います。
6	女性の地位はかなり向上し、男女間はかなり平等化はしているが、いくつか問題点はあります。１　子どものことを考えない女性が増えてきている。不満だとすぐ男女共に離婚する。２　女性の権利、意見（不満）ばかり言う人も出てきている。３　社会的モラルを考えない人が出てきている。車を運転しながら化粧やくわえたばこをする人（女性）、障害者駐車場に平気で止める若い女性。４　セクハラへの認識が男女共に甘い。男女共、相手に対して思いやったり、人を不快に傷つけることに対する感覚が甘い。男は何でこれがセクハラかという人が多い。女は、男へのセクハラを考えない人がいる。（男はワイ談をするとみなしている人）５　女性の中には、女性は人を世話する役目と考えて、おせっかいな世話をする人、口出しする人、平気で人のことに踏み込んでくる人もいる。６　職場の上司で、社会の荒波の中でがんばってきたという自覚が強いの

No	６０歳代・男性
	か、自分はえらいと思っている女性もいる。増えた。７　子どもを愛せない母、虐待する母が増えてきているが、父、夫にも責任はある。男は力仕事であるいは遊び歩いて子育てで母親を苦しめている場合が多い。母が子どもに対し、子どもの人格を対等というよりペット、持ち物みたいに思っている人もいるのでは。子どもの食事は、インスタント、惣菜、外食が増えているので、食育やしつけを見直す視点もいる。

No	６０歳代・女性
1	女性が強くなったと言われているが、表面的なもので、中身はまだまだ、男性中心である。特に田舎では、「女のくせに」という風習が残っている。また、女性の社会進出も多くなったが、内容は男性の補助的な仕事が多く、優れた女性でも管理職まではなれず、管理職の数は、男性の 4 分の１くらいだと聞きます。私が思うのは、過去にたくさんの女性が犠牲になり、選挙権や社会進出、又は男女同権、機会均等法などを勝ち取って、現在女性は、昔よりは優遇されて生活できています。…が、残念なのは、女性自身が目ざめていないところがあります。女性にはまだまだたくさん、過去の歴史の女性の悲惨さやみじめさを勉強していただき、美しく強い人間になり、世の中を正してほしく思います。女性の校長先生、大学教授、女性の市長、町長、女性の総理大臣が将来たくさん出てほしいです。というのも、女性にはまだまだ能力があって、歴史から見てここ最近、やっと（戦後 60 年）その能力が開花されてきたところですから。かといって、男性が劣っているとか威張っているとかいうことではありません。男性の力強さと女性の優しさが融合してよい世の中になっていけば…と思う一市民です。
2	最近、女性の地位が徐々に上がっていると思います。周辺では、子どもが生まれたとき、女の子だったら喜ぶ現状があります。男性の方も頼りがいがあってすばらしい方もたくさんいますが、ちょっと頼りない方が多い傾向かな？と感じています。私も男の子がいますが、意志が弱いなーと思っています。男女を問わず、この社会は、住みやすい豊かな人々の集まりになればなーと願っています。
3	いろんな事故や事件がますます多くなっているように思います。事件においては、何年か前までは考えられなかったような身内間のことが、ものすごく多くなっているように思います。国のトップがいろいろな問題でなかなか解決できない。よい方向へ向かないことばかりです。それが、地域や社会、家庭にまで及んで、どうすることもできない事態になっているような気がしてなりません。なぜ、こんな社会になってしまったのでしょうか。こちらが聞きたいです。
4	子どもの成長は、今や家庭だけでなく、地域社会等すべての人が関わり、大切に育てていくべきである。夫婦が安心して社会参加できるには、子育て支援、日々の支援や楽しいイベント等参加する支援、妊婦の家事・育児の支援等、社会の経験した人の支援をお願いする等、ボランティア等、社会のしくみを作ってほしい。個人の力には足りないところが多く、限界があるので、市の力を期待している。私たちの意見を多く取り入れ、住みやすい健全な子育てのできる鹿屋市をめざしてほしい。
5	男女平等といっても、結婚し、子どもが生まれると、民間企業はまだまだ賃金が安く、共稼ぎをしなければならない状態で子育てをしなければならない。仕事が終わって家に帰っても、女性はゆっくりお茶を飲む間もなく、子どもの世話、食事の支度、洗濯、片づけと忙しく大変です。男性は、仕事から帰ると座っていたり、食事したらすぐ寝てしまったりと家事を手伝う人は少ないように思います。子どものときから家の手伝いをする練習を父親と一緒にできる環境を作ったり、学校の行事も父親が参加する機会を多く作ってほしいですし、企業も理解し、休みを取りやすい雰囲気を作ってほしいです。また、市のほうも母親が安心して働けるよう市の保育園も充実してほしいです。

No	６０歳代・女性
6	これからの世代が男女それぞれ平等になり、男女それぞれの役割がスムーズになるように願います。
7	安心安全な生活ができるよう、あらゆる面で対策をとっていただきたい。「心の貧乏」は年齢に関わらずしないような世の中に、私の願いです。
8	地域の自治会に関して、女性が発言すると周りから後ろ指を差される傾向がありそれ以来参加していない。
9	最近は女性保護のため離婚する人が多いと思う。子どもの幸福ではなく、自分を第一にする女性が多く、男性が子どもを育てる方には保護が少なく、あまりにも女性保護で離婚を勧めているような保護が多いので、女性が子どものために我慢しなくなっていると思う。女性の働くのは良いが、誘惑が多いと思う。社会全体が他の人の家庭をこわす人が多いと思う。
10	世の中道理がなくなり、理屈ばかりが通っている。平等の教育をしているが、世間（世界）中格差があり、格差があっても良いのではないか？実社会ではありえない。すなわち、教育が偏差値ばかりの頭でっかちを作り出しているから、社会がおかしくなっている。
11	質問に対して唐突すぎる面があり、回答に躊躇する場面もありました。男女共同参画問題を考えるのであれば、さまざまな機関の方々の意見を取り入れていくべきと思います。また、この調査をどのように施策に活かされるのか、皆目見当がつきませんが、住民意識の向上のみでなく、もっと行動に移せるような施策がなされることを望みます。
12	配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）の事案についてのアンケートの数が多かったので、現在は特に増加しているのですか。男女共同参画に関するアンケートだったのですが、調査をされる意味が少しわかりませんでした。地域も高齢者が増加することで、町内活動なども少しずつ減って、町内活動も委縮していき、しまいには町内の継続が難しくなっています。これもこれから考えていかれることではないでしょうか。
13	アンケートの結果を知らせてほしい。年代別によって考え方（常識、モラル等）の違いがあると思う。一緒に仕事をしていて感じているので。

No	７０歳以上・男性
1	この男女共同参画という言葉は、古くから言われていることであり、しかも、それが現在のことのようにも言われ続けられているということは何故だろうか。それには、いろいろな数多くの要因が含まれているものと思われるが、先ずは、個々人の持つ生活環境が異なり、また、社会的現象にも結びつくことが大きいからでもあろうか。社会や地域等における格差、人権の差別扱いなどのほか、夫々の無意識さ怠惰な心にもあるのかもしれない。特に近年における配偶者等に依るストーカーや暴力行為などの事件が数多く起こっていることでも実証されそうである。もし、市当局がこのアンケートのようなことに対し、真面目に取り組まれるのであれば、諸々な事態の要因を細かく分析され、根強く追求していくまでの努力と、市民に対しては絶えず啓蒙、啓発を行い、その場限りのイベントではなく、市民全体の意識の改革と昂揚が図られていくべき市政があることこそが、大事ではないだろうか。
2	今、周囲を眺めたとき、道徳観念が昔と比べ非常に差があると思う。つまり、思いやり、尊敬、助け合いの心がない。今、修身的な常識を教育の中で教える以外にないと思う。
3	女性も政治、経済等にもっと興味を持って社会生活をしてもらい、男性社会についていろいろと意見を言うことが良いと思われる。
4	男女共同参画、平等意識、介護、暴力防止等地域や組織で研修が計画・実施されても参

No	70 歳以上・男性
	加しない人が多い。また、そのような人に問題がある。そういう人をどうするか。メディアを活用した広報活動、啓発活動をしても目や耳を傾けない者も多い。それもどうするか！児童・生徒（小中高）時にこのことについての教育内容をもう少し取り組んだ方が良策では？
5	結婚後 40 数年、健康第一でお互い理解し、毎日を楽しく人生を送りたいです。
6	人は男のたくましさ、女の優しさという生まれながらの性を持ってこの世にあり。その性を社会の世に生かし、共に切磋琢磨し、共に励まし合い人生を終える社会をめざしたいと願う。
7	家庭円満をいつも夫婦で話し合い、今日まで生活してきました。幸せは他人が作るものではなく、自分で作るものです。
8	昔は、自分のことや感情をうまく表現できなくて、悪いとはわかっていても暴力をしたことがあった。今思うと、核家族の中で自分が家を守らなければと必死だったと思う。高年齢となり、介護などがお互いに必要になったとき、それが暴力なのか、虐待なのかわからなくなっている。
9	ＤＶ問題は、夫婦間の愛情の欠如か？離婚が多いが…。もっと話し合いが足りない。家庭では特に暴力禁止が原則。

No	７０歳以上・女性
1	市でも結婚する人を増やすようなことをして、子どもを増やし、少しでも少子化が防止できたらと思います。女性が働きやすい対策も必要だと思います。
2	問が難しく、70 歳後半には答え辛かった。せめて、60 代くらいまでにしてほしい。
3	男女共同と一口に言っても、社会的には男性優位が地域町内会でも感じられる。家庭内ではだいぶ改められたのがはっきりわかりますが、子どもの躾について、甘やかしが強く、自由のはき違いを感ずる。若い親たちのマナー、礼儀作法のなさにあきれることも多々あり。
4	今はあまりにも倫理観がない。理性で物事を判断しようとせず、しっかりとした家庭教育が大事ではないでしょうか。そこが基本になると思います。テレビの影響が大だと思う。
5	久しぶりのアンケート記入で、内容その他についても良い勉強になりました。